

工業

石油は、加州ロスアンゼルス附近に最も多く、ガソリンの精製も、加州は全米の一六%を占め、殊に油田が海岸に近き爲め、原油の儘東洋方面に輸出さるゝもの一日四萬六千バレルの割合である。

三州の製造工業は、所謂重工業、繊維工業等と稱すべきものは尠いが、石油精製、果實及び肉類の罐詰等で鑛産、農産関係のものが多し。

由來、合衆國と云へば、自動車と映畫とを聯想し、米國の映畫事業は、世界映畫事業の八割五分を占め、(金額で)餘りにも有名であり、従つて、ホリウッドが昔の巴里に代つて、現代世界流行の中心となつてゐることも、米國で見逃すことの出来ない一つである。

三州の貿易額は全米の一割三分に當り、大戰直後の約二倍に増加して居り、其の關稅區は、サンデエゴ、ロスアンゼルス、サンフランシスコ、オレゴン(ポートルランド)、ワシントン(シヤトル)の五箇所である。

貿易

三州主要輸出品 (一九三五年調、單位千弗)

關稅區	魚類	野菜	果實	石油	鐵屑	總額
サンデエゴ	一一三	八七	一一	五〇六	四	五、五二〇
ロスアンゼルス	九二	一一三	八、九七	四七、七九	七二二	九、〇四
サンフランシスコ	四、四三	三、三三	六、八五	一、九三	七六六	一〇、五三
オレゴン	四、三三	四〇	六、四七	五	七二二	一七、四七
ワシントン	四、七九	五五六	八、八七	八二	七四	四九、三三

全米計	總額	一	四、八八	一	三、〇九	一	六、〇七	一	二、五五	一	三、六、四九
-----	----	---	------	---	------	---	------	---	------	---	--------

三州對外貿易 (一九三五年調、單位千弗)

日 本	關 東	支 那	香 港	比 律 賓	濠 洲	輸 入	輸 出	總 額
七二、三一一	二、一三一	一一、二八二	四、四六一	二〇、一八四	一四、七三八	二六、一五九	二、一三一	二六、一五九
二、一三一	一一、二八二	二、一三一	二、五九三	二四、六九七	九九一	一六、九四九	九、五三四	一五、二二九
一、五三〇	八、三四〇	八、四一六	六、二八五	一六四、三三七	二七六、九四九	五、八一〇	五、四一〇	一〇、九二〇
五、八一〇	八、三四〇	八、四一六	六、二八五	一六四、三三七	二七六、九四九	三、九三九	三、九三九	七、八七八
三、九三九	三、九三九	五九、九三九	五九、九三九	二七六、九四九	二七六、九四九	一、五三〇	一、五三〇	三、〇六〇
一、五三〇	一、五三〇	五九、九三九	五九、九三九	二七六、九四九	二七六、九四九	總 額	總 額	總 額

右の表を見ても、ロスアンゼルス輸出の半分は石油であり、桑港の三割五分は果實であるのは、地方産産を表はして居る。又對外貿易を見ても、太平洋諸國が其の七割を占め、特に日本とは其の四分の一であつて、就中ロスアンゼルス輸出の半分が、日本向であるのは、如何に太平洋の海上交通が重要であるかを示して居る。

太平洋の交通は、米國の貿易・經濟その他の關係上、世界大戰後急速に發展した。陸上の鐵道・自動車等の交通は省略して、先づ海運から述べると、次の表に示す如く、太平洋交通の重要性が激増した事が判る。

太平洋の交通

出入船舶 (單位千噸)		總 船 船	米 船	外 國 船
入港	一九二〇年 太平洋岸	六、〇六〇	二、七九五	三、二六七
	(大正九年) 全 米	六四、一〇四	三二、一一九	三一、九八四
昭和三十五年	太平洋岸	一四、八四六	四、六六九	一〇、一七七
	全 米	六四、六一二	二二、三七二	四二、二四〇
一九二〇年	太平洋岸	六、四一七	三、二七六	三、一四〇
	全 米	六七、八一七	三四、〇五三	三三、七六四
出港	太平洋岸	一五、〇〇六	四、二九三	一〇、七一三
	全 米	六四、八八七	二二、一二六	四二、七六一

海運

米國が海運で最も關心を持つて居るのは、北太平洋横斷航路で、之に關係の會社は五社あつて、日本の海運と自  
然、激烈な競争となつて居り、米國は一九三五年に、此の航路に三十四隻、二十七萬二千噸の客船・貨物船を充て、  
各國定期船總船腹の四六% (日本は二八・七%) を占めて優勢を示した。其の航路は次の五である。

- (イ) シヤトル—横濱 (直航)
- (ロ) 桑港—横濱 (直航)
- (ハ) 同 — 同 (ホノルル又は眞珠灣經由)
- (ニ) 同 — マニラ (ホノルル、ガム經由)
- (ホ) 同 — 上海 (直航)

日米聯絡航路

貨物船中には横濱に寄港せず、大阪直航もあるが、何れも香港・マニラに到り、更に柴棍に行くもの、又は支那沿  
岸から大連・小樽を経て、桑港に歸るものがある。

此方面航路の主要船會社は次の通である。

- (一) 日本郵船會社 (N・Y・K)
  - 桑 港 線 (香港—上海—日本—ホノルル) 一萬六千噸淺間丸級四隻、月二回
  - 沙 市 線 (神戸—名古屋—濟水—横濱—バ) 一萬二千噸日枝丸級三隻、三週一回
  - 南米西岸線 (香港—日本—ロスマン) 一萬噸平洋丸級三隻、五週一回
- (二) カナダ太平洋鐵道會社 (C・P・R)
  - 東 洋 線 (バンクーバー—日本) 二萬噸エンプレス級四隻、二週一回
  - 東 洋 線 (上海—香港—マニラ間) 二萬二千噸アレヂデント級二隻、二週一回
- (三) グラー汽船會社 (D・L)
  - 外に紐育起航五隻は此線に就航す

貨物船としては (日本) 大同海運、川崎汽船、三井物産、三菱商事 (英國) プリウ・ファンネル、ブリチッシュ・  
カナディアン (米國) グラー汽船、ステーツライン、オセアニック・オリエンタル、タコマ・オリエンタル等がある。  
右の外、南米西岸行以外は、殆んどパナマ運河を通過して、太平洋及び大西洋を交通してゐる。之は鐵道運賃に此  
べて、海上運賃の安いことが大きな理由である。

此方面航路は貨物船が主であつて、其の主要なものは次の通である。

- (一) 日本郵船會社 (N・Y・K)
  - 紐 育 線 (神戸—紐育間、但し往航に香港、基隆、上海、大連等を経由)
  - 中南米ガルフ線 (神戸—ニューオルレアンス間、但し往航にマニラ、ダバオ等を経由)
- (二) 大阪商船會社 (O・S・K)
  - 紐育急航線 (比律賓—上海—日本—ロスマンゼル—紐育間)
- (三) 國際汽船會社
- (四) 川崎汽船會社 (K・L)
- (五) 三井物産會社 (M・B・K)
- (六) アメリカン・バイオニア・ライン極東航路
- (七) ライクス商會 ガルフ東洋線

又アメリカと極東間の連絡には(日)大阪商船(英)エラーマン外四社(米)グラマー汽船外一社、丁抹、諾威等の世界一周船が寄港する。

航空路は陸の自動車と併進して、目醒ましい躍進を續けてゐる飛行機の發達によつて、完全に米國交通運輸事業としての重要性を持つに至つたのである。即ち軍用を除いて、十九社、六十二線、飛行機數九千五百、操縱士一萬六千、

航空

公認飛行學校二十七、民間飛行場二千三百、飛行距離國內一億軒、海外千五百萬軒に達し、全世界第一の王座を占めて居る。之等の航空路は大別して、米大陸縦斷、太平洋横斷、亞細亞空路の三つに分たれる。(附圖第一參照)

南北亞米利加聯絡は十餘年前より開始せられ、(昭和二年)フロリダのキーウエストとキューバ間九十哩を始めとして、(昭和四年)には、更にキューバから英領ホンジュラス、ホンジュラス、ニカラガ、パナマ、同運河地帯迄延長し、又西方にはテキサスのブラウンスヴィルスとメキシコ市、グアテマラ、サルヴァドル間の航空路により中米方面との聯絡をなして居る。

同年後半には、キューバとリーワード、ウインドワード諸島經由、トリニダッド、英領及び蘭領ギニア間、竝にパナマとコロンビア、エクワドル、ペルー、チリー間の西方幹線が延長せられた。

其後トリニダッド線はリオ・デ・チャネイロに延び、チリー線はサンチアゴからベノスアイレス、モンテ・ウイデオに至り南米大陸を横斷して東西幹線を連絡し(昭和六年)には、クリップパー機を使用して速度と安定とを増した。

斯くて(昭和七年)には、汎米航空路は略完成し、紐育・ベノスアイレス間四日半、華府・リマ間二日半、巴奈馬・サンチアゴ間二日の航程となつた。

更に我等の最も關心を持つものは太平洋横斷航空路で、多分に軍事的意義のあるものと思はれる。即ち(大正十三年)支那との間に航空契約を結び、上海・南京・漢口・成都間の航空路を始めたが、更に(昭和十年)末、太平洋岸軍港のアラメダからホノルル、ミッドウエー、グアム島經由、マニラ迄の太平洋横斷定期航空を始め、次に廣東・上海へ延長の豫定である。又(昭和十二年)には、香港迄延長して支那航空路と連絡した。

太平洋横斷航空

以上に満足せず、北方にはアラスカ、アリューシャン群島間、南方には布哇からツツイラ經由濠洲、ニュージール  
 ンド(オークランド)間の二航路を計畫して居る。更に米支航空路上の各要地の防備強化も圖つて居るとの事である。  
 米支航空路はグアム島附近で、我が南洋航空路と交叉してゐることを忘れる事は出来ない。實に太平洋は海上のみ  
 ならず空中に於ても多大の關心を要するものがある。米國の定期航空路全長一〇、二、四五三杆(内國際航空路四八、九六〇杆)  
 の内、太平洋岸の主要なものは次の通りである。

羅	府—紐	育	四、一三三杆	毎日六往復
桑	港—紐	育	四、二三五	同 三往復
	ミヤトル	ル—ソルトレイクシチー	一、三〇六	同 二往復
	同	—サンデエゴ	一、九一七	同 二往復
	同	—ヴァンクーパー	一九七	同 一往復
	サンデエゴ	—ソルトレイクシチー	一、一二三	同 三往復
桑	港—香	港	一三、八七一	週 一往復

### 二、アラスカ

沿革

アラスカは、古來土人及び露國毛皮商人が各所に散在して、毛皮の取引をしたのが植民となり、米國シニアード國  
 務卿(十六代リンカン大統領時代)が慶應三年(一八六七)三月三十日露國から、僅に七百二十萬弗で購入した面積五九〇、八  
 八四方哩(アリューシャン群島を含む、米本土の五分の一)の一不毛地と思はれてゐたが、米國も當時は、未開發資源

地誌

の發展に追はれて、北邊アラスカの開發には力及ばず、人口も減少の傾向を示してゐた。然し海岸線の延長二萬六千  
 哩(地球一周よりも千哩多い)もある廣面積の土地であるから、重要資源のあることは想像出来る。緯度も北歐諸國  
 位であり、海岸は日本海流に洗はれ、面積の四分の三は北部温帯である。(夏八〇度)且つ航空路の發達は、アラス  
 カ内地と米本國、竝にアラスカからアリューシャン群島(延長千二百哩)を経て西比利亚への距離短縮となつて、我  
 北邊に接近し、軍事及び經濟上、米國極東政策の動向と重要な關係があることは注目すべきである。

アラスカは北米の北西端に在つて、北は北氷洋、西はアリューシャン群島(延長千二百哩)を以て、ベーリング海  
 峽(幅五十四哩)を隔てて、ソ聯邦に對し、南は太平洋に洗はれて、英領カナダを経て合衆國に連絡して居る。

全人口約六萬(一九三〇年國勢調査、五九、二)一方哩〇・一人といふ稀薄さである。其の約半數は土著の印甸、アリウト  
 及エキスモー族で、殘半數は移住した白人・東洋人である。又此の外に二萬人餘は例年五六箇月間、鑛山・製鐵・鐵  
 道敷設等に從事するため此地方に出稼をする。主なる土地の人口は一九三〇年國勢調査によれば、

ジュノー 四千、 ケチカン 三千八百、 アンカレーチ 二千三百、 フェアバンクス 二千百、  
 ノーム 千二百、 ペテルスブルグ 千三百、 シトカ 一千  
 であり、國內測量は(一九一三)に完成した。

太平洋岸細長地帯は南北六百哩に達し、面積三五、五二七方哩(二二、七三八、〇〇〇エーカー)あつて、アラスカ全  
 體の六分に當り、人口約一萬七千(白人約一萬二千)あり、島嶼六十七(五萬エーカー以上十七島、二千五)が附屬する。

海岸線は四、七五〇哩に達し、之に島嶼の海岸線二六、三六四哩を加ふれば 實に三一、一一四哩となるのである。

政治

又著名の氷河、國立公園(マツキャンレー山)がある。  
アラスカは大正元年八月二十四日法律により准州(米國の准州は布哇、アラスカの二である)を置かれ、ジューノに總督が居つて、アラスカを管理して居る。總督は任期四年で、大統領が任命をする。

軍備

アラスカは第十三海軍區管區(司令部はシャトル)で警備艦・測量艦を常時派遣して居り、シトカ、コチャク、ノーム、ダッチハーバー(ウナラスカ島)は其の基地で、コチャクには潜水艦・飛行艇基地の設備中である。又フェアパンクスには陸軍航空隊建設の豫定である。  
昭和十四年(一九三九)度米國軍事豫算中航空基地整備費で、シトカ、コチャクの航空設備充實を行ひ、又最近防諜情報支局を當方面に設置する等、米國は大なる關心を持つて居る。

産業

農業は氣候寒冷の爲め見るべきものはないが、南部太平洋岸地方は森林繁茂して、製材・パルプ業が發展するものと思はれ、將來米國新聞紙用パルプの五分の一を充當し得ると謂はれる。

明治二十四年(一九一〇)政府は土人の衣食兩用として、西比利亞から一千頭の馴鹿を輸入して、北及び西部の農業不適地に飼養せしめたが、昭和七年には總數七十一萬頭、九百萬弗と評價された。此の外、毛皮用の青狐・白狐類が島嶼で飼育せられ、臘肉臍、ビーヅ等の水獸毛皮も重要産物であり、海豹は毎年五萬頭内外を捕獲する。

水産業は、アラスカの最も重要な産業であり、邦人漁夫も出漁して時々問題を起して居る。鮭罐詰業は、我北洋漁業と對立して、各地に行はれて居り、漁夫組合員(多數の邦人も居る)は、毎年五月十五日桑港を出帆して八月末、又は九月初に歸港する。鮭の消費は、米本國內で行はれ、年額二十五萬封度、價格二千五百萬弗である。此の外に鹽鱈・練・ハリバ等もあるが、餘り大した發展もしてゐない。

貿易

鑛産中、金鑛業は古くから行はれて居り、品位よりも産出量が多く全米第一である。南東部、ノーム、西部等に産し、一九三五年四七〇、一〇六、一九三六年五三〇、〇〇〇、ファイオンズの産出である。此の外、銅・銀(一九三六年三十五萬弗四五)鉛等もあるが、何れも金・銅の副産物程度で、鑛石の儘合衆國に送り、製鍊をして居る。石炭は埋藏量千五百億噸と稱せられ、到る所に發見せられ、石油も北部に産出し、米海軍が之を獨占して居るため、採掘は餘り進んでゐない。此の外水力約四十八萬馬力もあり將來發達の見込がある。

貿易は米本國の獨占で、唯一の對外貿易國たるカナダとの取引すらも僅々二、三十萬弗である。米本國との輸出入を示せば、次の通りである。

	輸 入	輸 出
一九三四年	二九、九九八、八四〇弗	二二〇、七八四、〇四四
一九三五年	三二、〇〇七、八五六	二二三、九一六、一三〇
一九三六年	三九、〇六〇、五七七	二九一、一五二、三三七

輸出品は、水産物(鮭罐詰は全輸出の八〇%を占める)毛皮・銅・木材の順である。米國からの輸入品は、即時に消費される生活必需品で、空罐・石油・肉類・植物食料等の少量である。

アラスカ内地の交通は、河川・鐵道(全長四七〇哩)で、ユーコン河は流域二千三百哩中千八百哩はアラスカ領に在り、内千二百哩は舟運の便がある。近時國防・通商の關係から政府の援助で航空路の急展開を見た。即ち(大正十一年)試驗的郵便飛行に成功した結果、(大正十四年)以後各地に航空港を設け、現在六航空會社があり、海軍はジ・ノー以下

三箇所に、陸軍はフェアバンクス其他に航空基地を設けてゐる。定期航空の主要なものは、次の通りである。

フェアバンクス—ジュノー	一、〇三〇杆	週二往復
同	八五〇杆	同一往復
同	—ノーム	—

大毎新聞社世界一周飛行機日本號は、昭和十四年八月二十日飛行の途中ノームからフェアバンクスに著陸してゐる。  
（一九三九）

### 三、パナマ運河地帯（第十章第 二節参照）

沿革

明治三十二年米西戦争に樂勝した米國は、久しく渴望したキューバ一圓の要地を掌握し、アメリカの地中海、カリブ海とメキシコ灣の水域に於ける優越權を占め、世界強國の地位を獲得し、加州を得て太平洋への進出以後、終に其の政策に一新針路を授けた。即ち比律賓、グアム島等の新領土を獲得し、布哇の併合を執行するに及んでは、太平洋に對する米國の關心は更に特殊のものが生れ、太平洋西兩洋の聯絡が愈々焦眉の急となつた。マッキンリー大統領（第二十五代 自一八九七年）は戰後議會の教書で次の如く斷言した。

「我が東海岸との間に敏速な交通を開くことは、ハワイの併合と太平洋に於ける吾人の威力及び通商の發達すべき期待とにより必要となり、此のため兩洋間の運河開鑿を必須とすること復た昔日の比ではない。而して吾人の國是は、此の運河が、吾人の政府により管理せられんことを必要止み難しとする事情も亦今日の如く切なるは無し。」

以上の目標は經濟的であると共に政治的軍事的である事は明白で、就中軍事上運河の必要なるは、米國戰艦オレゴ

パナマ運河の利權獲得

ン號の大回航によつて痛感されてゐる所である。同艦は米西戦争勃發の當初は桑港に在つたが、大西洋の倥傯に合せん爲め遙かに南米大陸を大迂回して、サンチャゴ（キューバ）の封鎖其他の作戦に従事し、當時の米國上下は此の舉を壯とすると共に、地峽に運河ありしならばの感を深からしめたのは勿論である。

當時パナマ地域はコロンビア共和國（新グラナダ國と稱した）の領土で、従前より運河開鑿に従事して居た佛人レセップ指導の新パナマ運河會社は、幾多の失敗を重ね事業振はず、一方米國のニカラグ運河計劃の脅威を感じつつ、稍持て餘し氣味の上、グラナダ政府との契約期限も略々盡きんとしてゐた。米國は此の機に乗じ、ニカラグ案で牽制しながら、開鑿利權及び半途事業を佛人會社側から買収する工作に努め、終に（明治三十五年）四千萬弗を以て入手し、次でコロンビア政府と交渉に入り（明治三十六年）一應成立を見たが、其の批准間際にコロンビア國上院側の故障で行惱みとなり、米國側の焦慮反感を兆し、一方運河工事中絶を嘆く地元の不満漸く鬱積して、パナマ一帯の革命となり、（明治三十六年）十一月三日パナマ共和國がコロンビア共和國から獨立すると、米國は列國に率先して同十三日パナマ共和國の獨立を承認して、自國の勢力下に置き、之を機會に同十八日條約を結び（翌年二月二十三日批准）更に（明治三十七年）タフト大統領は追加協定をした。

然しコロンビア國は頑としてパナマの獨立を否認し、運河利權の問題も永く係争事件として残されたが、（一九二二）の條約で米國はコロンビアに二千五百萬弗を支拂ひ、全部解決することゝなつた。

米國とパナマ共和國の運河條約項目は、大體次の通りである。

（イ） 運河構築承認

第一節 北米太平洋岸

- (ロ) 運河地帯(運河中心より左右各五哩 面積五五二・八方哩 内陸地三六一・七方哩 水域一九一・一方哩) 永久租借
- (ハ) クリストバル(コロン市に隣接)、バルボア(パナマ市に隣接)及び灣内防備用諸島の永久使用
- (ニ) 治安・裁判・衛生其他の永久獨占管理、竝にコロン、パナマ兩市の衛生及び檢疫事項の管理
- (ホ) パナマ運河鐵道(四十七哩)の所有竝に運轉

(ヘ) 右代償として一時金一千萬弗及び年金(條約批准九年後より支拂ふ)二十五萬弗を米國から支拂ふ。

昭和九年二月二十六日、パナマ通貨に改正して四十三萬バルボアとした。

一九〇四年のタフト大統領の協定は、大正十三年六月一日に廢止せられ、昭和十一年華府で、更に次の新協定が調印せられた。即ち、

一九〇三年の條約に規定したパナマ共和國の獨立保證及パナマ、コロン兩市の治安維持干渉權を拋棄した。

パナマ運河

パナマ運河は、萬里の長城、スエズ運河と共に世界三大工事に算へられ、太平洋岸バルボア港から大西洋岸クリストバル港への地峽を横斷して、全長五十哩、幅三百呎、深さ四十五呎の運河とし、四箇所(ガッソ、ガンボア、ベトロミゲル、ミラフロレス)に閘渠(ロック又はエスカルーサ)を設けて、一隻の通過を七、八時間とし、最近の最短記録四時間十分。一日片道四十八隻の艦船を通さんとしてゐる。現に昭和九年四月に、合衆國全艦隊の二十四時間通過といふ劃期的實驗を敢行して、四十八時間に全艦隊無事故通過の記録を作つた。

パナマ運河は、永正十四年(一八五七)西班牙人サヴエドラが提唱し、西班牙王フェリペ二世が計劃を建てたが成らず、安政二年(一八五五)米國資本の地峽横斷鐵道(延長四十八哩、行程二時間)が敷設せられた。明治十四年(一八八八)スエズ運河成功者佛人レセップ

が開鑿計畫を樹て著手したが失敗し、明治三十五年其の權利を米國に讓つた。

米國政府は、前者の失敗に鑑み、慎重遠大の計畫をなし、明治三十七年五月四日準備工事に著手し、先づ現地に宿泊・交通・治療・衛生の諸設備(猛惡な黃熱病の撲滅、廳舎の建築、舊鐵道の改築等)に約三箇年を費した。其の後

明治四十一年に工費、維持費等の關係もあり、且つ地形は途中に海拔八十五呎の高地があつて之を通過する關係上、從來の水平式を閘門式に改めた。然かも本工事に入つてから、地じり其他の不慮の障礙により、往々豫定の變更を見たが、不屈不撓の努力によつて、工事は概ね順調に進み、世界大戰勃發の直後、大正三年八月十五日開通式を舉げた。(公式には一九二〇年七月十二日開通となつてゐる)

運河開通式

當日米國官船アンコン(九千噸)に來賓を乗せ、第一閘門に至りし際、ウイルソン大統領は四千哩隔てた華府から、

ベルを押して閘門を開いた。

此の日アンコンの通過は十時間を要した。

佛人レセップが計畫してから三十三年を経、米人の著手から實に十年の歲月、數千人の生靈、四億六千三百二十四萬弗の巨費(一九三六年六月末調査費、運費、維持費合計五億五千萬弗餘)を投じ、開鑿した土砂量二億千二百萬立方ヤード、使用したコンクリート約五百萬立方ヤードと云ふ大運河も、其の後戦艦・航空母艦の艦型増大に伴ひ通過困難となり、且つ荒鷲半噸の爆彈は、完全に運河の死命を制することが出来るから、附近の防備は頗る嚴重を極めてゐるのは勿論、米國としては、今や之等の不安に對して更に大規模の、一層安全な、能率的第二の運河を、ニカラグァに求めたことは前述の通りであり。米國の動向を窺ふことが出来る。







日	獨逸	墨西	アルゼンチン	秘露	攻馬	佛國	蘇邦	伊太	和蘭	希臘	葡萄牙	泰
噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
1,177,000	1,177,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000
1,177,000	1,177,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000
1,177,000	1,177,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000
1,177,000	1,177,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000
1,177,000	1,177,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000
1,177,000	1,177,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000
1,177,000	1,177,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000
1,177,000	1,177,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000	2,633,000

人口

〔註〕一九三六年伊太利軍艦のメヌエ運河通過數多きは伊エ戦争による。(前二表共日本郵船株式会社調査による)  
 人口は一九三〇年國勢調査によれば三萬九千五百名(一九二〇年二萬二千人)で、七三%の激増を示して居り、之を細別すると次の通りである。

合計	三〇	八	一〇	四	二六	一五
通過料(弗)	二六、三五	三、三〇	五、八六	二、五〇	一、八六	六、八七
町 村 住 民 (主として鐵道)	二二、八六五	四、八一九	一〇、四七〇	一、三二五	計 三九、四六九	
農 村 民						
陸 軍 部 隊						
海 軍 守 備 隊						

右の内、白人一八、八一四名で、一九三五年六月官の調査では總人口四一、一〇二名に増加して居る。一九三四年の出生率一・四八、死亡率六・四三(一九三五年は五・八九に減少)で、運河工事時代の不健康地も、今や米國不斷の衛生諸施設の完備に伴ひ、面目を一新した。

所謂運河地帯とは、運河の中心から左右各々五哩の地帯で(パナマ、コロソ兩市は含まず、之はパナマ共和國である)面積五五二・八方哩(陸上三六・七方哩)である。此の地帯は、大部分要塞と守備隊とに占められて、一部に運河及び鐵道従業員が居住し、個人の土地所有は禁じられてある。都市としては、カリブ海入口に、クリストバル、(前にコ

ロン市の一部であつた)太平洋入口にバルボア、パナマ市東方にアンコン(住宅都市で旅館、病院等あり)がある。運河地帯には總督(現在リデイ陸軍大佐で、總督府はバルボア・ハイトに在る)が置かれ、行政は大統領、軍事は陸軍長官の下で行つてゐる。

軍備

運河地帯の防備施設は相當完備し、更に一九三九年歐洲戰亂再發と共に一段と強化し、駐兵も増勢した。即ち陸軍は歩兵二聯隊、砲兵三聯隊、他に工兵・化學戰部隊・補給・兵器・通信等の附屬隊を加へて總計約一萬四千名に達し、更に歐洲戰亂勃發と共に約一旅團の増勢を行つた。

海軍は砲艦・驅逐艦各二隻を常時派遣せる外、海兵隊一分遣隊を常置してゐる。又バルボアに第十五海軍區司令部があり、運河地帯を管區とし、ココソロには海兵隊・航空隊・軍需部等があり、海軍の要港となつてゐる。

陸軍航空隊は、フランス・フィールド(大西洋側)アルブルック・フィールド(太平洋側バルボア高地)に在る。

近年米國は軍事豫算を國土防空に主用して、殊に運河地帯の防備強化及び防諜情報支局を當方面に設置するの外、更にニカラグア運河工事に著手すると共に、パナマ運河閘門の増加及び門幅擴張等太平大西兩洋の兵力移動に就ても終始研究實施を怠つてゐないのである。

鐵道は運河沿線四十七哩に過ぎないが、航空路は米本國との間に軍用・商用共に頻繁に使用されてゐる。

## 第二節 ハワイ諸島

附ミッドウェー島

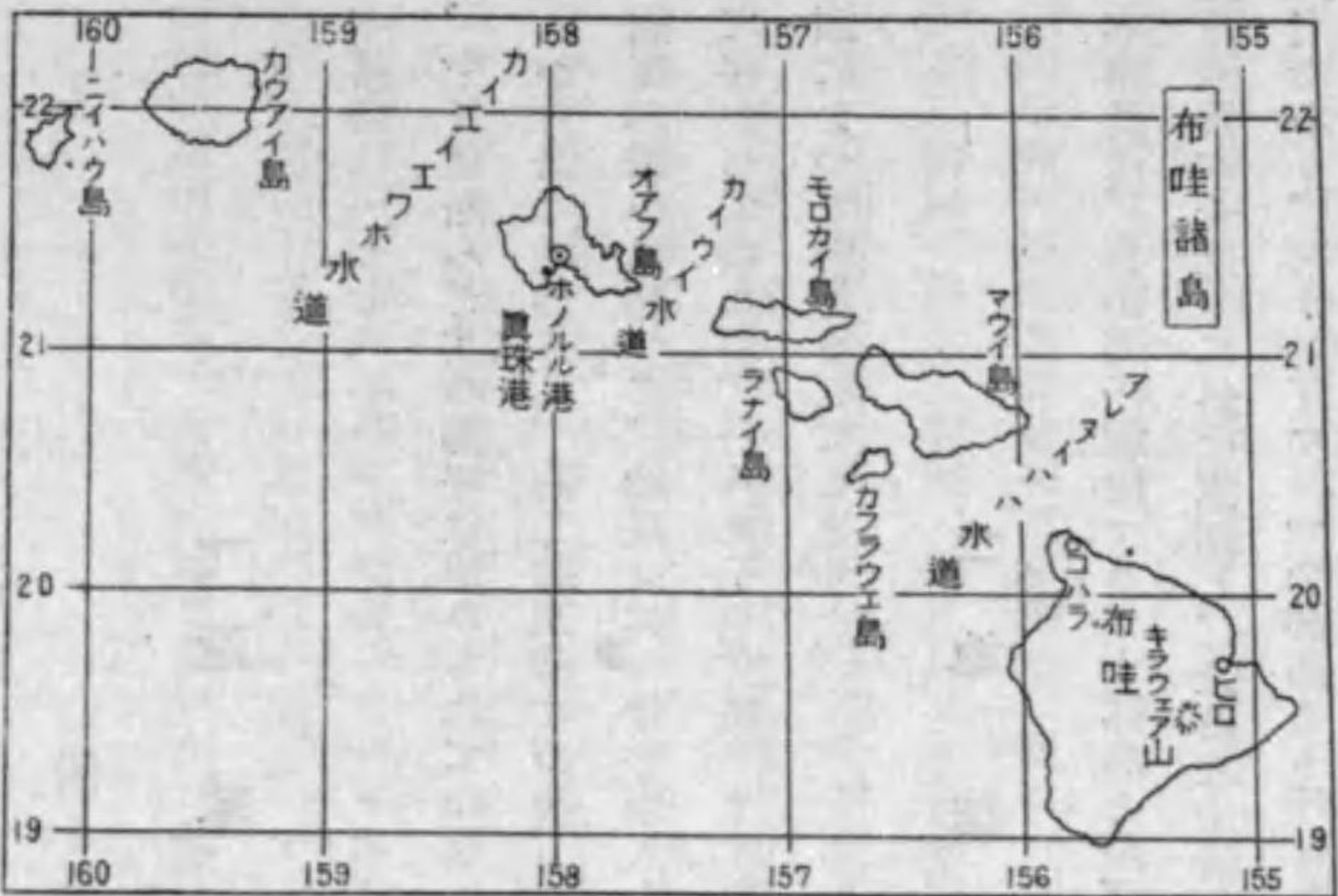
### 一、沿革

本諸島は一七七八年キャプテン・クックにより發見せられ、サンドウィッチ島の名はクックが命名したものであるが、今日は殆んど其の稱呼は用ひられてゐない。クックはディスカバリー號に乗つて本島に初めて上陸した時には、土人から快く接待され、約二週間滞在の後、北に向つて出帆したが、天候が悪くなつたので復航すると、今度は土人の態度が遽かに變つて、船長は其の背を土人から刺されて斃れたほどであつた。其後長い間、本群島は獨立の王國として存在してゐたが、一八九三年女皇リリオカラニの歿後、共和國となり、遂に一八九八年、米國のマッキンレー大統領によつて併合されてしまつた。

クック遭難

### 二、地誌

本諸島は、我が委任統治マリアナ群島と略ぼ同緯度で、其の東約二千海里、北緯十八度乃至二十二度、西經百五十五乃至百六十度半に斜に連鎖し、全島火山岩を以て成り、面積六千四百五十四方哩、一九三七年の人口三九六、七五名であり、又サンドウィッチ群島とも呼ばれ、米領に屬す。主なる島嶼及び面積は左の通りである。



ハワイ島	四、〇一五方哩	マウイ島	七二八方哩
オアフ島	五九八方哩	カウアイ島	五四七方哩
モロカイ島	二六一方哩	ラナイ島	一三九方哩
ニイハウ島	九七方哩	カハラウエ島	六九方哩

本諸島は、亞細亞、アメリカ及び濠洲の中間熱帯太平洋上にあつて、汽船の修理、載炭、給油等に利用されること極めて大きく且つ海底電信及び無電の中継、航空の基地として重大の役割を占め、殊にオアフ島の眞珠軍港は、米國海軍の根據地として普く人の知る所である。

### 三、政治

一九三六年度の議員投票権を有する有権者数は、土人二一、六六五名、米人一二、一四六名、英國人七五六名、合計七五、〇五九名である。議會は、上下兩院より成り、上院議員數十五名、任期四ケ年、下院議員數三十名、任期二ケ年となつてゐる。

土著民は體格一般に魁偉、容貌美しく、稍々樂天的なポリネシア族にして、新西蘭のマオリ族と土俗方言を同じう

### 人口

して居るが、性懶惰にして安逸を貪るが故に、土地は概ね外國人によつて耕作されて居るといふ状態である。一九三七年の人口統計は次の通りである。

布哇土人	二一、三八九人	混血兒	三九、一五七人	支那人	二七、六五七人
日本人	一五一、一四一人	葡萄牙人	三〇、一三〇人	比律賓人	五三、〇三五人
ポルトリゴ人	七、五二九人	西班牙人	一、三三三人	朝鮮人	六、六七八人
歐米人	五七、八九〇人	其他	八七六人		

一九二〇年中の邦人の數は十萬九千人、一九三四年には十四萬八千人を超え、實に布哇群島人口總數の三割八分を占めて居る。

### 文化

本群島は學校教育が盛んである。一九三七年の調査によれば、小學校の數は百八十六校で、就學兒童の數八萬六千餘、外に師範學校、教員養成所、商業學校、手藝學校、盲啞學校、虛弱兒童のための特種學校、感化院等があり、布哇大學には七十九人の教授、千九百の學生が居り、邇逸仙は英語學校の出身である。日本人小學校の就學兒童數は四萬四千餘、支那人小學校には六千六百の兒童が就學して居る。

### 人口減少

島民は逐年著しき減少を見てゐる。減少の原因は肺癆及び癩患によるもの多いとされてゐるが、この外、性病が全島に蔓延し、恐るべきものがある。モロカイ島は、癩病のコロニーとして比律賓群島のキュリオン島と共に世界的に有名である。モロカイ島が癩隔離島となるに就いては、ジョセフ・ダミニンの努力によるもので、彼の功績は後世に遺さるべきものである。

ダミエンの生國は白耳義であり、本名をジ・セフ・ヴィスターと謂ひ、宣教師として渡島し、島民中癩患者の多きを見て一身を犠牲にして、モロカイ島を選び此所を天刑病者の樂土として十二年の長きに互り献身的に治療を施した。その結果、終に彼自身も亦癩が傳染して、一八八九年四月モロカイ島で斃れたのである。

#### 四、軍 備

ホノルル眞珠軍港は大航空基地を有し、飛行艇、陸軍機及び潜水隊等を常備し、同軍港の水陸設備を強化すると共にオアフ島防備の強化に努めて居る。

#### 五、産業及び貿易

物産

本諸島の物産は珈琲・鳳梨・砂糖・家畜及び水産物等であつて、鳳梨の罐詰だけでも毎年三千九百萬弗以上に達してゐる。

貿易

貿易は一九三六年の總額、輸出一億二千七百七十七萬七千弗、輸入九千二百四十六萬三千弗、差引三千四百七十一萬四千弗の輸出超過となつて居り、我國との貿易は、輸入二百八十一萬餘弗、輸出八萬一千餘弗であり、輸出重要品の大宗は砂糖・鳳梨等で、砂糖の總輸出額は六千八百萬弗に上つてゐる。

#### 六、交 通

島内には三五一哩の鐵道、五萬六千餘の自動車、五十餘臺のバスがあり、浮船渠・空港・無電塔(約六十)がある。一九三七年の入港船舶の總噸數は九百九十萬噸を超えた。

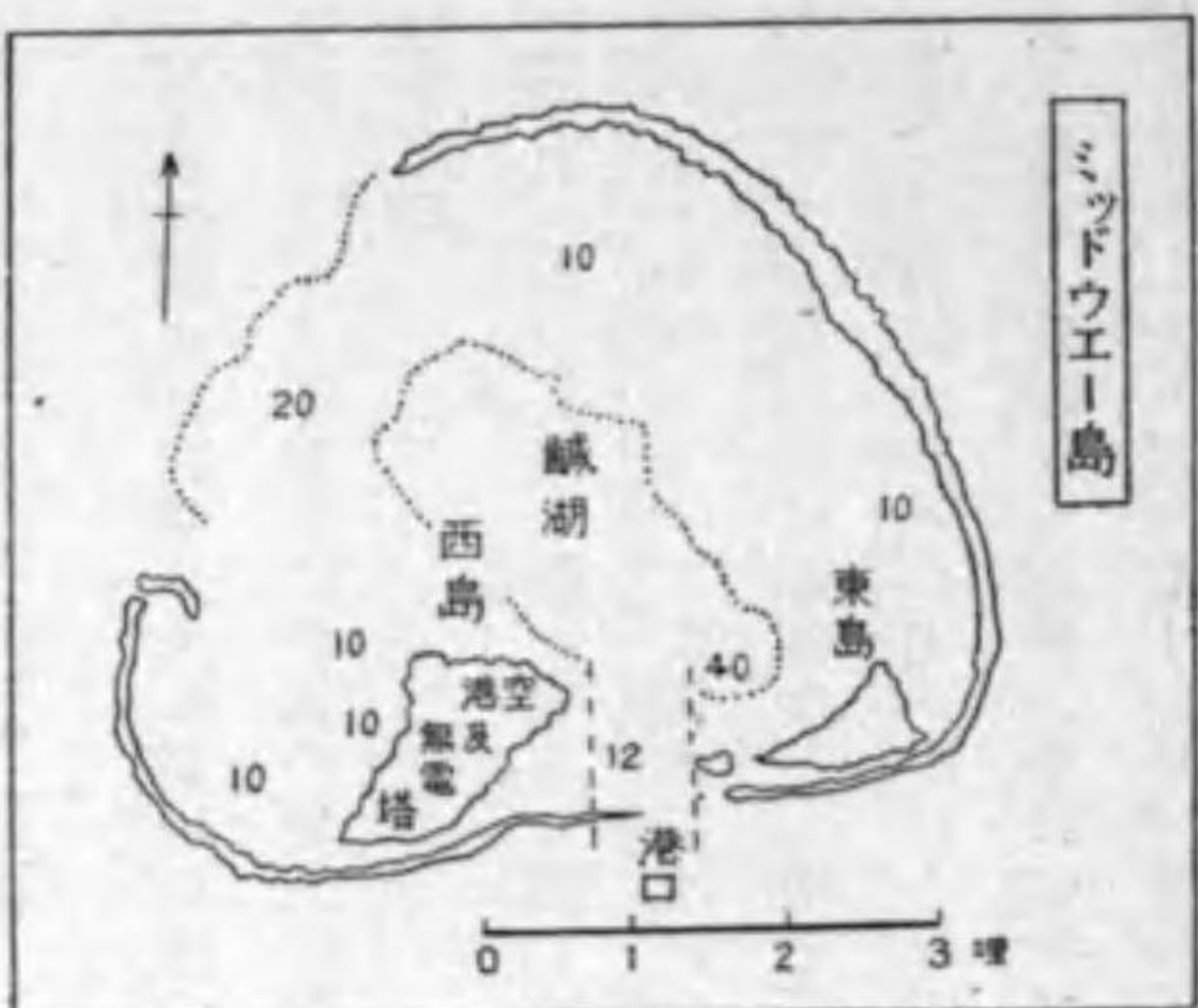
國立公園

布哇國立公園は一九一六年始めて指定されたもので、マウイ島及び布哇島に在る。公園の面積二百四十五方哩、園内にはキラウエア活火山、ハレアカラ活火山等がある。

#### 七、ミッドウェー島

布哇諸島の西北端即ち北緯二十八度、西經百七十七度半附近にある極めて小さな珊瑚島であるが、桑港からホノルル經由の gamm 島に通ずる海底電信の中繼所であり且つ又空港として重要視されて居る。

本島は軍事上、飛行艇及び潜水艦基地として使用に適し、目下施設の強化を進めて居る。



## 第三節 比律賓諸島

## 一、沿革

比律賓の歴史は西班牙人の渡來に依つて、始めて記録されるに到つたもので、それ以前の事は傳説、考古學的研究、他國即ち支那・印度及び日本の史上に散見する史實、又は西班牙人の占領當時の記録等に依つて、推理判斷する他ないのである。

島名の起源

比律賓（菲立賓又は腓立賓とも書く）と云ふ名稱は約四百年前、即ち西紀一五四三年西班牙人ピラロボスが時の西班牙の皇太子フィリップに因んで附けたものである。

然らば、それ以前は如何なる名稱を有してゐたのであつたか、今日の如く比律賓群島全體を總稱する所の名稱は全くなく、各島毎に別々の名が附けられてゐたのである。例へばマゼランの西紀一五二一年三月十六日最初に發見したと云ふ島は、當時ザマル島（今日のサマール島）と呼ばれて居り、上陸したセブ島は今日同様セブ島であり、又、比律賓を征服したレガスピがルソン島にマイニラと呼ぶ繁華なモロ族の町のあるの聞き、之を攻略して首府となし政廳を開設した（西紀一五七一年）當時の、ルソン島は今日同様ルソンと稱してゐた。

然かし、比律賓以外の外國からは西班牙人渡來以前より種々なる名稱を以て呼ばれてゐたのであつた。スチュアート博士の説に依れば、支那商人が西紀前五七〇年頃に「マヒ」に渡つたと云ふのは、後、西紀前四七〇

支那との交通

年頃、印度のシスナガ王の時代に印度人がプロニー（ボルネオ）の北マイヤに渡りて、支那人及びアイタに會つたとの記録があり、その後アツカ王（阿育王）の時代（西紀前二六〇年—二一九年）に、王が佛教を奨励した爲、婆羅門教徒の不平等子が、故郷を捨て、スマトラ・ジャワ及マイヤの地方に移住し侯國を建設し、順次附近の島嶼を征服したと記録されてゐるが、この支那音のマヒはサンスクリット音のマイヤと同じもので、比律賓の地であると云ふ。

古くより比律賓と交通があつたものと思はれる支那の記録にその名稱が擧げられて居るものを見れば、マゼラン遠征の三世紀前、福建の稅務官たりし宋の趙汝适（西紀一二七七年頃）の殘した諸蕃志の記事の中に

「當時群島中著名のものは麻逸にして、ボルネオの北方に當り、島民千戸位あり」とあり。又宋史に、「所謂琉球國の隣に在る毗舍耶國なるものあり、日に寇掠を業とす」とあるは今日の比律賓中部のピサヤ諸島を指すものであらう。

又、我國の古文書にも比律賓に關するものと思はれるものとして、日本紀の孝德天皇白雉五年（西紀六五四年夏四月）に

「吐火羅國男二人、女二人、舍衛女一人、被風流來于日向」とあるは松波仁一郎博士の説の如く、吐火羅はタガラ又はタガロックと云ふ音に近く、タガロック族の居住する地方（主として呂宋島）を中心としての名稱であり、舍衛はピサヤであらうと云ふ。

以上數種の名稱に由つて知らるゝ如く、西班牙人渡來前既に比律賓と其の周圍の東洋諸國との間には交通があつたものである。それを實證するものとして、マゼランの一行がセブに上陸した當時の記録に、その入港の數日前に暹羅

から一隻のチャック（支那舟）が来て碇泊して居り、貿易の爲にモロ族が来て居り、セブの住民は支那やマゼランの目的地たるモルッカ群島の事情に通じ、是等の地方とも通商交易して居る事が分つたのみではなく、支那で作られた真鍮製の大砲を町で見受けた事まで記録されてゐる。

しかし、比律賓が遠い西歐西班牙人の侵略に任したと云ふ事は、當時の比律賓自體が、無数の部落に分れラジャ（酋長）に治められてゐる程度の原始的社會形態を出でぬものであつた爲であると共に、近隣の支那にも、日本にも、印度にも、當時海外に活躍したる國に見受けたるが如き中央集權と資本主義的經濟の發生を未だ見受けなかつたと共に、南支那海の荒海を自由に航海する大船と羅針盤と、未開化の土人に對抗する火器とを有してゐなかつた爲であつた。殊に西班牙人が葡萄牙人に對して新領土獲得に燃えてゐた民族的な競争意識と、世界の海上權を一先づ握つた彼の海軍力なくしては、西班牙と雖も到底遠隔の地に領土獲得を恣にする事は出来なかつたであらう。

米國の領有

西班牙に代つて米國が比律賓を領有したのは一八九八年の米西戦争の結果として得たのである。即ち一八九七年米國大統領（共和黨）に當選したウイリヤム・マッキンレイは多年守つて來たモンロー主義（一八二三年宣言）を一擲して、先づ布哇王國の内亂に干渉して之を合併し（一八九八年）續いて比律賓を領有したのであつた。

モンロー主義は米國が歐洲神聖同盟の壓迫を避くる爲め、一時の機宜で決した政策であつて、その後農業時代より商工時代へ推移すると共にモンロー主義の假面を捨て、帝國主義の素顔を表はすに至つたのである。即ち西紀一八四六年には加洲を併合し、一八六七年には露領アラスカを買収して、太平洋方面進出の準備が成つてゐたのである。時偶々日清戦争（西紀一八九四一五年）に日本が勝つて臺灣其の他を割讓させられた大國支那の無力さを知るや、其の

比律賓の價値

翌々年一八九八年に英國は香港對岸の九龍と威海衛とを、獨逸は膠州灣を、露國は旅順口を含む關東州を租借し、同じ年に米國は前述の通りモンロー主義を一擲し、布哇の併合と比律賓の領有とを行つたものにして、恰も白人に依る太平洋分割が行はれたものと謂ひ得られる。

今や、比律賓はタイディング・マクダファイ法案（西紀一九三五年受諾）に基いて一九三五年十一月以來半獨立國（コンモンウェルス政府成立）となつてゐる。そして一九三六年には同法案の示す所に依つて完全なる獨立を見る譯であるが、果して完全なる獨立が得られるであらうか。

前比律賓の政務總監たりし米人マクナット氏は

「米國にして比律賓を捨てるならば、支那の門戶開放と、支那の領土保全と、海岸及び空中の自由との三大原則を放棄するにも等しいものである。」と稱し、又、會て比律賓獨立政府の假大統領たりしアギナルド將軍は、

「血のなき獨立革命は未だ會て無し。」と云つた。思ふに、比律賓の完全なる獨立までには尙幾多の歴史

軍將ドルナギア



一九一八年九月十九日革命政府の  
國民會議に於て大統領に選ばれる。

が書かれる事であらう。

日比關係 日本と比律賓とは古くより密接な關係にあつたものにして、殊に倭寇が日本海及び東支那海方面に於ける活動を禁壓されるに至つて（豊臣時代より徳川初期）日本甲螺となり、南支那海方面に活躍するもの多く、従つて比律賓との交

涉が一層繁くなつたものである。史實としては、支那人リマホンと共に、マニラを襲ふた甲螺の將シオコ（庄公一五七四年）等の他に、一五八〇年（天正八年）には臺灣に根據を置く日本甲螺が呂宋の北部カガヤンに侵入してゐる。

葡萄牙人（一五四三年種子島へ）に次いで西班牙人（一五四九年サヴェル九州に來り布教す）が日本に渡來し歐洲の文物を傳へ、又、一五八二年には日本最初の遣歐使節が羅馬に送られるに及びて、いよ／＼歐羅巴文化が日本に攝取せられ、正當なる海外貿易の重要性が認められ、御朱印船制度が作られて、呂宋との正式交通も開けた。

これより先、天正の初め頃（一五七三年）天正元年より呂宋と頻繁に往來し、その國情に通じてゐた肥後人、原田孫七郎が天正十九年征韓軍を送らんとして名護屋に在りたる豊臣秀吉に謁して呂宋征討を進言したのであつた。然かし、明を撃たんとして、先づ朝鮮に三軍を進めんとしてゐた秀吉は、呂宋征討を後日に約して、入貢を促す一書を比律賓の大守マリニアスに送る可く孫七郎に托したのであつた。當時西班牙は英國と戦つて無敵艦隊が破られた（一五八八年英國海將ワード及ドレック等に撃破さる）直後の事であつたと、その頃マニラ附近に在住する日本人は千名以上に達してゐた爲、この秀吉の書を見て比律賓大守は大いに恐れて入貢するに到つた。惜むらくは一五九八年に秀吉薨じ呂宋征討の雄圖も空しく消え去つた事である。徳川家康は秀吉と異り、實利主義で、呂宋との通商（家康は一六〇一年に呂宋の大守に書を送る）は盛に之を行つたが、征服の野心は遂に抱かなかつた。

慶長十一年（一六〇六年）に當時マニラに在住したる日本人約千五百名が一揆を起したけれども、交通不便な時代にして本國との關係密接でない爲め鎮壓され、市街の東部に居住地を移されたと云ふ。その後慶長十九年（一六一四

年）には、高槻城主高山友祥及び鳥羽城主内藤如安等が異教を信じた罪に問はれて、剝封流刑となり、他の伴天連教徒等百餘人と共に媽港に送られ、後呂宋のマニラに移されるに至つた。その當時在住日本人は三千人に及んだと傳へられてゐる。

## 呂宋征討の計畫

呂宋征討はその後全く別の理由から前後二回計畫されてゐる。それは、開國と共に入つて來た耶蘇教が社會を素すとの理由にて禁教されたにも拘らず仲々根絶しない爲に、當時西班牙人の東洋に於ける根據地たる呂宋を攻略して耶蘇教の剝滅を計畫したものであつた。最初のもは寛永七年（一六三〇年）肥前島原の城主松倉重政に依つて企てられ、徳川幕府の許しを得て、マニラを偵察せしむる爲に、吉岡九左衛門、木村權之丞等二十數名が、糸屋隨右衛門の船にて呂宋に送られてゐる。一行はマニラ事情を調査して歸つたが、留守中に松倉重政が卒去した爲め呂宋征討は實現せずして終つた。次には三代將軍家光の寛永十四年（一六三七年）幕府自から兵を呂宋に送つて宣教師の巢窟を覆へすと共に、九州方面への密貿易を防がんとして計畫され、當時平戸に勢力を有してゐた和蘭人より助勢の約束をも得たのであつたが、島原の亂が起きた爲め沙汰止みとなつてしまつた。斯くて、秀吉以來三たび企てられた呂宋征討も、屢々行はれた日本甲螺の呂宋襲撃と共に、爐邊の語草として傳えられて、遂にその後海國男子を起たしめなかつたのは實に徳川幕府の海外渡航禁止令（寛永十三年、一六三六年）が嚴重に勵行されるに到つたが爲であつた。

近代の邦人 長い鎖國から開放されて、二度び海の子日本男子が自由に大洋を乗越えて海外に發展し始めたのは、明治十七年の日布渡航條約及日布勞働移民條約（當時布哇は獨立王國）が成立し、翌十八年一月横濱解纜の北京丸にて九百五十六名と云ふ多數の契約移民が布哇に向けて送り出されて以來と見る可きである。斯くして逐年海外移民は



増加の一途を辿り、國民に海外への憧れを持たしたのであつた。

比律賓が近代日本國民の前に、描き出されて來たのも、それからの事で、明治二十二年（一八八九年）一月に始めて、マニラに帝國領事館が開設され、その年四月に、比律賓へ最初の視察旅行者であり、且つ比律賓の事情を最初に我が國に傳へ近代邦人發展の先驅者たりし菅沼貞風氏（長崎縣平戸の人、東京帝大出身、享年二十五）がマニラに上陸し、七月コレラの爲に雄圖を抱き乍ら空しく客死してゐる。比律賓との航路が開かれたのは、明治二十四年（一八九一年）の事で、日本郵船の敦賀丸が最初に就航し、一月九日マニラに入港してゐる。その翌年（明治二十五年）に、當時我が帝國海軍の精銳たる浪速・高千穂の兩艦が比律賓を訪問した。その時の司令官は有地品之允少將、浪速艦長が東郷平八郎大佐、高千穂艦長が伊地知弘一大佐であつた。當時西班牙の比島大守ヘネラル・コント・デ・カスベール・ウーロヒオ・デス・ブホルル伯、州知事バルメロラ侯及び寺院の大僧正等は、新興日本の海軍に對し敬意を表して非常な款待を爲したと云ふ。

斯くて、日比の關係は年と共に深まつて行つたが、米國領となつて後明治三十六年（一九〇三年）のペンゲット道路工事に主任官ケン少佐が、此の難工事は到底比律賓人と支那人のみでは、竣工し難きを知つて、日本移民を入れ

帝國海軍の訪問

菅沼貞風の墓



マニラ市サンロート・カマカチ墓地に葬り、昭和三十一年八月の外邦人墓地に移す

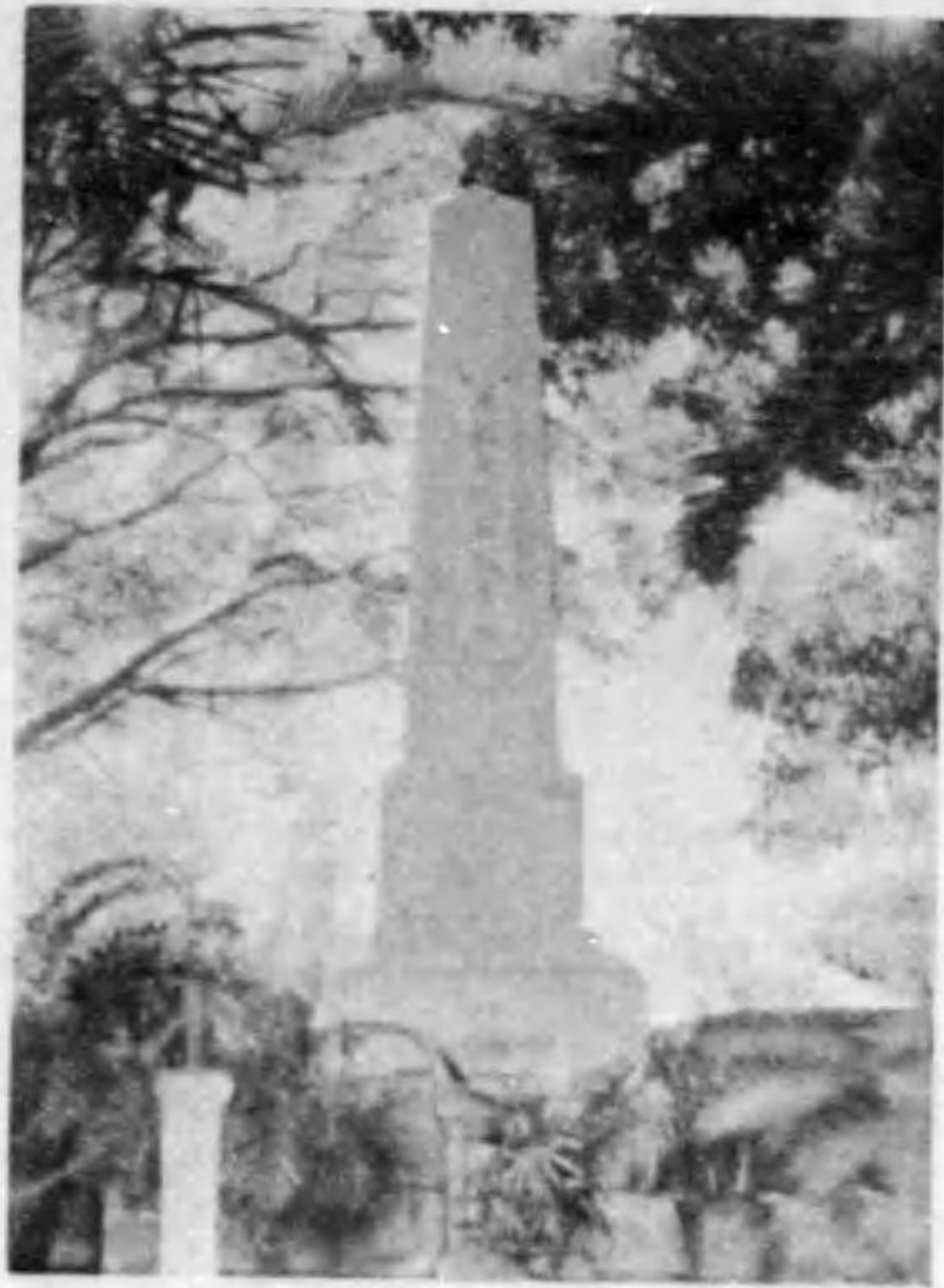
たのであつた。之に従事した日本人實に千數百名、又、これが動機となつて日本から比律賓への移民が激増したのである。殊に此の工事完成後、（一九〇五年）太田恭三郎氏に率ゐられてミンダナオ島に移りマニラ麻栽培に従事したが、今日のダバオに於ける邦人約一萬七千の發展の基となつたのである。

尙現在（昭和十二年十月末外務省調査）比律賓在住邦人数は二萬三百十六名にして、その大半は前述の通り農業従事者であるが、全群島二市四十九州中の二市四十三州に互つて七百七十五軒の邦人小賣商がある（一九三五年比律賓農商務省發表）事も忘れてはならない。

**軍艦矢矧** 世界大戦中、英國の要望により濠洲軍隊の歐洲輸送を援護する爲め第二南遣支隊（筑摩・平戸・矢矧）はマラッカ海方面を警戒し、濠洲航路の保安に任じてゐたが、大正七年十二月流行性感冒は猖獗を極め、軍艦矢矧がマニラに入港した際、副長普門卯之助中佐以下四十八士を失ひ其の墓はマニラ市サン・ペトロ・マカチ墓地内に在つたが昭和十三年一月マニラ北郊ボロの新設邦人墓地に移轉された。艦長山口大佐の筆に成る最初の碑銘は次の通りであり、其の状況を知ることが出来る。

這次坤輿ノ大戦ニ方リ本艦太平洋印度ノ兩洋ニ策動スル二年漸ク任務ヲ終ヘ新嘉坡ヨリ凱旋ノ途殆ト全員流行性感冒ニ冒サレ航海困難ヲ極メ客月五日辛フシテ當港ニ入ルヲ得タリ爾後在留同胞及當地官民ノ熱誠ナル援助ト秋津洲及軍醫等ノ特派ヲ受ケ極力治療看護ニカメシモ十月四日ヨリ同日ニ互リ副長以下四十八士ヲ失フニ至レリ痛恨何ソ勝ヘン或ハ病篤フシテ配置ヲ離レス病苦ヲ願ミスシテ戰友ヲ看護シ或ハ終焉ニ臨テ職務ヲ語り脈搏絶テ陛下ノ萬歳ヲ唱フ皆之レ忠勇義烈ノ士永久ニ帝國ノ戦史ヲ飾リ國民精神ヲ指導スヘシ諸士瞑スヘキナリ茲ニ遺骨ノ一部

軍艦矢矧病没の者墓



馬尼刺カマ墓地在に在る

ヲ合葬謹テ諸士ノ忠魂ヲ弔フ

紀元二千五百七十九年  
大正八年一月十九日

矢矧艦長 山口 傳一

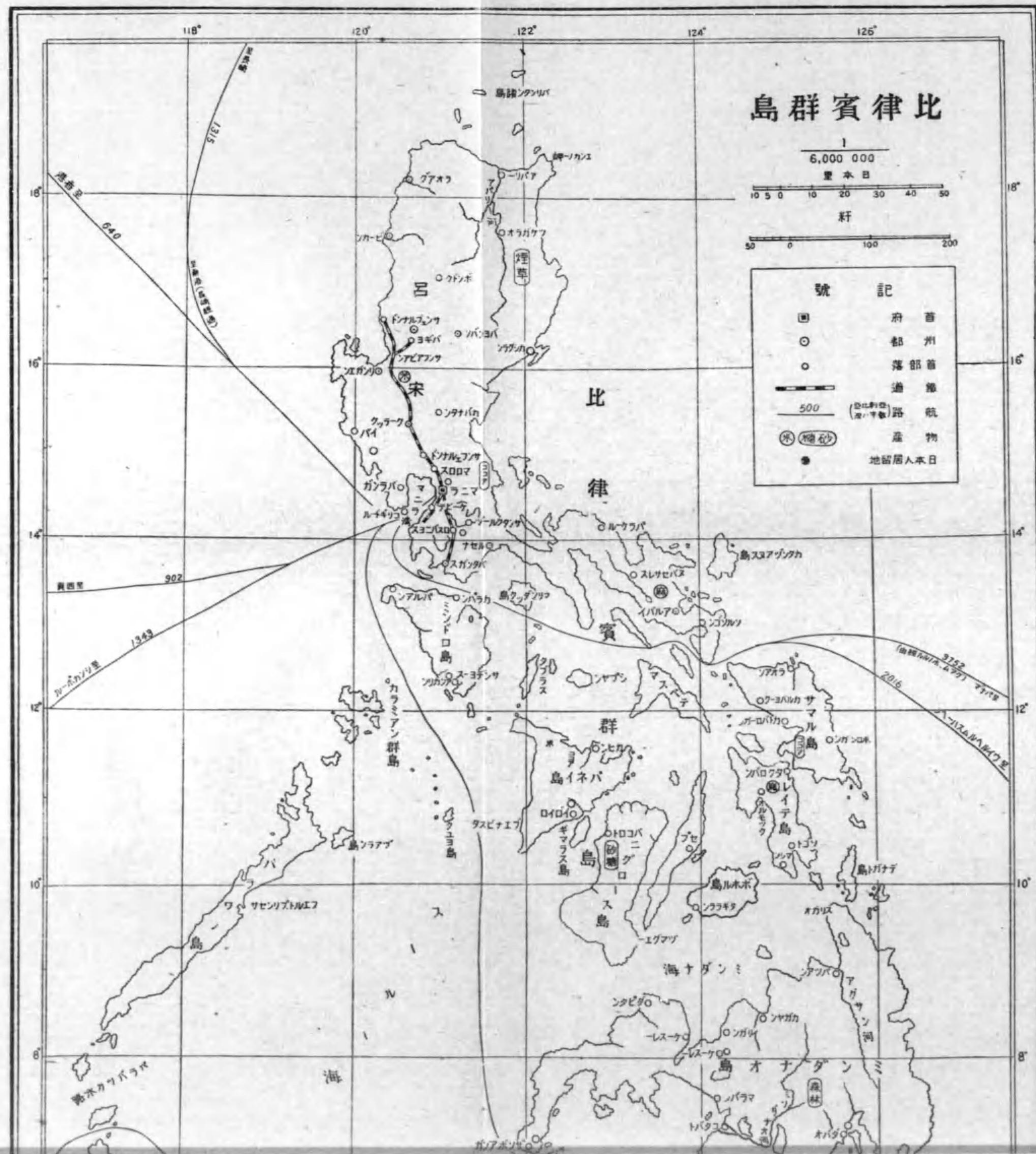
## 二、地誌

**位置** 比律賓は亞細亞大陸の東南洋上、南支那海と太平洋間に、南北七千哩、東西七百哩に互つて散在してゐる七千八十三の島嶼より成る群島である。尤もその中、四千六百四十二は名もない小島である。

る。

**面積** 全面積は日本の半分よりも小さく、丁度日本外地（朝鮮、臺灣、樺太、南洋委任統治領）を合した面積（一二、八一二平方哩）に略ぼ等しく十一萬四千四百平方哩である。群島中一千平方哩以上の大島はルソン、ミンダナオ、サマール、ネグロス、パナイ、パラワン、ミンドロ、レイテ、セブ、マスバテ及ボホルの十一であつて、その合計面積は全面積の約九割四分を占めてゐる。又、北のルソン島と南のミンダナオ島が、特に大きく、前者は全面積の約四割、後者は約三割を占めてゐる。

多數の島嶼より成り立つため海岸線は長く、二萬二百六十哩に達し、日本の海岸線（一五、七二二哩）よりも長



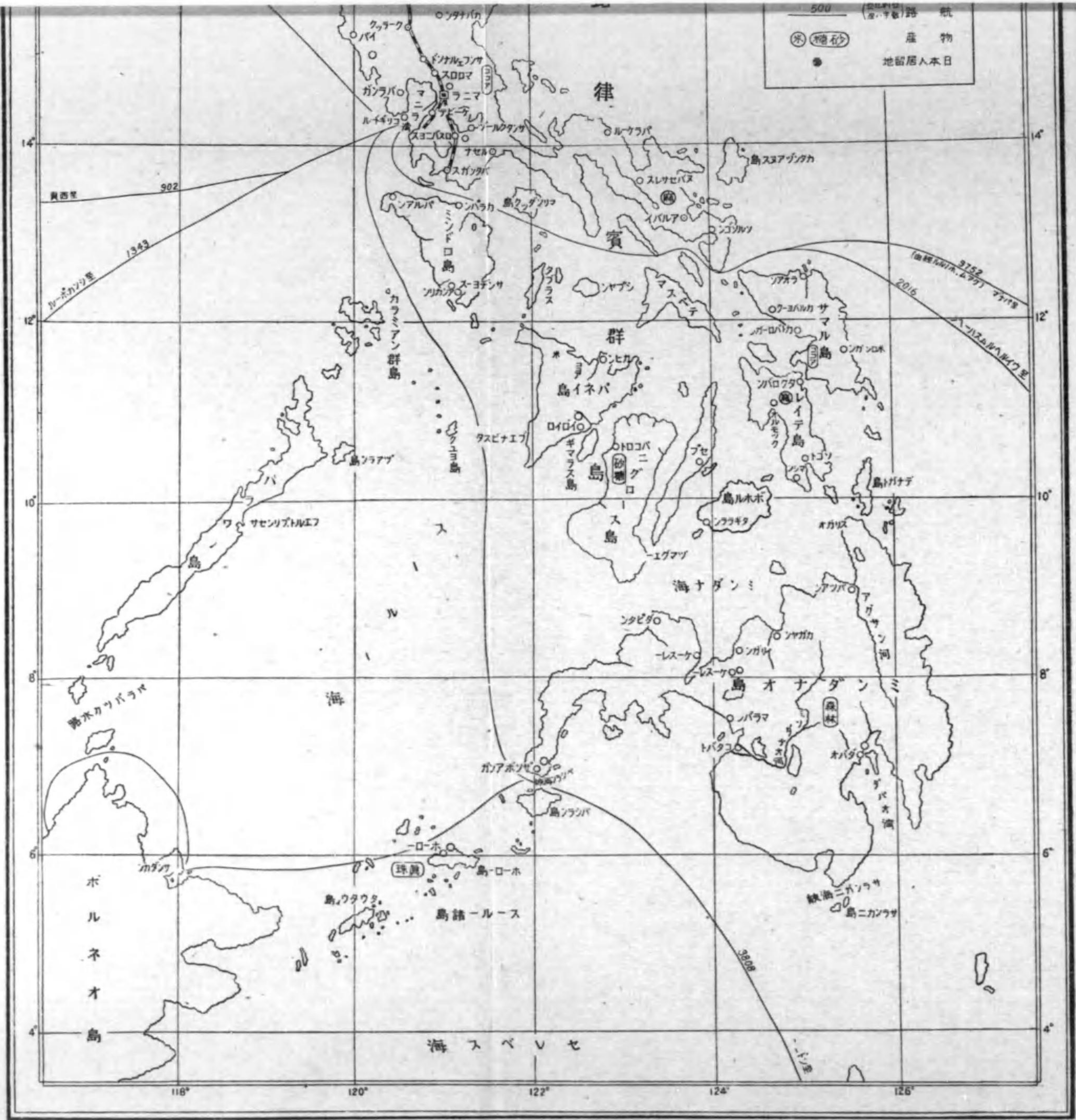
面積 全面積は日本の半分よりも小さく、丁度日本外地（朝鮮、  
 一、八二一平方哩）に略ぼ等しく十一萬四千四百平方哩である。群  
 島、サマール、ネグロス、バナイ、パラワン、ミンドロ、レイテ、  
 の合計面積は全面積の約九割四分を占めてゐる。又、北のルソン島と  
 積の約四割、後者は約三割を占めてゐる。  
 多數の島嶼より成り立つため海岸線は長く、二萬二百六十哩に達

慈の者没痛樹



る在に地慈チカ

尤 在 と 付



面積 全面積は日本の半分よりも小さく、丁度日本外地（朝鮮、臺灣、樺太、南洋委任統治領）を合した面積（一二、八一二平方哩）に略ぼ等しく十一萬四千四百平方哩である。群島中一千平方哩以上の大島はルソン、ミンダオ、サマール、ネグロス、バナイ、バラワン、ミンドロ、レイテ、セブ、マスバテ及ボホルの十一であつて、その合計面積は全面積の約九割四分を占めてゐる。又、北のルソン島と南のミンダオ島が、特に大きく、前者は全面積の約四割、後者は約三割を占めてゐる。

多數の島嶼より成り立つため海岸線は長く、二萬二百六十哩に達し、日本の海岸線（一五、七二二哩）よりも長



軍艦別病死者の墓

馬尼刺カチ墓地在に在る

位置 比律賓は亞細亞大陸の東南洋上、南支那海と太平洋間に、南北七千哩、東西七百哩に互つて散在してゐる七千八十三の島嶼より成る群島である。尤もその中、四千六百四十二は名もない小島である。

二、地誌

矢矧艦長 山口傳一

ラ合群諸テ諸士ノ忠魂ヲ弔フ  
 紀元二千五百七十九年  
 大正八年一月十九日

東洋の中心

日本人には比律賓と言へば南洋海洋中の一群島と云ふ感じを直ちに抱かしめるのであるが、今日の如く將に海洋時代となりて、海上輸送の経費が陸上輸送経費の二十分の一に過ぎない時代になつて見れば比律賓は東洋の中心とも稱し得られるのである。即ち、比律賓の首府マニラ市を中心にして、横濱までの直線（約千七百哩）を半径として圓を描けば、北京・漢口・バンコック・シンガポール・バタビヤ・グアム等も皆入つてしまひ、その中の人口は三億以上に及び、又、その半径をマニラ、シドニー間の直線（約三千五百哩）として圓を描けば、その中に既に八億の人口を包容し、世界重要物資の半以上を包含するに到るであらうと云ふのである。尙その上に比律賓から米大陸も、歐羅バも等距離の所にある。これ等の點に於て、東京も、上海も及ばないものがある。

**地勢** 比律賓群島の地勢は、一般に各島とも山岳丘陵起伏して、丁度日本のその如き感がある。然し、山地は日本程多くはない。島は火成岩で成立つて居るものが多いのであるが、海岸や、小さな島は珊瑚礁より成るものもある。

比律賓中の最高峰はダバオ島にあるアポー山の三、一四二米（日本の富士は三、七七六米）であるが、山姿秀麗なるものはルソン島東南部にあるマヨン山（二、四二二米）であつて、比律賓在住邦人は比律賓富士と稱して居る。その他に、避暑地たる山都バギョー市に近いサント・トーマス山（二、二五八米）やバタンガス郡のタール湖中に噴出して居るタール活火山（世界最低の火山）等が有名である。又比律賓は日本と同様火山も多く（活火山二十餘）従つて地震も多い。

尙、ミンダナオ島の東北四十哩の所には世界最深のエムデン海淵がある。その深さ一萬六百三十米に達して居る。氣候 比律賓は北緯四度四十分から、同二十一度十分に互る熱帯中に散在する群島である爲に、四季常夏ではあるが、又同時に焼け死ぬ程暑い事はない。中央マニラ市に於ける酷暑期（五月）の最高氣温記録は華氏百一度、乾冷期（十二月）の最低氣温記録は七十四度であり、全群島三十年間の年平均氣温が七十八度であるから、夏の日本よりも遙に涼しく暮し易い。

大體、暑氣の甚しいのは四月、五月、六月で雨期（雨季）七月から十月）に入れば緩和される。涼しいのは十一月から翌年二月頃迄である。又、西北部地方は季節風（モンスーン）の影響を受けて、乾燥期（十一月から五月）と雨季（六月から十月）とに區別される。雨量は最も少き地方に於ける最低平均六〇・七三吋、最も多き地方の最高平均一二五・六八吋で、マニラ市に於ける平均雨量は七五・四六吋である。

毎年二十日から二十日前後に日本を襲ふ颱風は比律賓の東方海上から發生して北上するものであるとされ、比律賓では北半分が冒される處れがある。従つてこの颱風の襲ふ地方では風に非常に弱いマニラ麻は栽培されない。

人口 比律賓の人口は（一九三六年七月一日現在推計）一三、二六六、七〇〇人である。今この數を亞細亞の他の國又は植民地と比較して見れば別表の通りである。

地名	人口 (一九三四年末推計)	面積 (平方哩)	積 (平方哩)	一方新當人口 (一九三〇年度分)
地 比 律 賓 國	一三、〇五五		二九六	四二
泰 國	一二、九五〇		五一八	二二

颱風の發生

蘭 領 東 印 度	六〇、七二七	一、九〇〇	三五
佛 領 印 度 支 那	二二、三〇〇	七四〇	二九
滿 洲 國	二九、六〇六	一、四一六	二一
英 領 印 度	三六六、八〇〇	四、六七四	七五
支 那	四五〇、〇〇〇	一一、〇八一	三九
日 本 (内地ノミ)	六八、五四〇	三八一	一八一
日本全體 (外地南洋トモ)	九七、六九四	六七九	一四一

主權問題は別として、國家の他の要素たる國民と國土の點に於ても、尙將來に待つものが多い。然し、和蘭や、白耳義や、葡萄牙の本國のそれ等に較ぶれば國土に於て數倍し、人口に於ても、二倍に近いのであるから、國民が努力さえすれば、決して完全なる獨立國家たる事は難くないであらう。

住民 比律賓の原始民族はアフリカにその類似人種のある黒色で、縮毛のネグリート族であると稱せられて居る。そして、最初に移住して來た人種は現在各地方の山岳地帯に見受けるインドネシヤ人種のイゴロテ族やバコボ族であつて、その次に大舉して移住して來たのが、現在基督教信徒となつて居る大部分の比律賓人でタガログ、ビサヤン、イロカノの三大族を中心とする馬來系人種である。最後に入つて來たのが南方より來れる回教徒で、最も勇敢且つ世襲の統治者を有するモロ族であつた。このモロ族の中には十四世紀アラビヤからボルネオ方面を経て比律賓南部に移住したアラビヤ系の者と、以前より比律賓又はボルネオ附近に居住してゐた馬來系の者とがある。

普通、比律賓に於ては、種族の分類を宗教上から基督教徒族と非基督教徒族とに二大別し、前者を使用言語に従つ

て六種族又は八種族に區別し、後者を回教徒族と數種の異教徒族とに區別して居る。その人口の上からは基督教徒族が總數の約九割を占め、後一割の中回教徒が四分、異教徒が六分の割合である。今此等種族の状態を一覽表として見れば、

種族の名稱	居住地	人口	刊行書籍種數
(甲) 基督教徒族			
種族名	居住地	人口	刊行書籍種數
タガログ族	ルソン島中央部	二、一九一、〇四八	一、五八〇
ビサヤ族	ビサヤ諸島	四、九〇七、九四三	七一〇
イロカノ族	ルソン島北西部	一、二一六、二七四	五四〇
ビコール族	ルソン島南東部	八二九、二九二	三〇六
バンバンガ族	ルソン島中部(南)	四〇四、六一一	二七七
バンガシナン族	ルソン島中部(北)	四二二、四五七	一〇四
カガヤン族	ルソン島北東部	一五八、六四八	
サンバラ族	ルソン島中部(西)	六四、五六八	
(乙) 非基督教徒族			
回教徒モロ族	ミンダナオ島中西部及スール群島	三七二、四六四	
異教徒族	(二十六種族)	四〇二、七九〇	
イゴロテ族	ルソン島北部山岳地方	二二七、七八二	
バコボ族	ミンダナオ島	(推定) 五萬	
ネグリート族	各地の山中	(推定) 七千	

○備考 一、基督教徒族の人口は一九二九年のベイヤ教授作成によるもの。  
 二、刊行書籍種數は一九一六年の統計によるものにして、その種族語に依つて著述されて居るものである。  
 三、非基督教徒族の人口は一九一八年の國勢調査によるもの。

人口數に於ては、ビサヤ族が最も多いのであるが、文化的にはタガログ族が概して優れて居るのである。之はタガログ族が西班牙時代より首府たるマニラ市を中心とする周圍に居住してゐた爲である。一九三九年一月十一日比律賓の國民議會がタガログ語を以て公用國民語と爲す事を議決したのも之が爲である。又、タガログ族の代表者とも見られるケンシ氏がコンモンウェルスの初代の大統領となり、ビサヤ族の代表者とも見る可きオスメニヤ氏が副大統領となつて居るのも、その一面を物語るものである。然し、教育が進み、國語が統一されるれば、比律賓に於ける種族の相異の如きは差あるものではないから、何れの國家に於ても見られる通り單一種族でなくとも、立派な同一國民となり得るであらう。

次に、比律賓在住の外國人の數を見れば(この數には米國の陸海軍人は除外す)

國籍別	一九〇三年	一九三六年	國籍別	一九〇三年	一九三六年
日本	九二一人	二〇、六四一人	西班牙人	三、八八八	四、六四七
米國	八、一三五	六、〇七八	其他	一、四九二	二、五一三
英國	六六七	六四〇	合計	五六、一三八	一一〇、九七五
支那人	四二、〇三五	七六、四五六			

第三節 比律賓諸島

〔備考〕一九〇三年のは國勢調査、一九三六年のは比律賓統計局發表による。

この三十年程の間に於ける比律賓在住外國人の數の變化は誠に興味あるものにして、米英の後退と、日本の飛躍的增加、支及び西の國內の内亂に基く海外逃避等を雄辯に物語つて居る。それにしても、米國人の在住者の意外に少いのは、結局本國に於て十分國民を培養し得るが爲であつて、海外に移民を出す必要に迫られてない實證でもある。

華僑 支那人の多いのは地理的及び歴史的關係に基くものであつて、既に遠く支那と比律賓との交通は漢時代（紀元前六世紀頃）より起り、唐宋の時代には交易も次第に行はれ、又、唐時代には比律賓の一部より朝貢した事もあつた。然かし、兩國の交通の繁くなつたのは、西班牙人が比律賓を征服して後の事であつた。

## 日本甲螺

明の萬曆二年（皇紀二三三四年）に福建省泉州の海賊リマホン（林鳳又は李馬奔と當て字をなす）なるものが、日本甲螺の將シオコ（庄公）と共に兵船六十二隻、水陸の兵約四千餘、それに舟子千五百餘（婦女子なりしとの説もあり）を加へてマニラを襲ひ失敗した事もあつた。

西紀一五九〇年前後には、支那人のマニラ附近永住者の數二三千に達し、一五九七年の比律賓總督の報告書中には、その數一萬以上に及びたる爲、西班牙人に必要なる三四千人を留むる外、全部を放逐すべきを述べて居る。而して、一六〇二年以來一七六二年の間に於て、數回に互つて支那人の虐殺事件が行はれて居る。その中最も甚しきものは一六三八年に行はれた事件にして、當時マニラ附近三萬三千人以上、其他地方の州内に約一萬人に上る在住支那人が居たのであるが、此等は、ラグナ州知事等が不當なる處置を爲したのに堪え兼ねて叛起したのを機會に、殺害されたるもの實に二萬二三千人、捕へられて飢餓に苦しめられるもの七千八百餘に達したと云ふ。其後も幾度か西班牙人

は支那人勢力の増大するのを惧れて暴虐なる方法を以て抑壓して居る。

一九三六年に於ける比律賓の國籍を有せざる支那人の數は前述の通り七萬六千餘であるが、支那人にして、比律賓の國籍を有する在比支那人（二重國籍者）數は十五萬内外と謂はれて居る。又ミシガン大學のラルストン・ヘイデン教授は『比律賓人中、最も富有にして有力なる者七十五萬人中には支那人の血が混じて居る』と稱して居るが、この數は決して過大に見られて居るものではない。

## 在比支那人

尙、この在比支那人を他の南洋華僑の數に較ぶれば、（泰國約二五〇萬、馬來半島約一七〇萬、蘭印約一二三萬、佛領印度支那約三八萬、ビルマ約一九萬——一九三五年蘭印政府華僑事務委員會發表）決して、多いものではない。然し、全比律賓に於ける小賣・行商・貿易・金融等の全職業の約七割を占め、その血を混する者が多數政府要人となつて居る事實を知る時に比律賓に於ける支那人の勢力を輕視する事は出来ない。

風俗習慣 比律賓人中には東洋唯一の基督教國であると稱して誇つて居るものがあり、又米國統治半世紀に及ぶ結果アメリカンライズ（米國化）した者も相當多く、歐米風な風俗と習慣とを過分に持つて居るので、一見大變進歩した國民らしく見える。

男子は白洋服着用者が多いが、西班牙時代の服裝とも思はれるバロンタガログと稱してバジヤマ風の上衣も相當に使用されて居る。女子も同様に歐米風の洋装か、西班牙風の優雅なバリンタウオクと稱するものと、その進歩したと思はれるメスチザ・ドレス等がある。

比律賓人の主食物は米又は玉蜀黍を碎いたマイスであつて、肉も魚も食する。然し、支那人の様に脂肪分も攝らず



且食卓は豊富とは謂ひ得ない。第一の御馳走はリッチェンと稱する豚の丸焼である。

次に、比律賓人の家屋であるが、之も都市の歐米風建築は別として、他は竹の柱に茅の屋根式の所謂ニッパハウス（ニッパと稱する椰子の葉で屋根を葺いたもの）である。農村では亜鉛屋根の家は村長さんと外二三の地主位なもので、他は押して知る可しである。

#### 都市の人口

都市 比律賓には工業らしい工業が始どなく、従つて都市は商業都市のみである。首府マニラ市が人口僅かに四十萬、ビサヤ地方の中心都市セブ市が約九萬、避暑都市バギウ市が約二萬、日本人の多いダバオ市が約二萬、その他に、パナイ島のイロイロ市が五萬、呂宋島東南ビコール地方の商業中心地たるレガスピ市が約三萬。以上が代表的都市であるから比律賓社會状態の半面は十分窺ひ知られるであらう。

### 三、政治

西班牙の統治 西班牙人の比律賓領有は、トルデシラス條約（一四九四年）に依つて、葡萄牙人が發見した（一五二二年）と云ふ香料群島（モルッカ群島）を西航して、我有に歸せんとする、マゼランの率ゆる遠征隊に依つて、途中發見、領有されるに到つたもので、その後も、西班牙政府は香料群島探検隊を重ねて居る程である。當時は新しく發見した土地は一先づ領有して、遠征隊又は貿易商船隊の根據地とするのが通例であつた。

比律賓征服の爲に當時のノビスパニヤ（新西班牙）と稱せられた今のメキシコからレガスピを送つたのはマゼランが比律賓に到達した後四十四年のことである。西班牙王フィリップ二世はその征服の報を得るやレガスピを大守

に任じて、その征討の功勞者に群島内の土地を數區に分割して領ち與える事を許したのである。之をエンコミエンドと稱し、一種の莊園制度であつた。この區の中に多數のバラングイ（村）があつて、税金の徴收はこのバラングイの長（カベッサ）に請負はしめ、一家族から年八比位を取り立てたのであるが、若し未納者があれば、カベッサに代納せしめる方法を執つたので、カベッサを三年勤むれば、如何程の金持も貧乏するものとされて居た。若し首尾善く勤め上げると名譽村長格（ゴブルネルシリオ）として帽子と靴の使用を許したのであつた。この制度は西班牙統治の末期にはブエプロ（郡）とバリオ（村）の制度に改められ三十四郡九百村に分たれてゐた。

當時、西班牙が葡萄牙と競つて新領土獲得に熱中したのは、一つには領土慾に驅られ、唯一の富と過信した黄金と各地の珍奇な物資の輸入に努めた外に、國教たるカトリックの布教も亦その一つの目的であつた。故に、マゼランの探検隊にも、レガスピの遠征隊にも幾人かの僧侶が加つて居たのであつた。而して、一度比律賓征服の報が本國に傳はるや、カトリックの各教派は各々布教師を送つて、布教に努めた。その主なる教派はオーガスチン派、ドミニカン派、フランシスカン派の三派であつた。是等の僧侶は、各地方土民の中に入り込み、生活を共にし農耕を教え、先ず彼等の心を捉へ、天主の爲と稱して、寺院の大伽羅を作り、金色燦爛たる祭壇を設け、莊嚴なる儀式を行ひ、以て土民の精神を寺院中心に爲さしめたのであつた。

斯くの如き寺院僧侶の活動と努力とは、全く土民をして心服歸依せしめ、彼等の生活は何事に依らず寺院中心となるに到つた結果、僧侶は土民の爲に租税の收支裁判に参加し、官吏の任免にも容喙する様になり、遂には役人以上の實勢力を有し傲慢不倫の生活が始つたのであつた。第七代目の太守ダス・マリニアスの時から、太守すら寺院僧侶の

#### 西班牙の統治

爲に忌諱に觸るればその重要な地位から追はれる様になつた。當時レンデンシアなる制度があつて、新太守が任命されて來ると、前任者の治績裁判が開かれて、大僧正も出席出来る事になつて居たので、在任中の罪惡をあげて、有罪の宣告を爲し、前太守を本國に於て投獄せしめ得られたのであつたから、太守たるものも大僧正の前には頭が擧げ得られなかつたのである。

此等寺院の所有して居た土地は實に廣大なものであつて、米國が比律賓を領有するや強制的に政府が買取つたのであつた。

西班牙人の  
恩恵

然し、未開の比律賓人に與えた西班牙人の恩恵も決して少いものではなかつた。即ち古來よりの迷信や原始宗教以外には、僅かに南方に回教が入つて居たのみであつた全群島に基督教が擴められ、當時進歩して居た歐洲の政治思想に基く政治組織が取入れられ、産業方面にも、著しき進歩を見た。殊にこの方面に盡力した太守としては、一七七〇年に就任したドン・シモン・デ・アングデアであつて、僧侶の弊風を矯正すると共に、他方産業を起した。その後繼者たるヴァスコ太守も産業に心を用ひ、經濟協會を作り、米や甘蔗の耕作を奨励普及せしむると共に、木棉木綿の栽培や養蠶をも試みた。この經濟協會はその後百年程も繼續した。又一七八二年には、煙草專賣法を創め、一七八五年には比律賓會社を創設し、自國商人の手にて比律賓生産物を本國に輸入する事に努むると共に、印度及び支那方面との貿易を盛ならしめたのであつて、この會社は一八三〇年まで特許されて居た。

然かし、斯る間に、東洋を直指して、躍進を續けて來た和蘭や佛國や英國との競争は日に激甚を極めつゝあつたが、一五八八年に英國の爲に無敵艦隊が破られ、「日の没する時なき大君」と謳はれたフィリップ二世の没後は遂に降

り坂となり、英雄ナポレオンの出現にその蹶躓は免れたけれども、その前後の社會思想の大變化（佛國革命及び英國の産業革命）には追従し得ずして、舊思想を墨守したる爲、メキシコを始め南米の諸領土を失ひ（メキシコの獨立は一八一〇年）國力甚しく衰微するに到つたのであつた。

雇役の制度

當時歐洲の天地を燎原の火の如くに、風靡した自由民權の政治思想は、老大國西班牙にも深く侵入し、一八一〇年頃には一時民權派が勢力を得て、議會を左右し「西班牙の領土は、悉く王國の完全なる版圖にして、その住民も亦本國の人民と同等の諸權利を有す」と爲し、之を比律賓にも傳へたので、土民は當時「雇役」なる制度の下に、一年の中一定の勞役に服せしめられて居たのを開放されるものと喜んだが、民權派は間もなく失墜して王權が復活し、一八四一年に前の國會宣言を取消したる爲、比律賓に於ても再び奴隸的の制度が維持繼續される事になつた。之が爲にイロコス地方に於ては千餘名の土民が蜂起して寺院や、郡役所を襲ふ等の騒動を惹起した。

又、一八四一年に比律賓の青年にして大學教育を受けたアボクナリオ・デ・ラ・クルーズが僧侶となり、進んで教團僧たらんと望みたる所、土人はその地位に就き得ない規定がある爲許されなかつたので教職を退き、故郷タヤバスに歸り、新に教會を作つて本山に申請したるが、土人が教會を開設する事も規則違反として、郡知事を通じ逮捕方を命じたので、彼は山中に難を避けた。之を傳へ聞いた信徒共は、ラグナ、タヤバス、バタンガスの諸州に同志を募つて反抗し、逮捕に向つた知事の軍隊に挑戦して、知事を殺すに到つた。そして青年デラクルーズはこの叛軍に迎へられてタガログ王と號した。之を聞いたマニラ政府は打驚いて、フェット將軍を派遣し討伐に當らしめ、遂にタガログ王も二十七歳を最期に戦場の露と消えたのであつた。又、一八四四年にボホール島で土民がダゴホイと云ふものを首

領として叛亂を起し、附近のゼスイット派寺院を襲つて僧侶を殺し、小共和國の如きものを建設して西班牙人に對抗した事もあつた。之は一八四七年に西班牙軍の爲に山中に追込まれて平定された。

斯くの如く長い間西班牙の封建的統治の幕に包まれて居た比律賓にも内に外に黎明の曙光が次第に強く輝き初めて来た。殊に一八六九年（明治二年）にスエズ運河が開通し、歐洲の文物が雪崩の如く東洋に流入し來つて、日本は明治維新の大革新となり、支那には歐洲諸國の侵略急なるものがあり、比律賓にも亦覺醒の機運濃厚なるものがあつた。時、偶々西班牙に於ても、政治思想の大變換に基く、政體の大變動があり女王イサベラ二世が廢せられて共和國が出現した。その結果、共和政府より任命されたラ・トーレ將軍が比律賓太守として來たのであつた。トーレ太守は著任匆々、太守就任式の繁雜なるを簡易にし、比律賓人の行動を努めて自由にし、西比關係を密接にせんとしたのであるが、既に比律賓に古く在住せる一般西班牙人や僧侶は之に依つて失ふ處が多いので、喜ばざるのみならず妨害さえするに到つたのであつた。

その頃、從來兎角相争ふて居た西班牙系の教團派と羅馬法王直轄の正教派とが、思想的轉換期に拍車をかけられて、對立的情勢を一層濃厚にし、土民僧侶たるブルゴス、ゴメス、ザモラ等三人は全島各區が殆んど教團派の掌中にあるにも拘らず、羅馬法王の支配下に置かんとしたが、一たび共和國となりたる西班牙本國が再び王政に復歸したる爲、比律賓に於ける教團派も力を得て、西班牙官吏と結托し新興運動を抑壓せんとしたのであつた。折しもキャピテ軍港に於て、約二百名の土民兵が反亂を起し、その騷擾の原因を前記三僧侶の煽動に依るものとし、捕えて叛逆の大罪なりと稱して、無實の三名をマニラの郊外バグンパンヤンの刑場に於て、銃殺の刑に處した（一八七二年）であつ

西、羅兩教  
派の對立

た。この報一度び全比律賓に傳はるや、血氣の青年は各地に憤起したが、西班牙官吏及び僧侶等の監視嚴重を極め、公然と集合するを得ざりしも、當時既に比律賓各地にその支社が設けられてゐた秘密結社フリーメイソンの運動と合して革命運動の會合も行はれて居たのであつた。

又、スエズ運河開通以來、歐洲文化に刺戟された比律賓青年は、年を追ふて歐洲に留學するものが増加し、又西班牙に在るものは民族運動派の西班牙人も加えて、イスパノ・フィリピナ協會を設立し、比律賓に於ける西班牙官吏及び僧侶の暴狀を歐洲人に訴えて改革を促したのである。此等の青年中に、現代比律賓人より神の如くに仰がれるリザールも入つてゐたのである。

## 革命の氣運

一八九六年に到り、比律賓各地に於ける新進氣鋭の青年を動員しカチブナン結社（一八九二年マニラに本部を置く）を組織したるフレッセル汽船會社の書記より身を起したアンドレー・ボニファシオは時到了らば一舉に西班牙人を撃殺して革命を遂行せんものと畫策中、同志の一人がその秘密をオーガスチン派の女學校に居た妹に告げたのを、居合せた尼僧がその陰謀を教父ギルに告げた爲、遂に露顯して、多數の青年（同年八月より十二月に互り三百四十餘名）が檢擧逮捕されて、アフリカの西海岸フェルナンドポールの西班牙領牢獄と、地中海のシウダッド城砦に送られて投獄されるに至つた。然し、各地方のカチブナンに加盟せる革命の志士等は、準備不十分乍ら次々に蜂起して各地に叛旗を擧げたのであつた。この時、バリントワークに最初の旗擧げをしたボニファシオは討死し、サン・ファン・デル・モンテの戦には多數の同志を喪ひ、又、愛國者ホセ・リザールもカチブナン結社に關係あるものとして捕へられてマニラの郊外ルネタに於て銃殺の刑に處せられたのであつた。然しこの時の革命運動は相當に根強く、ルソン島の主

西、比間の  
秘密條約

宅邸の軍將ドルナギア



るあで軍將は目人二りよ左てつ向で宅邸る在にテ、ウカ

なる八州に兵火が舉り、後には遠く各地に擴がり、就中  
キヤビテに兵を擧げたエミリオ・アギナルド（當時二十  
八歳）はキヤビテ軍港の工廠を襲ふて兵器を奪ひ（一八  
九六年八月二十三日）その勢盛なるものがあり、自由と  
獨立とを宣言したのであつた。西班牙は、當時、政  
に於ても同様叛亂（一八九五年二月より最後の革命勃  
發）のありたる爲と、國運日に衰へて、最早全力を比律  
賓に注ぐ能はざりし爲、遂にビキヤクナバト（ブラカン  
州）に於て、アギナルド將軍と和を結び（一八九七年八  
月四日）、比律賓統治の改革を約して一時を糊塗したの  
であつた。

このビキヤクナバト條約は、當時マニラに在住した知  
名の比律賓人たるバテルノガリベラ大守とアギナルド將  
軍との中間に立つて成立したものであつて、秘密條約で  
あつた爲内容は判然としなが大體次の通りである。

(一) 宗教命令の撤廢

(二) 西班牙議會へ比律賓代表者の參加  
(三) 比律賓人と西班牙人の法律上の同等待遇

(四) 比律賓統治の高官に比律賓人採用

(五) 出版の自由及び結社の權利附與

(六) 西班牙政府は戰亂に依つて資産を失つた者、寡婦又は孤兒  
となつた者及び海外に亡命せる革命の指導者に對し賠償金とし  
て三百萬ペソの支拂（これは後に八十萬ペソに減ぜられた。）

今日、尙、七十餘歳で豊饒として居るアギナルド將軍は、「この  
條約に依つて比律賓人が始めて西班牙人から人間として取扱はれる  
様になつた」と語つて居る程、當時の西班牙統治は苛斂誅求を事と  
したものであつた。

この條約が成立するや、革命の烽火を擧げて以來一年四ヶ月目に  
して（一八九七年十二月十六日）アギナルド將軍は、平和回復の宣  
言を爲すと共に、一週間後には條約に基いて四十名の革命指導者が  
ビヤクナバトを出てカルンピットから汽車に乗りダクバンに向ひ、  
パンガシナン州のスワル港から西班牙の商船に乗つて香港に向つて亡命した。將軍の言に依れば、「當時マニラ政府は

平和回復の  
宣言

家民の結締約條トバナクキビ



だん結を約條のと牙班西年七九八一  
るあで部幹の軍命革は物人で家人

パンガシナン州のスワル港から西班牙の商船に乗つて香港に向つて亡命した。將軍の言に依れば、「當時マニラ政府は

第三節 比律賓諸島

八十萬ベソの中四十萬ベソしか支拂ひ得なかつた爲に、人質として、西班牙の軍人モネット及タルヒの二名を伴れて行つたとの事である。

革命の中心人物を巧みに海外に追放した西班牙人は、ピヤクナバト條約の條項を履行するどころか、直ちに従前以上に搜索を嚴にして、革命の指導的人物を検挙逮捕し、投獄せしむると云ふ暴狀に出たので、再度各地に騷擾が續發し、僅かに數ヶ月後の一八九八年四月にはセブ市に於て六千の比律賓人が西班牙の官衙及び兵營を襲ふに到つた。

西班牙の植民地統治は何れも同様で、西印度の玖瑪に於ても一八九五年腐敗せる官吏の暴虐極まる振舞より長期に互り反亂が起き、その後も暴動は屢々繰返された爲、玖瑪に投資する外國資本家、就中米國資本家は其の被害を蒙る事が多かつたのであつた。又、當時は玖瑪と米國間には報復的關稅戰が火花を散らし、一般米國民の注意を引いて居る時であつた。偶々玖瑪のハバナ港に在泊中の米國戰艦メイン號が原因不明の爆發（一八九八年二月十五日夜）をしたので、米國民が激昂し、米國議會も遂に玖瑪の自由と獨立との爲に援助を聲明して、その年四月二十日宣戰を布告するに到つた。

## 米西海戰

當時、香港に米國艦隊の一部を率ひ在泊して居た水師提督チー・ヂ・デウィは直ちに比律賓に艦隊を進め、五月一日朝、モントホ提督の率ゆる艦隊をマニラ灣に於て擊破した。

是より先、香港に亡命中のアギナルド將軍はシンガポールに於て米國の總領事スペンサー・ブラットと會見し、革命援助の約を得て、香港に戻り米艦マッカロックに乗りてマニラに到りキャピテに上陸し、再び革命の旗を擧げ執政官となり、六月十二日に獨立宣言を發し、二十三日に革命政府を樹立して假大統領となり、十一月十五日議會を召集

したのであつた。

ヂェウー提督の勝利を聞いた米國は、七月末に約八千五百名の軍隊を送り八月十三日マニラ市を占領した。アギナルド將軍の言に依れば、「實際、マニラを攻撃したのは比律賓人であつて、いざ入城と云ふ時に比律賓人は城外に止められて米國人が入城してしまつた」と云ふ。

## 米西媾和

米國は正義の美名下に、哀れむ可き被壓迫民族たる比律賓人を救ふかに見せかけて、大兵を送り、革命運動を助けて西班牙軍とマニラ城下の誓をなさしむるや、全く態度を一變し、米西媾和委員が巴里に談判し、米國は二千萬ドルを西班牙に與へて、比律賓人の保護と指導とを口實にして比律賓を領有するに到つたのであつた。

斯くして、西班牙はマゼランが比律賓を發見してより三百七十七年目、レガスビーが征服してより三百三十三年目にして遂に之を失ふに到つたのである。

**米國の太平洋進出** 米國が七十餘年間墨守したモンロー主義（一八二三年宣言）を弊履の如く捨て、帝國主義約に變して太平洋に乗出し、然かも五千哩の大洋を越えて比律賓を領有した事は、單に玖瑪の獨立問題より惹起された米西戰爭（一八九八年）の結果東洋に於ける同じ西班牙領の比律賓をも領有したと云ふ偶然的なものではなかつた。米國が太平洋へ、そして東洋の比律賓に手を出す迄には實に用意周到にして且つ撓まざる努力が續けられた事を忘れてはならない。

米國が一七八三年英本國の壓制に耐え兼ねて獨立した當時は、大西洋岸の十三洲のみであつたのであるが、一八〇三年には佛國よりルイジアナ州（一千五百萬弗）を、一八一九年には西班牙よりフロリダ州を買収（約六百四十九萬

弗)して大陸の中央部に達する東半を纏めて膨張米國の基礎を固めたのであつた。而して、曾て佛國に特派大使として使しルイジアナ州買収に盡した(一八〇三年一月)ジェイムス・モンローが大統領(第一期一八一七—一八二一年)たるに及び、當時佛蘭西革命(一七八九年より)に依つてその時に達した自由主義に對する反動として、奥國の宰相メツテルニヒ(一七七二—一八五九)を中心とし、神聖同盟を利用する反動政治となつて現はれ、自由主義の抑壓と内政干渉となしたる爲、此の神聖同盟の干渉が米大陸に及ぶを恐れた大統領モンローは該同盟に追隨せず、自主的外交の樹立を圖つてゐた英國外相カンニングと呼應して、所謂モンロー主義なるものを宣言(一八二三年十二月二日)したのであつた。

しかし此のモンロー主義は歐洲諸國の米大陸への壓迫干渉を排撃したものであるが、米國自體は之を國是として、保守的に閉ぢ籠つて居る意味ではなかつたのである。即ち一八四五年にはテキサス共和國を併合し、その翌年にはオレゴン州を英國より譲り受け、一八四八年には墨西哥と戦つて、カリフォルニア、アリゾナ、ニューメキシコの諸州を獲得して遂に太平洋岸に達し北米大陸を中斷する大國家となつたのであつた。

マハン大佐の喝破

丁度その頃、米國に生れた海軍戰略家エー・テー・マハン大佐は一八八九年に「海上權力史論」を著し、その中で「海洋を政治上、社會上より觀察すれば、その最も著しき點は一大公道たるに在り、否寧ろ大なる公共有地たるに在り」と喝破し、海洋に關心を有せざる國民に米國が世界の二大洋たる大西洋と太平洋に跨る事を喚起し、次に「商船若くは軍艦の自國沿岸を去るや直ちに起る必要は貿易上にも、避難の爲にも、又必需品供給上にも安全に寄泊し得べき海港を得るに在り」と稱して、海外へ飛躍の足場たる根據地の必要を力説し、「生産あれば則ち産物交換の必要に生じ、航海業ありて以て此の交換を行ひ、而かも植民地ありて以て航海を便利にし、其の航海の範圍を擴張せしむるに隨ひ各植民地に於ては安全なる礎繋所を増加して以て航海を保護するに至る、此の生産、航海、植民の三者は是れ實に海國民の政策竝に其歴史の關鍵なり」と力説して、以て大陸國となりたる米國が、大海國たる可きを示唆したのであつた。

米國商工業の發展

進取的な米國民はその後間もなくこの言の如く東は大西洋に、又西は太平洋に於て、その指示せる海國政策を執つて航海に便する良き港灣を求むると共に、總ては生産物の捌口たる植民地を求めると至つたのであつた。即ち米國は獨立して間もない一七九一年に於て對外輸出總額が僅かに二千萬弗(以下ウエブスター著「ゼネラルヒストリー・オブ・コンマース」三六七頁より)に過ぎなかつたものが、佛蘭西革命に次ぐナポレオン(一七六九—一八二一)の出現による所謂大陸戦争(一七九三—一八一五年)に依つて、米國の商工業は著しく進歩し一八六〇年には三億三千萬餘弗に達し、此等輸出品を運ぶ米國の船舶噸數は十二萬餘噸(一七八九年)から二百四十九萬餘噸(一八六一年)に増加したのであつた。斯くして曾て農業國たりし米國は商工時代へと推移すると共に、其の生産品の販路を海外に求むる爲に、保守的なモンロー主義の假面を捨て、積極的な帝國主義の素顔を表すに到つたものであつた。殊に、新しき大洋たる太平洋に領土が達するに及びて、自然太平洋を越へて、遙か亞細亞へと眼を注ぐに到つたのである。

是より先、米國がモンロー主義の宣言を爲すに到つた一つの別個の原因があつたことを忘れてはならない。それは當時西比利亞經略に成功した露國が、オホーツク海よりカムチャツカ半島に達し(十七世紀中葉)、獸皮貿易に従事する者は遂にベーリング海を渡りてアラスカに到る様になり、それ等の報告に依つて一七九九年ボウル一世(一七九六年—一八〇一年)は露米獸皮會社に最初の特許を與へて北緯五十五度附近に於て未だ外國の主權に屬せざる亞米利

太平洋に對する米國の關心

加の地を露國の爲に占領すべき權利を附與したのであつた。(大鹽龜雄著「世界植民史」二二〇頁)斯くて露國は米大陸を次第に南下して一八二二年カリフォルニアの一角を占據して植民地を建設しようとしたのであつた。當時未だ太平洋にその國土の領域が達してゐない米國ではあつたが、その商船は南米又は南阿を迂回して、太平洋岸一帯の貿易に従事して居り、殊にカリフォルニア近海は米國にとつては重要な物産であつたので、大統領モンローは國務卿アダムスをして露國に抗議せしめると共に、その翌年遂にモンロー主義の宣言となつたのである。(白柳秀湖著「世界經濟闘争史」三六四頁)後ち、カリフォルニアの併合(一八四六年)と、その地に於ける金鑛の發見(一八四八年)は、太平洋方面への進展に拍車をかけるに到り、遂に露領アラスカの買収(一八六七年、七百二十萬弗)となり、クロナイクに金鑛が發見されるに及んでいよいよ國民の關心を太平洋に注かしむるに到つたのであつた。

**太平洋制覇** 「大洋を制するものは善く大陸を制す」と、太平洋岸の布陣の成つた米國は遠く亞細亞大陸を睨むで、先づ太平洋制覇に奮ひ立つたのである。

先づ、亞細亞に目を附けた米國は、一七八四年(獨立の翌年)に帆船エムプレス・オブ・チャイナ號を南阿弗利加を經由して支那に派遣し、毛皮を積載販賣して、絹と茶を求めたものであつた。この貿易は非常に有利であつたので、一七八七年には五隻の米船が廣東航路に就くに到つた。そして、一八二〇年頃から、毛皮より阿片の方が利益の多い事を知つて、英國船が印度の阿片を支那に輸入するのに對抗して、土耳其産の阿片を輸入して競争を開始した。偶々一八四二年起きた英國對清國の阿片戰爭は、同じ立場の米國にも有利になつて、南京條約の結果、最惠國條款により北京に公使を駐劄するに到り、一八四四年には望厦條約に依つて、通商協定と治外法權の特權を得た。斯る亞

細亞に於ける活躍の結果は本國に報告されると共に、一八四六年のカリフォルニアの併合は遂にベリイ提督をして軍艦四隻に兵卒五百餘人を引率せしめて我が國の浦賀に(一八五三年)現はれるに到つたのであつた。

當時(一八四〇年代より)太平洋では捕鯨事業が盛にならんとして、英、米、露、佛四ヶ國の捕鯨船が出沒して居たのであつた。佛國が一時布哇のオアフを占領(一八四七年)したのも、米國が琉球に貯炭所を設け、南部小笠原島を一時占據したのもその頃であつた。(白柳秀湖著「世界經濟闘争史」三七七頁)

米國の太平洋進出

斯かる情勢下に、米國は海軍根據地とする目的を以て布哇と日本の中間にあるミッドウェー島を占領し(一八六九年)(海軍根據地設置の經費は議會にて可決したるもその計畫を拋棄す)(正岡猶一著「米國膨脹論」一九四頁)、一八七二年には布哇と濠洲の中間にあるサモア諸島の一部(ツツイラ島)を占領して海軍根據地(バゴバゴ港)を設置した。従つて布哇群島は蜘蛛の巣に掛つた小蟲の如く、當然來る可き運命を待たねばならなかつた。即ち十八世紀末(一七九一年)に諸島を平定して王位に就いたカメハメハ王は、その二代の時英・米・佛より獨立國としての承諾を得たのであるが、一八七四年に時の國王が歿して、王位繼承者が絶え選舉王國となるに及び、内争絶ゆる時なきに乘じてグラント大統領(第一期一八六九—一八七三年、第二期一八七三—一八七七年)は米布互惠條約を結び、兩國産物の無税輸入を約すると共に、布哇領土を第三國に貸與又は賣買するを許さず、米國に附與したる特權を第三國に禁止することとなり。次いでアーサー大統領(一八八一—一八八五年)の時同條約の更新を行ひ(一八八四年)布哇眞珠灣を米國海軍根據地として使用し同灣に要塞築港の權を得るに到つたのである。そして、一八九三年女王リウオカラニが退位して共和國となるや、時到れりとして、米國は其の内政に干渉し始め、遂に一八九八年大統領マッキン

レー(第一期一八九七—一九〇一年、第二期一九〇一—暗殺)は之を併合するに到つたのであつた。

**米國の太平洋經營** 若し太平洋の地圖を擴げ、此處に殺到し來たれる歐米列國經過の跡を比較して見る時、恰も正眼に構へて來た米國布陣の賢明にして堅實なる事は正に稱讚に値するものがあると共に、この雄大なる布陣は恰も五子を先に布ける碁戦にも似て、米國を相手とする太平洋制覇には如何に苦心と努力とを要するか知らるゝのである。

即ち、北、露國の勢力を追つてアラスカと、それから西へ長く連なるアリューシャン群島を占めた米國は、南、サモア諸島に飛び、次に中央天眼の位置に當る布哇を占めて太平洋を縦に縦斷し、横には米本土から、布哇、ミッドウェー島と飛んで遂にグアム島と比律賓群島を得て横に一線を引いたのであつた。マハン大佐は曾て、「一國にして單に進撃に便なるのみならず、天然の地位上容易に太平洋に出づるを得、且つ世界商業的大通路の一を管制するときは、其國の地位の戰略的價值極めて重大なること明なり」と教え、「西班牙にして若しジブラルタルを失はざりしならば其地位は大に英國に類せるならむ」と。(マハン大佐著「海上權力史論上」五八—九頁)今日の太平洋に於ける米國の布陣は十九世紀末より二十世紀初頭にかけて、地中海に於ける英國の地位以上のものがある。之あるが故にジョン・ヘイの支那に對する門戶解放・機會均等の宣言(一九〇〇年)となり、華府會議に於ける九ヶ國條約の首唱者たらしめたのであつた。

所謂、この米國の太平洋經營は、十九世紀の末期歐洲に於て三國同盟(一八八二年—獨・奧・伊間)と露佛同盟(一八九一年)とが結成せられ、英國が名譽の孤立を守つて歐洲内部の勢力が平均し、約三十年に亙る平和時代を得たる爲、列國は力を海外に用ふるを得、競つて世界政策に邁進し、先づ阿弗利加分割から、亞細亞並に太平洋經營に

マハン大佐の教示

乗出すに到つたが爲に、米國は東にモンロー主義の防陣を布き歐洲列國の米大陸進入を阻止しつゝ、西、太平洋の經營に専念したものであつた。

列國の亞細亞經營、殊に支那侵略は、一八四〇年から四二年に及んだ阿片戰爭に端を開き、長髮賊の亂(一八五六年より)にその内情を暴露するに及びて一層甚しくなり、日清戰爭に依つて眠れる獅子は、單に太れる豚に過ぎざる事が知れ渡つて、切取自由、あはよくば支那分割をさえ企むに到つたのであつた。斯くして支那侵略の魔手は、一八六九年スエズ運河の開通と、同じ年の米大陸橫斷鐵道の開通とに依て、西と東とから太平洋へと殺到して來たのである。

斯くの如き情勢下に於て、一八九八年、將に傾きかけた老大國西班牙が、新興米國の爲に、玫瑰の獨立問題と當時玫瑰のハバナ港にあつた米艦メイン號の原因不明の爆發(一八九八年二月十五日夜)とを理由に宣戰を布告されて、米西戰爭となり、獨り西印度諸島を失ふたのみではなく、虎視耽々として狙はれて居た亞細亞南方の比律賓群島及グアム島をも占領且つ領有されるに到つたのは、既に太平洋制覇に乗出した米國の必然的に企圖す可き一手段であつたとも見られるのである。

(尙ほ一九〇三年には巴奈馬運河地帯兩側五哩の地域、面積約五百二方哩を永久租借し、要塞を設け飛行場を造り、十分防備が施されて居る。)

同時代のマハン大佐は、「諸國民の海上制覇の重要な條件」として、

#### 第一 地理上の地位

海國民の海上制覇條件

#### 第三節 比律賓諸島



第二 地形的構成（之と連關する天産物及氣候をも含む）

第三 領土の廣袤

第四 人口の多寡

第五 國民の性質

第六 政府の性質（國民公共の諸制度組織をも含む）

の六項目を擧げて居るのであるが、前記條件を具備して、太平洋を掌握し得るものは、實に米國であると米國自身としては自負してゐるのである。

グアム島の讓渡

比律賓の領有 一八九八年（明治三十一年）十二月十日調印された巴里條約に基いて比律賓群島とグアム島とが西班牙から米國に讓渡（二千萬弗）された事は、當時西班牙軍を攻撃した米國軍にも又、比律賓人にも意外とされた。（フェルナンデス著「比律賓略史」二六五頁）又當時の假大統領たりしアギナルド將軍も新嘉坡駐在の米國總領事スベンサー・プラットに欺むかれたものと稱して居る。然し、米國發展史の上から見れば前述の通り當然踏み出さるべき一手段であつた。

此の結果、比律賓人は再び獨立を要求して米國に向ひ、革命の旗を擧げ一八九九年一月二十一日は革命政府のアギナルド假大統領は比律賓議會の決議に基き比律賓共和國樹立の宣言をも爲したのであつたが、米國は約七萬の軍隊を送つて之を鎮壓したのであつた。

是より先、米國はマニラ攻略と同時に占領地域に軍政を布き（一八九八年五月十九日）、ウエズレー・メリット將

西班牙統治の失敗原因

米國の統治方針

軍を統監に任命し、一九〇一年七月まで軍政が続いた。（その間統監はエルウェル・オーテイス少將、アーサー・マツカー少將が歴任）その間に二回に亘つて調査委員が派遣され比律賓統治方針が研究されたのであつた。即ち第一回はコーネル大學總長ジェー・ジー・シャーマン博士を委員長とする五名、第二回はウイリヤム・エッチ・タフトを委員長とする五名の調査委員であつた。その調査の結果、西班牙統治の失敗は、（一）官吏監督の不行届なりし事、（二）官吏任用の法規なく不法に行はれたる事、（三）裁判の腐敗と執行の遲滞せし事、（四）土地所有權が不確實なりし事、（五）政教混同され、僧侶の權利が官吏を凌駕して居た事、（六）言論、集會の自由を土民に與へず全く政治的教育の施されざりし事等に基因するものと爲し、新に米國の統治する方針として、（一）合衆國政府の權力を比律賓内に確立せしむる事、（二）主權を冒さざる範圍に於て自治的政府を設けしむる事、（三）人民の權利を認め、平等ならしめ、且信教を自由ならしむる事、（四）施政は人民の進歩と幸福とを念とし、官吏に土民を採用する事、（五）善き税法を定め、裁判制度を改善する事、（六）道路の改修と新に土木の起工を爲し交通を便ならしむる事、（七）内に農耕の改良進歩を計り、外に通商貿易を盛ならしむる事、（八）教育制度を改善し、且つ又土民の希望する諸般の改良をも實現せしむる事を擧げたのであつた。

此等の報告、建策に基いて一九〇一年七月一日、第二回目の調査委員長たりしタフト（後に米國大統領となる一九〇九—一九一三年）が最初の民政總督に任命されたのであつた。

米國の比律賓統治 民族國家は生命を有すると共に又一つの性格をも有す。従つて、その國家活動は各々異つた特徴を示すものである。

各國の植民活動を見る時に、左様した民族的特徴が善く現はれて居る。即ち植民地經營に當つて西班牙人は寺院を作り、和蘭人は道路を作り、英國人は港と銀行を作り、獨逸人は研究所を作り、米國人は學校を作ると謂はれて居る。米國が比律賓統治に當つて、最も困惑したものは、西班牙人に依つて作られた澤山な寺院であつた。都市は固より農山漁村まで、カトリックの寺院のない所は無い程行き互つて居たのであつた。その上に住民の生活は此等の寺院を中心として行はれて居た事は丁度徳川時代に於ける日本の寺院文化時代に髣髴たるものがあつたのである。即ち町も村も寺院を中心にして作られ、寺院の前の廣場から道路が四方に通じて居り、朝夕寺院の鐘聲が、住民日常生活の合圖であり、生れて名を附けられる時から結婚式を擧げ、總て死んで葬式されるまでカトリックの寺院は實に行届いたものであつた。教育も、裁判も、農事も、賣買までも寺院の力に依つたのであつた。之は一つには三つの教派(前掲)各地方を區切つて莊園制度的布教を認めた結果、西班牙統治三百七十年の長い間に全比律賓に行互つたものであつて久しく放任されて居たが爲に遂に比律賓を喪ふ一大原因たる僧侶の虐政となつたのである。

最初の米國總督タフトは一方各地の反抗的態度を示す土民を平定し鋭意内政の改善を計ると共にこの比律賓に於ける痛たりしカトリック寺院の跋扈を抑える爲に努力した。その一は先づ、寺院の所有する莫大なる土地(總計四十二萬五千エーカーの中二十七萬五千エーカー)を強制的に買上げると共に、西班牙人の爲に銃殺された比律賓獨立の先驅者ホセ・リザールの像を各寺院の前の廣場に立てる事を奨励し、精神的施設たる寺院に對抗するに精神的施設たるリザールの像を以てして、賢明にも民心の收斂に努めたのであつた。斯くて、西班牙領時代の寺院と專制政治とは、米國の學校と民主政治とに置き代えられて行つたのであつた。

米國の比律賓統治の上に最も注意すべきことは、本國政黨間の傳統的政策の相異が、事毎に現れて居る事である。即ち比律賓を領有した當時のウイリヤム・マッキンレーが共和黨に屬したるが爲に、その反對黨たる民主黨は當時比律賓領有に反對した結果、民主黨が天下を取つた場合には、何時も比律賓に對して同情的であり寛大であるが、共和黨に政權が復すると何時も壓迫的であり苛酷である。

像のルーザリ士志の命革



く設に村町各め爲の治統が國米

但し、マッキンレー大統領の後に二期大統領を勤めたテオドール・ルーズベルトは共和黨に屬したものであるが、比較的公正にして且つ植民政策を黨争の具に爲すまじき深慮から、第二代の比律賓總督には民主黨所屬のライト(南北戦争の老勇士であつた。)を任命した。ルーズベルト大統領の次に大統領になつたウイリアム・エッチ・タフトも共和黨に屬したものであつたが、比律賓最初の文官總督たりし經驗があつた爲に理解もあつた。次のウイリヤム・マッキンレーは比律賓の獨立に好意を有せる民主黨に屬したる爲、ハリソン總督を任命し(一九一三年十月)且、自治へ一步前進のジョンス法を制定し、上下兩院を設け自治より獨立への約束を與えたのであつた。然し、その次に、政權が再度共和黨に戻りワレン・ハーチングが大統領となるに及びて、レオナード・ウッド將軍が總督に任命された。そして、ジョンス法解釋の相異より、比律賓人政治家と衝突し、ケソン上院議

長、ロハス下院議長始め行政部の五長官が辭職して政治的危機となつたが、ウッド總督がボストンの病院で客死した爲に事なきを得た。その後の大統領たるクーリッチ（一九二七—一九二九年）もフーヴァー（一九二九—一九三三年）も共和黨に屬したので、同時代には經濟的方面の發展には見る可きものがあつたにしても、政治的方面に於ては、即時獨立が反對され何かにつけて壓迫されて居た。而して、政權が一轉して民主黨に屬する現大統領ルーズベルトが就任し、米國領最後の總督たるフランク・マーフィが總督に任命（一九三三年六月十五日）されるに及びて、自治政府コンモンウェルスの實現（一九三五年十一月十五日）となつたのである。

即ち、一九二九年末、比律賓上院議長代理オスメニヤ及び下院議長ロハス等一行は獨立獲得使節として渡米し、滞在二年の後、時の大統領フーヴァーの拒否權行使と闘つて、ヘーアホーズ・カッチング法を得て歸國したるも、ケソン一派に反對され、一九三三年十月比律賓議會に於て壓倒的多數を以て否決されたのであつた。而して、上院議長ケソンは自から、より良き獨立法の獲得の爲に渡米し、ルーズヴェルト大統領及ダーン陸軍長官等を説き、一九三四年三月二十四日タイディング・マクダファイ法を獲得し、同年五月一日比律賓上下兩院合同協議會に於て、全會一致の可決を得て自治政府コンモンウェルスの誕生を見る事となつたのである。斯くて同法に基いて、一九三五年五月十四日比律賓憲法に對する賛否の人民投票あり、九月十七日には大統領の選舉があつて、最初の大統領としてケソン、副大統領としてオスメニヤが當選し、十一月十五日マニラ市立法議會の大廣場に於て米國大統領の代表者陸軍長官ダーン、副大統領ガーナー、下院議長バーンズを初め上院議員十八名、下院議員廿七名を正賓として二十餘萬の民衆の前に盛大なる大統領就任式が舉行され、比律賓自治政府コンモンウェルスが成立したのであつた。

比島大統領  
就任

自治政府の  
成立

然し、タイディングス・マクダファイ法を一讀するものは誰しも獨立の美名を以て比律賓が新しき經濟的束縛の繩で結え直されたかの憾あるを覺ゆるであらう。又、近く行はれる米國大統領選舉に於て、若し共和黨が天下を取る日が來るならば、果して今迄の民主黨の比律賓に對する好意的態度が如何様に改められるであらうか。最も注目し値するものがある。

#### 四、軍 備

比律賓の國防は、從來米國が之に衝つて居たもので、コンモンウェルス政府の成立を見るまでの過去三十七年間に、米國が之が爲に費したる國費は七億九千二百八十萬弗にして比律賓の爲に支出した經費の九割以上に達したと稱せられて居る。

比律賓國防  
法

將來獨立完成の曉に於ては、海軍根據地だけを殘して陸軍は全部引上げる事になつたので、一九三五年十一月のコンモンウェルス政府樹立後の比律賓特別議會に於ては、新に國防法が制定されて、「國家ノ保全ハ全市民ノ義務トス」との皆兵主義を採用し、且、大統領を議長とする國防會議を組織し、元、米國の陸軍參謀總長たりしダグラス・マツカーサー將軍を最高軍事顧問として招聘し、大統領を總司令官としその指揮の下に參謀總長が一切を總攬し、全國を十軍管區に區分し、夫々軍管區司令官が置かれて居る。經費の點より、國民軍即ち、豫備兵を以てその根幹として居り、常備兵は極めて少數であり、又海軍は現在の財政力では整備不可能である爲に未だ建設に著手されて居ない。その爲に、陸軍に航空部隊及び海上部隊を設け、港灣の防備は従前通り米國陸軍が擔當して居る。

## 比律賓國防計畫

尙、マッカーサー將軍は一九三六年六月十九日左の如き比律賓國防計畫を發表した。

一、陸軍Ⅱ將校九百三十名、兵六千五百名より成る正規兵の外に、學校及び軍事訓練所に於て義務軍事教練を受けしめ、毎年四萬人を訓練し、十年後には四十萬、三十年後（兵役の義務は三十年、最初十ヶ年を第一豫備兵とし、以下第三豫備兵までに分つ）には百二十萬の豫備軍を常備す。

二、海軍Ⅱ海岸防備用として、十年間に快速水雷艇五十隻乃至百隻を建造す。

三、空軍Ⅱ十年間に二百五十臺の軍用機を有する空軍を編成す。

四、軍備Ⅱ經費は一ヶ年千六百萬比の豫定にて三十年間に完成せしむ。

然し、現在は尙ほ比律賓には米國の陸海軍ともに駐屯して居るのであつて、陸軍はルシアス・アール・ホールブルツク少將が軍司令官として、その下に歩兵三聯隊、騎兵一聯隊、野砲兵一聯隊、海岸砲兵四聯隊、工兵一聯隊、混成飛行隊一大隊、化學戰隊一中隊、通信部隊二中隊の約一萬餘の將校下士兵が七ヶ所の兵營に分駐して居る。又、海軍は亞細亞艦隊を派遣し、マニラ灣の關門を扼するキャビテ軍港と、それより海上五十哩の西北方にあるオロンガボ要港とを根據地とし、甲級巡洋艦オーガスタ號（一九三〇年進水、排水量九、〇五〇噸、速力三二・七節、乗員六八〇人）を旗艦として、砲艦七隻、驅逐隊（驅逐艦十三隻、驅逐母艦一隻）、潜水隊（潜水母艦二隻、潜水艦六隻）、補助航空母艦二隻（飛行艇一中隊）、補給隊（給油船一隻、掃海艇二隻）その他から成る米國亞細亞艦隊が配備されて居る。其中、南支那警備隊（旗艦ミンダナオ號）及び支那沿岸揚子江警備隊（旗艦ルソン號）は其の名の示す如く支那沿海及び長江方面に配備して居る。米國が對東亞政策の核心とし、切札として居る門戶開放・機會均等主義なる

## 陸軍

## 海軍

美名の下に、帝國主義的な東亞干涉の鋒先として居るのである。

「貿易は國旗に従ふ」と稱し會て大海軍建設を強調したマハン大佐以來の米國、近くは駐比米國最高委員マクナット氏の「米國にして比律賓を捨てんか、支那の門戶開放と領土の保全とそして、海洋及び空中の自由との三大原則を放棄するに等しい」と云ふ言葉と思ひ合せる時、果して、比律賓獨立の公約を米國が守るであらうか。殊に次の大統領選舉に若し共和黨が天下を取るならば今日までの寛大さと、正義とを以て比律賓の獨立實現に努力するであらうかは注目に値するものがある。

## 五、産 業

## 米作

比律賓は農業國である、それは同時に、工業方面及び商業方面に見る可きものがない事を物語つても居る。而して又、農業に於ても尙未だ發達不十分なることは既耕地の少いことから窺ひ知られる。即ち比律賓全面積二千九百六十二萬九千六百ヘクタール（一九三四年比律賓農商務統計）中山岳地帯約三割七分、平地約六割三分、その中可耕地面積は千二百二十九萬八千七百七十七ヘクタールで全面積の四割一分に及んで居るのであるが、既耕地はその可耕地面積の四割にすら達して居ない。殊に米を主要常食物として居る比律賓人が、米作を天然の雨水に待つ一毛作の儘に置き従て食用米に不足を告げ年々米國や其他の國から輸入して居る程である。之は米作よりも他の有利なる農作を營む爲でもあるが、同時に本國本位なる米國植民地經營の一端が知らるのであつて、日本に於ける朝鮮や臺灣が日本の統治下に於て主要食物たる米産額を夥しく増加し、住民の生活を安定せしめたのに比較して、白色人種植民政策の根

本理念が全く異なる所ある點を示す生きた實例である。殊に英國の印度統治に於てはこうした點は實に甚しきものがあつて、印度の農民は世界中最も貧しき農民であるとされて居る。

然し、比律賓に於ける農業はそれでも産業中の宗樞であつて、海外貿易に於て農産物が、輸出總額の約九割を占めて居り、而も主要輸出品十二種中の九種までは實に農産品である。今、主要輸出品の輸出額を列挙すれば別表の通りである。

輸出品	一九三七年比島輸出品(價格單位千比)
砂	一一五、四一二
糖	〇コ
マニラ麻	四三、二七九
椰子	〇椰子
椰子油	四一、〇五一
椰子實	一二、六九三
椰子草	九、九六六
木	七、八八六
木材	二、八七二
刺繡品	七、三九九
鐵	二、六五二
鐵類	九三三
〇碎片コブラ	五、八〇〇
帽子類	九三三
〇コ	三二、九六九
椰子實	一二、六九三
椰子草	九、九六六
網索類	二、八七二
鐵	二、六五二
鐵類	九三三

内、〇印のものは皆椰子果實よりの製品で總額一三四、七九二千比、砂糖以上の額に達して居る。網索類はマニラ麻及マゲー麻の製品であり、帽子類も植物の纖維にて作れるものである。従つて刺繡と鐵鑛を除いては、悉く農産物乃至その加工品である。之を以てしても比律賓人の經濟は全く農業に依存する事が知られると共に、米國がN.R.A(農業復興法)を實施するに當つて比律賓が農産物資の立場からは全く不用な地方であり、工業生産品の販賣市場として、又支那方面への貿易否政治的干渉の基地としてのみ重要性を有するのであつて、米國が比律賓に與えた獨立過渡

時代たるコンモンウェル政治は實にこうした功利的觀點から與えられたものであるとも見られる。

農産物中、椰子や砂糖に次ぐものとして、マニラ麻がある。之はアバカと稱する芭蕉科植物の樹皮の纖維であるが、硬質纖維としてこのマニラ麻は世界の全産額の約五分の二を占めて居る。而して、そのマニラ麻の三分一はダバオに於て生産され、又ダバオ生産のマニラ麻の七割は實に我が邦人(約一萬七千人)の手に依つて生産されて居るのである。農産物以外の主要輸出品として第七位を占めて居るものに木材がある。之は全面積の約六〇%近くが尙ほ森林であり、その中約八〇%は木材として切出し得る可能性があると稱せられて居るのであるから、林業の前途今後に待つ可きものがある。

比律賓の牧畜業は未だ幼稚なものである。従つて肉類も酪農産品も自給自足し得ずして米國や、濠州や印度から輸入して居る。

鑛業に於ても金鑛及び鐵鑛以外著しいものはない。金は西班牙人渡來前より採掘されて居たものにして、レガスピが派遣した征討隊がタババスで金鑛を發見して歸つたと記録に載つて居る。一九三三年米國が平價を切下げた爲と、比律賓に獨立を約束したと云ふ兩面からの理由で金の採掘事業が獎勵されて、マウンテン州のみでも數十ヶ所に於て金の採掘が行はれて居る。金以外の鑛物として見る可きものは鐵鑛とマンガン鑛位のものである。之等も發電すべき水力と、石炭が殆どない爲に採掘も製鐵も意の如くならず、鐵鑛は鑛石のまま大部分日本に輸出されて居る。

比律賓の水産業は四面海にして、二萬哩以上の海岸線を有して居るのであるから盛なる筈であるが、實際は近年日本の漁業家や眞珠貝採取者が進出するまでは、原始的な漁獲方法に依つて居たものであつて見る可きものがなかつ

## 邦人漁業

た。最近に於ても發動機を備える漁船の數僅かに百六十隻程度であつて、その中百三十二隻までは邦人の所有にして又従業者も九割までは邦人であるから、漁業は邦人の獨占事業の觀がある。然し、最近邦人漁業に付て左の如き各種の制限が附せられて、その活動が次第に局限されるに到つた。

(イ) 比律賓領海漁業法(一九三二年十二月發布法律第四〇〇三號)及び領海漁業規則(一九三三年六月發布漁獵取締令第二號)に依れば外國人は三噸以上の漁船を使用し、漁業に従事する事を得ず。(但し既得權ある外國人竝に比米人六十一%以上出資の法人組織に依るものは此の限りに非ず。)又、外國人は領海漁業に従事する三噸以上の船舶に漁夫として使用せらるゝ事を得ず。(但し既得權ある外國人は此の限りに非ず。)

(ロ) 一九三四年十二月議會を通過したる港灣河川内航行船舶に關する改正法律に依れば外國人は三噸以上の船舶を所有することを得ず。(但し既得權ある外國人竝に比米人七〇%以上出資の法人組織に依るものは此の限りに非ず。)

(ハ) 前記諸法令は三噸以上の漁船使用人及び三噸以上の漁船に使用せらるゝ漁夫鑑札は、出願人が外國人なるときは當該外國人の所屬國に於て比律賓に同様の許可を與えられる場合に於てのみ相互主義に依り之を許可する事となり居れるも、三噸以上の漁船の所有には右相互主義を認めず。

以上の如く、邦人は三噸以下の漁船に依りて、漁業に従事する外道なく又、三噸以上の漁船に雇傭される事が出来ない事になつて居るのである。されども、漁業技術の幼稚な比律賓人は前記の如く邦人漁業に制限を加え乍ら、他の一方に於ては、最近、大統領を初め政府要人の肝入に依つて、日比合辦の漁業及び罐詰の二會社が設立せられて、本

## 罐詰業

部をサンボアングに置いて、バラワン及スルー地方を漁場とし、漁業及び罐詰製造に従事して居る状態である。

## 工業

比律賓には農産物に加工し、又は之より製造する二三種の工業を除いては、工業らしい工業がない。完全なる獨立を前にして比律賓人の惱む所は目醒しい工業も商業も有しない事である。即ち、製糖會社四十餘(投資總額三億四千五百萬比)内一億八千萬比は土地投資)、椰子油工場五六ヶ所、それに、煙草工場が小さいものまで入れて約九十程で、其他の工業としては、最近セブ市にセメント會社が出来たのと、マニラ市其他にマニラ麻やマゲ麻の製綱所や眞珠貝及び其他の貝の貝卸製造所等がある他、家庭手工業としてログハン地方やタルラック地方の製帽や刺繡位のものである。

## 商業

大工業を持たぬ比律賓の商業は、消費量の程度で一定の制限を受けて居る。而かも人口も少く、一般に富裕でないから、商業方面にも見る可きものがない。その上に、比律賓に於ける商業は卸商はもとより、地方の小賣商に到るまで各々その約七割程度を支那商人(華僑)の手に收められて居る。邦人の商店も近年殊に滿洲事變以來非常に増加して來た。之は華僑の排日ボーイコットの結果、善い安い品を自分の手で賣らうとした我が邦商人の努力の賜であつた。

## 六、貿易

比律賓の對外貿易額は一九三七年に於て輸出三〇四、六三四、五六二比、輸入二一八、〇五一、四九〇比に達し、連年輸出超過の状態を繼續して居る。而して貿易總額の六十八%(一九二一年より一九三三年に至る十三ヶ年平均)は米國との貿易によつて占められて居る。之は米比間に自由貿易が行はれて居た爲であつて、コンモンウェルス政府成立

## 三大生産物

後（一九三五年後）はタイデングス・マクダファイ法に依つて、對米輸出品に對する輸出税の賦課と、砂糖・椰子油及びマニラ麻の比律賓三大生産物に對する割當制限等に依つて對米貿易を激減せしめ、且輸出品の大部分が原料又は粗製品であつて、その種類も數種に極限されて居る爲に、俄に他方面に市場を求むる事が困難である。その上に、國內に工業らしき工業を有せざるが爲に、輸入品の大部分は精製品で其種類多く、國民の消費上必需品であるから之は又俄に減ずる事が困難であつて、比律賓將來の貿易前途は暗澹たるものがある。

## 國立會社

故に、比律賓政府當局も、國家經濟保護政策協會（NEPA）及び國家經濟會議等を設置し、國産品を奨励すると共に、財政經濟問題に關して一般民間の協力を求めたのであつた。又、半官半民の國家開發會社（資本金五千萬比）、國家電力會社（資本金二十五萬比）、國産物產取引所、國立米穀玉蜀會社及び國家貸付投資評議員會等を設置して、極力經濟的發展と貿易の増進とに努めて居るのである。

## 對日貿易

日比貿易は一九〇九年に於ては比律賓外國貿易中第十位に過ぎなかつたものが、十年後の一九一九年には第三位となり、更に十年後の一九二九年には第二位に躍進し、今日もその順位を維持して居る。然し、總貿易額の七・五%乃至一〇%に過ぎざる状態で、我が國對米貿易額の一〇%乃至一四%に當つて居る。即ち一九三七年に於ける輸出額は二二〇、〇一九、八二一比、輸入額三三、二〇四、〇一四比にして、連年對日貿易は輸入超過を續けて居る。之が爲に、米國は日本品が比律賓市場に飛躍的に輸入される事を恐れて關稅障壁を高め之を阻止して居る。

## 七、交通及び通信

## 道路

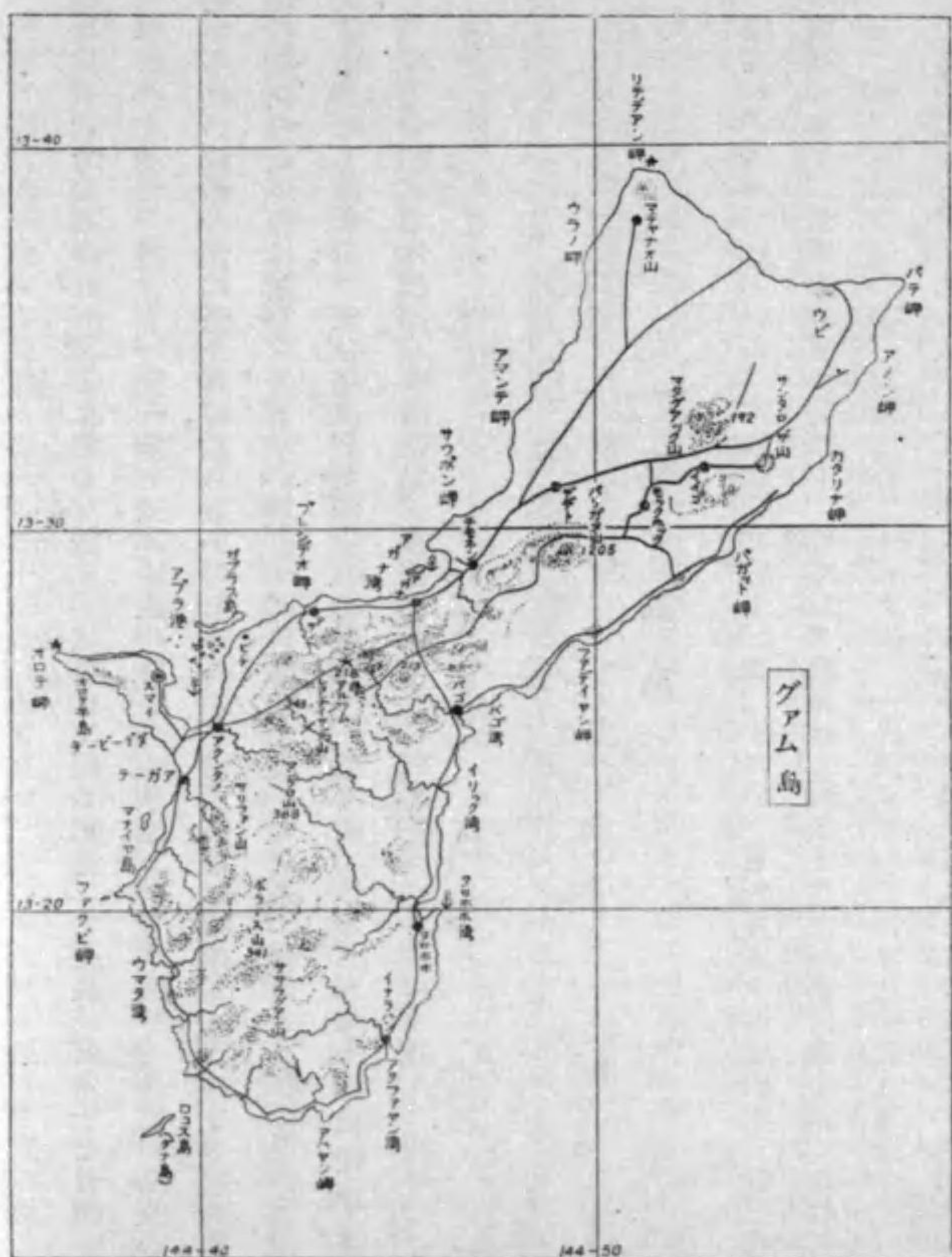
比律賓群島の鐵道は全長僅かに八百七十三哩に過ぎない。この中ルソン島は半官半民のマニラ鐵道、セブ島は私營の比律賓鐵道の兩會社が經營に當つて居る。道路は比較的完備して全長一萬六千七百四十四杆に達し、田舎も乗合自動車も善く通じ、料金は一杆一仙と云ふ低廉の所が多い状態である。然し、多數の島嶼から成る比律賓であるから、島から島へは船の便に待たねばならないのであるが、沿岸航路は發達してゐさうで餘り發達して居ない。殊に沿岸航路の船賃の高いのは驚く可きものがある。之は島から島への交通が盛になる程産業が發達して居ない爲でもあらう。尤も南部地方は小舟で充分往復が出来る程島も近く、海も靜である。又東海岸は住民も少く、殆ど船便もない。然し、外國船舶は北米航路、歐洲航路、濠洲航路、爪哇航路等皆マニラに寄港して居る。

## 第四節 其の他の太平洋諸島

## 一、グアム島

原名をグアヤン島といふ。本島は、北緯十三度二十六分、東經百四十四度四十三分、我が委任統治領マリアナ群島の南端に在り、米國海軍省の直轄で、知事は大統領から親任された海軍士官を以てこれに充つ。島形分銅型で、長さ三十二哩、幅四乃至十哩、面積二百二十五方哩、一九三六年の人口は比律賓人百九十八、日本人四十三、チャモロ土人二萬〇四十七、歐米人八十一、支那人二、この外六百八十五人となつて居て、米國人は總て海軍關係の官吏及學校教員達である。

本島最初の発見者はマゼランで、モロッカス群島探検の目的を以て比律賓を発見した途中のことであつたと言はれ



て居るが、この説は、  
 西班牙が本島を自分の領土であると主張するの都合のよい様に言つたもので、事實に相違があるといふ。或る場合には、ラドロロン即ち海賊島、又或る場合には、マリア・アナ島とも云つたが、今日は總てグアム島の名を用ひて居る。一五六五年西班牙は、マリアナ全島の占領を宣し、其の後本島に屢々動亂があ

つたが、兎に角一八九八年米西戦争の起るまで、西班牙領であつた。戦後巴里條約によつて、グアム島だけは米領となり、グアム以外のマリアナ群島は、獨逸が買受けたのである。それ以來、米國はグアム島を以て前進海軍根據地とし、アブラ灣に近きアガナに政廳を置き、海陸兼用の空港を設け、無電塔を建て、一九三九年一月には五百萬弗を投じてアブラ灣の浚渫擴張、格納庫、兵舍等を作らんとする軍備豫算が近來二回に互り米國議會に提出され、大統領の承認を求めた。これに對して英吉利は徒らにグアム島防備の強化に油を注ぎ世辭を振替くのをなして居る。本島は飛行艇基地であつて目下特務艦三隻を配備して警備に任じてゐるが、更に潜水艦及び水上機基地の施設を進める計畫をして居る。

貿易は大して見る可きものが無いが、輸入が五十三萬弗を超過し、輸出が僅かに十一萬弗に過ぎないのは、軍需品の輸入が多いからである。一九三六年我が國から七萬弗の輸入があつた。島内には、小學校十六、中學校一、高等學校一、米人のみの爲の學校が一枚ある。

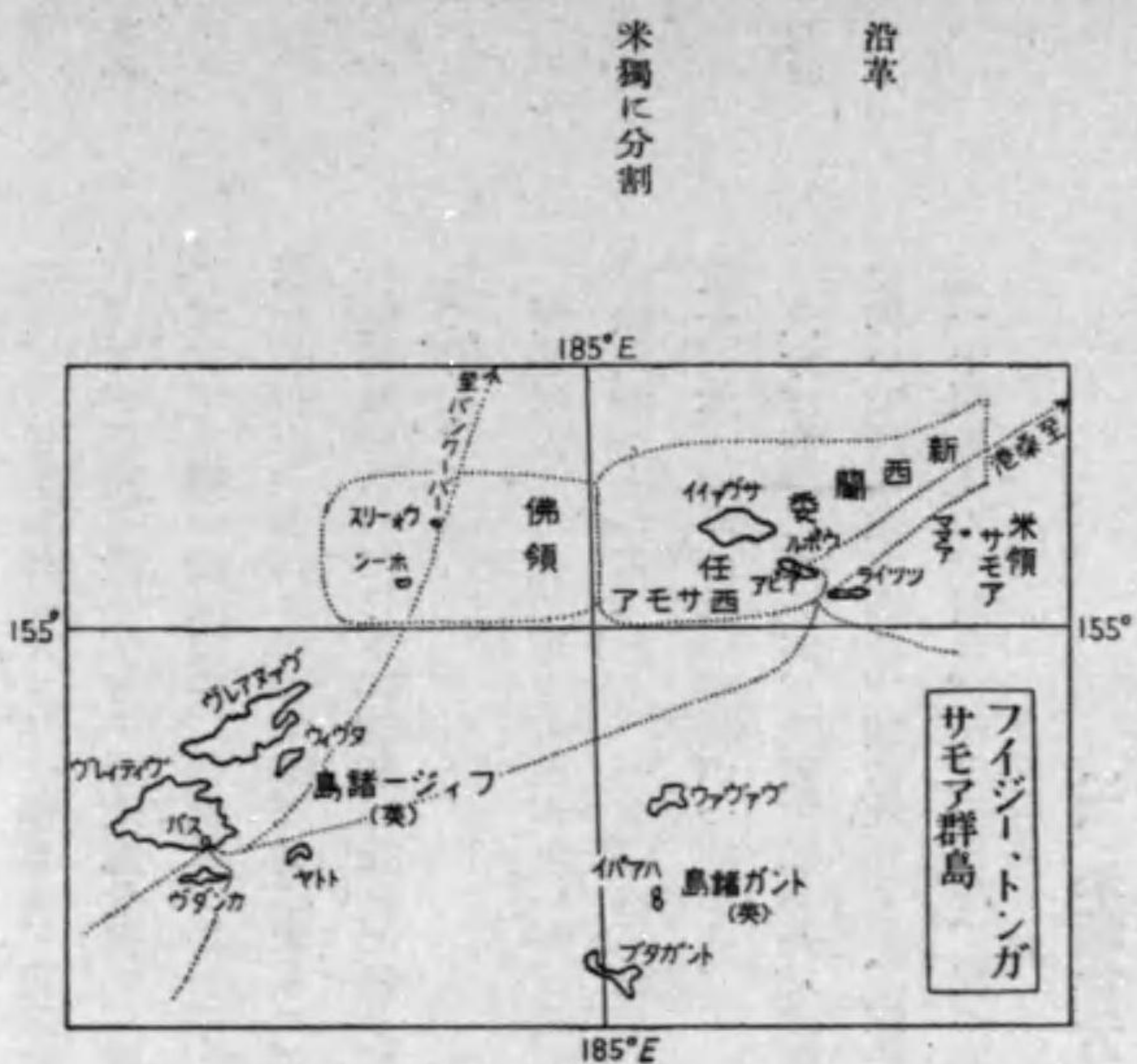
産業 魚介は海洋に多いが、漁獲方法が甚だ幼稚である爲め、僅かに自家用に供するのみである。比律賓からは鹽の輸入を仰いで居る位である。陸にはカカオ、椰子、パンの木、珈琲、鳳梨、橡果、煙草、蔬菜類が産し、コブラの年産額は一千噸に及んで居る。一九二四年、我が國は二百二十二噸のコブラを輸入したことがある。

### 二、米領サモア諸島

本諸島は、英領サモア諸島の東、南緯十四度半、西經百七十一度半に在つて全面積六十六方哩、一九三七年の人口一



萬一千九百〇六、左の島嶼から成つて居る。



ツツイラ島 四十方哩 人口 九千三百  
 マヌア群島 十八方哩 人口 二千四百五十  
 スワイン島 一方哩半 人口 百二十六

本諸島の歴史は英領サモアと略ぼ同一で重複するから省略する。一八八九年、英獨米三國が協約して一時中立地帯として獨立を認めたとがあつたが、屢々内亂があつたので、遂に西サモア群島は獨逸領に東サモア諸島は米領に歸してしまつた。

スワイン島はゲンテ・ヘルモサ島又はオロセンガ島と呼ばれ、曾て英領であつたが、一八七〇年米人エリ・チェンニングが來島して、酋長の娘を娶つたことがあつたので、此の事實を認めて、終に米領となつたのである。パゴパゴはツツイラ島にあつて、一八七二年米國に讓渡され、現在は軍港となつて居る。

本諸島中の最東端に在るロース島は無人の環礁であるが、飛行艇基地としての價値は、ツツイラ島のパゴパゴよりも勝れてゐると云はれて居る。

行政

長官は大統領これを任命し、一海軍大尉を以て之に充て、群島を六區に分ち統治させて居る。土地の賣買讓渡は禁止され、又飲酒は禁じられて居り、租借權は四十年を限り許可されて居る。一九三六年の輸出は一萬九千二百四十四弗、輸入は三萬七千四百七十弗である。

三、米領太平洋航空基地

**ウェーク島** 北緯十九度十八分、東經百六十六度三十五分に在り、鬮魚を以て有名なると共に飛行艇及び潜水艦基地として米國は大規模の設備を急いで居る。

**ハウランド島** 北緯十度、西經百七十六度、フェニックス諸島の北三百海里、我が委任統治マーシャル群島の東南約八百海里にある面積約四百哩の島である。今より約五十年前の地圖には英領と記されてあるが英國は此の島を何等開發せず長く放置してあつた爲、一九三五年五月米國は突然領有を宣し航空基地を設けた。一九三八年米國女流飛行家イヤハート女史の濠洲飛行に際し陸上飛行場を建設し、又無線電信所がある。

**ペーカイ島** ハウランド島の東南四十海里、殆んど赤道直下にある海拔二十五呎、長さ一哩計りの珊瑚礁である。一八三二年捕鯨船長ミカエル・ペーカイが本島を發見し、次いで一八三五年ジャービス島を發見して兩島の米領たることを宣した。本島は曾て少量の燐礦を産したが掘盡して今日は無い。

**カントン島** フェニックス諸島の一島でマリー島とも云ふ。英領か米領か其の所屬は未定である。一九三六年英國短橋帆船レイス號が來て英國旗を樹立し、翌年再航してクリスマス島に無電柱を設けた。同年六月英艦ウーリントン

米國の突如領有

號は日蝕觀測隊員を乗せて本島に寄港した。之れと殆んど同時に米艦アヴァセット號も同目的で本島に來泊し、米領たることを主張して互に譲らず、終に一九三八年三月米國政府はカントン、エンダーベリー兩島の宗主權宣言を行ひ、其の領有に關して英米間の問題を起したが、米國は其の後著々施設を進め既に無電局を完成し、尙ほミッドウェ

ー、ウェーク兩島と同一條件の下に、カントン島の使用を汎米空輸會社に許可したと云はれる。

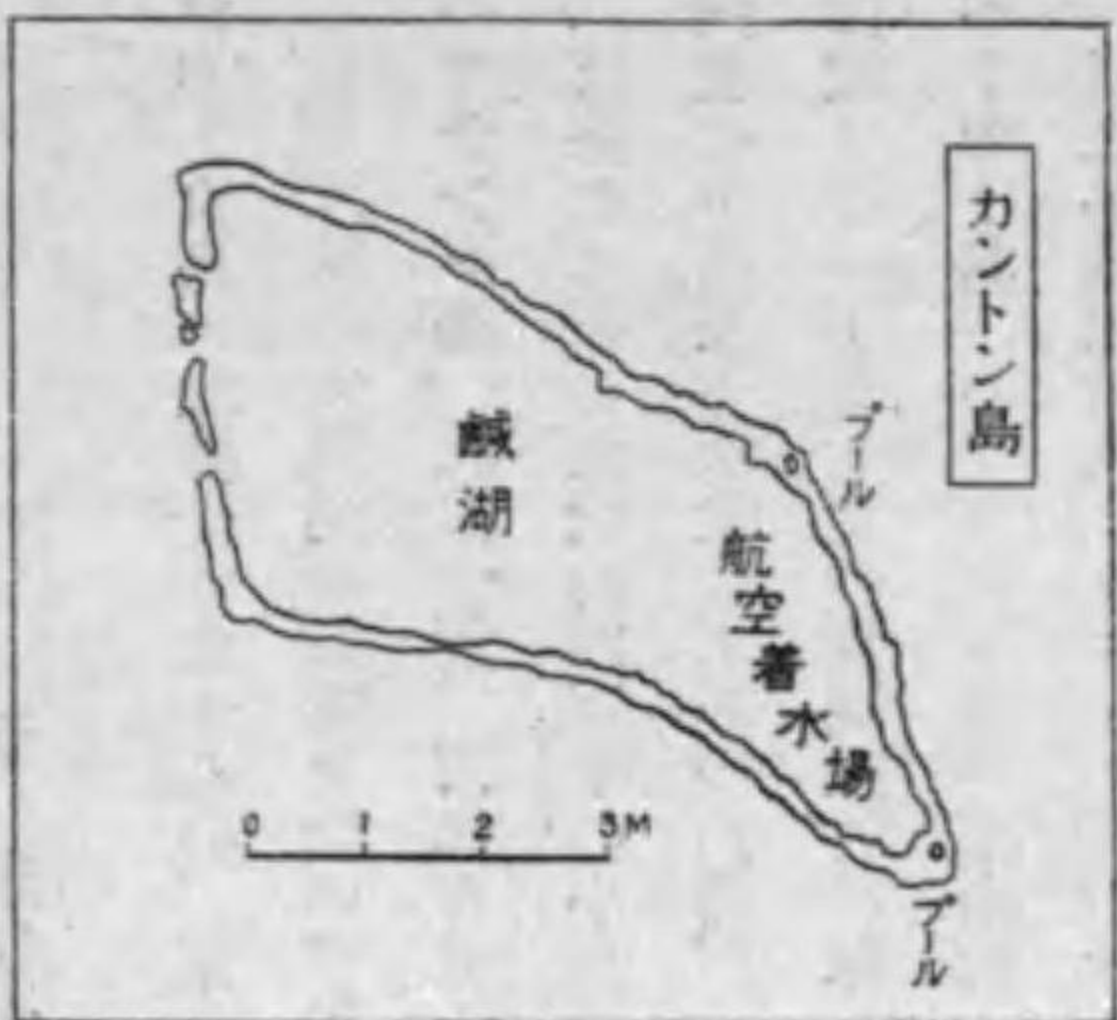
斯くて英米兩國は同年八月兩島の主權問題解決を他日に譲り、商業航空、國際通信機關として同島の利用に就き平等の權利を有することに協定成立を見た。最近米國は本島に海陸兩用の空港を設けたと云はれる。

本島は曾て燐礦を天産したが掘盡して了つた。島の長さ八哩幅四哩、少量の椰子を産す。

**エンダーベリー島** カントン島の東南四十海里、フニックス諸島の

一島であつて、カントン島と同様の低い小さな珊瑚礁で錨地は無いが、空港として利用の價値はある。

**バルミラ島** 北緯六度、西經百六十二度半に在る面積僅に一方哩半の小島である。一八〇二年バルミラ號船長米人ソールの發見に係り、現在ホルル市クーバーと云ふ人の私有島であつて椰子が栽培されてゐる。布哇新西蘭間連絡の航空中繼所として米國の専用である。



英・米主權問題

**ジャービス島** 南緯三度、西經百六十度に在る無人島で少量の燐礦を産す、一八八九年英艦コルモラント號が來て英領とし、其の後一九三五年に米艦が占領したが英國は之れに對し別に抗議を申入れなかつた。

**ジョンストン島** 北緯十七度、西經百七十度に在る。一八五九年頃迄は多少燐礦を産したので英國は之れを土人から借りて居たが、一八九二年遂に併合して了つた。然るに其の後之れを放棄し布哇群島の一部として顧みなかつた。一九三四年に米國はウェーク島、サンド島、キングマン礁と共に占領して海軍省の直轄とし、飛行艇の基地とした。

## 第六章 佛領各地

## 第一節 印度支那

## 一、沿革

佛領印度支那は、往時の安南國であり、西曆紀元前二百年代より紀元後七百年代まで支那の領土とされてゐたが、西曆一千年頃より其の外藩に列し、爾來幾多の王朝が興亡して來たのである。

佛國の侵略

フランスの安南侵略は一七八七年の佛安親善條約締結を機として始められ、その後一八〇二年に現安南王朝の始祖・阮福映はフランス援助の下に、當時混亂してゐた安南を平定して國王となつた。これよりフランスの干渉が次第に甚しくなり、一八五九年に至り安南王は遂にフランスと干戈を交へたが、安南側の大敗に終り一八六二年にサイゴン條約の締結となつた。而してフランスは交趾支那を安南王から割讓させ、翌年には更にカンボジアを其の保護下に置くに至つた爲め、安南側は之に安んぜず、フランスと又もや戦端を開いたが再び敗北し、一八八四年に降服してトンキン地方に對するフランスの保護權を認めると共に、安南王國自身も保護國となつたのである。

サイゴン條約

然るに、フランスは其の後も侵入の鋒を納めず、一八九三年に西部邊境ラオス地方の保護權をタイ國側から、又雲南鐵道の敷設權を支那から獲得し、且つ又日清戰爭直後の三國干渉により我國に遼東半島の還付を強請した報酬とし

て支那から廣州灣一帯を一八九八年より九十九年間租借するに至つた。

次いで一九〇四年にメコン河西岸のルアン・ブラバン地方を正式に佛領と承認させ、一九〇七年にバタムバン、シエム・ラブ、シソフォン各地方をクラト港一帯の海岸地方と交換して、タイ國との間に現在の國境を確定し今日に及んだのである。

## 二、地誌

位置

佛領印度支那は南北に伸びる印度支那半島の東半分を占め、南端は北緯八度のカムボジア岬から北端は北緯二十三度に及び殆んど北回歸線に接し、東西は東經百度から百九度に擴がつてゐる地域で、その南東一帯は南支那海に面し、西はタイ國及び英領ビルマに接し、北は支那の雲南・廣西・廣東の三省と境してゐる。

**交趾支那** 佛領印度支那の最南端を占めメコン河下流の大三角州地帯に位し、面積は二六、四七六平方哩（臺灣の二倍弱）、人口は四、六一六、〇〇〇（一九三六年）で、安南人の約三百九十八萬を主としカムボジア人（約三十三萬）、支那人（約十七萬）がそれに次ぎ、フランス人は約一萬七千に過ぎず。宗教・言語・風俗・習慣は安南人と同様であり、古來支那文化の影響を多く受けてゐる。

**安南** 佛領印度支那の東部海岸に沿ひ北から南に細長い地帯を占め、面積は約三九、七五八平方哩（臺灣の三倍弱）を擁し、人口は五、六五六、〇〇〇（一九三七年）で、その内の八割五分までが安南人（約四百八十四萬）、次いでインドネシア人の六十六萬、ミユオン人の十萬を主とし、支那人は一萬一千、フランス人は僅か三千餘に過ぎない。首都



佛領印度支那及附近

ユエは、ハノイとサイゴンとを結ぶ佛印縦貫鐵道の殆んど中間にある。而して風俗習慣共に安南人のそれであり、近代的文化には遅れてゐるが、民族的自覺の程度は割合に進んで居り、反佛の動きは可成りに見受けられるやうである。

**トンキン地方** 佛領印度支那の最北部を占め、トンキン灣に臨み、安南・ラオス及び支那の雲南省と境を接し、奥地は南支那に連なる山地によつて覆はれ、その高いものは二千米に達してゐる。

面積は四〇、五三〇平方哩（臺灣の約三倍）で、人口は八、八五九、〇〇〇（一九三七年）を擁し、佛印中最も人口稠密な地方とせられ、住民の八割六分までが安南人（約七百六十五萬）によつて占められ、六十七萬のタイ族がそれに次いでゐる。然しながら、その反面に於て佛印中最も支那化した地方と謂はれて居り、早くから漢民族の移住が行はれ、現住支那人十七萬となつてはゐるが安南人との混血で土著しきつたものを數ふれば可成りの多數と見られ、同地方の商權も是等支那人の掌握するところとなつてゐる。尙ほフランス人は一萬一千を超える程度に過ぎない。

**カムボジア** 交趾支那と泰國とに挟まれてタイ灣に面し、その東北奥地は安南とラオスとに接してゐる。而して中央部を北から南へかけてメコン河が貫流し、カムボジア平原を沃土としてゐる。東部には安南山脈が連なり、西部は半砂漠地帯或はトンレ・サブ湖（別名大湖）を初め幾多の沼澤地帯となつて居り、メコン流域が専ら農耕地帯とされてゐる。

面積は六七、五五〇平方哩（臺灣の五倍弱）を占め、人口は約三、〇四六、〇〇〇（一九三六年）を擁し、その八割五分までが地元のカムボジア人（約二百六十萬）で、次で安南人が十九萬、支那人が十一萬と云ふ順になつて居り、フランス人は二千餘に過ぎない。

佛印中の支那化せる地方

アンコルの  
廢墟

カムボジア人はビルマ族の一種とされ、そのカムボジア國は印度支那地方に於ける最古の王國であり、その文化は印度竝に支那の文化に負ふところ多く、古來とくに文化的素養の高い人種と評されてゐた。従つて、タイ及ジャヴァの文化と非常に類似點が多く、寧ろ其等はカムボジアからの影響を受けたものとさへ云はれる程である。

尙ほカムボジア西部地方にあるアンコルの廢墟は世界的に有名であるが、久しく密林に埋もれ世人から忘れられてゐたもので、一八五八年から六一年にかけて當時タイ國領地であつた同地方を佛人探檢家ミニオーによつて發見されフランス側は其の研究を名目としてこの地方をタイから自國勢力範圍のカムボジア王國へ割讓させたのであつた。

**ラオス地方** 安南と背を合せて佛領印度支那の西側奥地高原を占め、或は森林地帯或は灌木地帯となつて居り、その大部分は現今に於ても人跡未踏の地方と云はれてゐる。

面積は佛印五領中最大で八九、三二〇平方哩（臺灣の六倍強）を占め、人口は百一萬二千（一九三六年七月現在）を擁し、その五割六分までがラオス人（約五十七萬）、次いでインドネシア族の二十五萬、タイ族の十萬を主とし、支配民族たるフランス人は僅か五百名にも達して居らない有様である。而して、ラオス人はタイ族と同一系統であり、その文化はタイの影響下にあるがタイ國のそれよりは遙に遅れてゐる。

山嶽及び高  
原

雲南山系の延長が南下してトンキンの高地々帯及びラオス山地を成し、是等の山地は起伏著しからず高原性で、主として西北から東南の方向に數列の山脈をなしてゐる。

ラオスの奥地にはヒマラヤ山脈系が南下して居り、海岸寄りの東邊は安南山脈が西北から東南に向け海岸線に並行して所謂脊梁山脈を形成してゐる。

## 平野

平野は沖積平野や三角洲で沼澤に富んで居り、半島を縦貫して南に流れるメコン河はカンボジア平原竝に交趾支那平原を潤はし、又、佛印の北部地方を東へ流れるソンコイ河は所謂トンキン平野をなし、兩河は何れも廣大な三角洲をなしてゐる。

**氣候** 全土が熱帶圈内にあり、氣候は概して高温とは云へ、海岸地帯と内地高原とによつて可成りの相違があり、又、南部地方と北部地方とによつて相當な差異があり、大略して四地域に區分されてゐる。

先づ交趾支那及びカムボジア地方の氣候は赤道型で、例へばサイゴン地方に於ける一ケ年の平均気温は攝氏二十七度とされ、最も暑さの甚だしい五月が平均二十九度、最寒季の十二月が二十五度、その差は僅か四度に過ぎず、夏季の季節風によつて雨量は一ケ年約一八〇糎に達してゐる。

安南地方は、例へば首都ユエに於ける最寒季の五月は二十五度に上り、最寒季の十二月には十九度位にまで低下してゐる。降雨は夏季よりも十、十一月の冬季に多く、一ケ年の平均雨量は二五〇糎となつてゐる。

トンキン地方は、ハノイに於ける最寒季の五月は二十九度で最寒季の十二月には十六度となり、奥地の冬はそれよりも一層低温となり平均十三度に下つてゐる。そして季節風は五月より十月にかけて降雨を齎らせ、七月が最も多く、一ケ年平均雨量は一六二糎となつてゐる。

トンキン地方の高地及びラオス地方はインド内地の氣候と類似し、海岸低地に近い地方は比較的温和な氣候とされてゐる。

**面積及び人口** 總面積は約二十八萬五千平方哩（七十四萬平方杆）で我國全土よりも稍々大きく、總人口は二千三

人種別

百二十五萬（一九三六年）を數へ、その大半はメコン下流地方の平野及びトンキン地方に密集し、全人口の約三分の二が農業に従事してゐる。

それ等人口を人種別に見れば、安南人が七割二分四厘、カンボジア人が一割二分七厘、タイ人が六分、印度人が四分四厘、その他の土民が二分九厘で、外國人としては支那人の一分四厘が最も多く、土民と雜婚してゐる華僑全體としては可成りの多數を占めてゐるものと見られてゐる。在住支那人は廣東・福建方面の出身者が多く、その半數までがサイゴン地方に密集し、彼等は佛印商業の實權を掌握してゐるのみならず、有能な労働者ともなつてゐる。

### 三、政治

佛領印度支那・廣州灣租借地を初め、メラネシアやポリネシアに散在する諸島嶼を領有するフランスが、太平洋に對して關心を持つてゐることは云ふまでもなく、是等太平洋に於けるフランス勢力の根據地が、即ち佛領印度支那に置かれてゐる。

佛印はフランスの各植民地を通じ、佛領北アフリカと並んで主要なものとなされ、人口に於ては佛領北アフリカの二倍を擁し、佛國植民地中最大の地歩を占めてゐる。

現今の佛印は、直轄植民地の交趾支那と、安南、トンキン、カンボジア、ラオスの四保護領から成り、「印度支那聯邦」と公稱され、南支の廣州灣租借地をも其の管轄下に收めてゐる。

而してフランス大統領によつて任命される印度支那總督の下に政務長官があり總督を補佐して政務を總括し、交趾

支那には知事、四保護領にはそれぞれ駐劄官が置かれ、知事及び駐劄官は總督の指揮下に政務を執行することとなつてゐる。

又、佛印全體に關する總督府諮詢參議會と、經濟財政問題全國參議會が設置されて居り、その他交趾支那には植民地會議、各保護領には保護領會議及び經濟問題會議があり、且つ又、安南及びトンキンには人民代表會議、カムボジア及ラオスには土民諮問會議があつて政務遂行の圓滑を圖つてゐる。

地方別行政

次に地方別に行政を概説する。

**交趾支那** 一八六二年に安南國王からフランスへ割讓され、それ以來フランス政府の直轄植民地として總督によつて統治されてゐたが、一九〇二年に至り總督府が交趾支那の首都サイゴンからトンキン地方のハノイに遷された爲め、其の後は知事によつて統治されてゐる。

行政上二十一縣に分け、サイゴン及び其の近接市シヨロンは一括して特別行政区とされてゐる。而してフランス人十二名と土民十二名の議員によつて組織される植民地會議が設けられて居り、又、交趾支那からフランス本國會議に一名の下院議員を送り、以て佛印全體の利益を代表させる事となつてゐる。

**安南** 一七八七年から始められたフランスの安南侵略は、一八八四年に至り遂に保護條約の調印となり、こゝにフランスの安南に於ける地位は全く確立され、それ以來安南王國はフランスの保護國となつて居り、現國王バオ・ダイは一九二六年に即位したのである。而して國王はフランスを代表する駐劄長官の意向に基づき、内閣の補佐を受けて政治を行ふこととなつてゐる。國會は一九二六年に開設され、内閣は内務・大藏・典禮・文部・陸軍・工務・司法の

七省から成り、各省に佛人事務官を置き干渉せしめてゐる。又、地方政治に於ては州毎に佛人の州知事を置き、その下にある府又は縣の士民知事を監督し、是等の士民官吏は國王から直接任命されるが、フランス側の干渉を受けてゐる。

**トンキン地方** 一八八二年のフランスと安南王國との戦争に際し、佛軍がトンキン地方の中樞地たるハノイを占領し、越えて一八八五年の天津條約によりフランスが支那の承認の下に保護領としたのである。但し安南國王は形式上トンキン地方へ太守を派遣して統治する事になつてゐたが、一八九七年七月、國王はトンキン地方に對するフランス官廳の創設に同意するに至り太守制度は廢止された。

行政上二十三縣と四軍政區に分れ、佛人の長官によつて統治されてゐる。而して保護領とは云へ、一八九七年以來實質的にはフランスの直轄植民地と同様で、ハノイはトンキン地方の首都たるのみならず、佛印總督府の所在地であり佛領印度支那全體の首府とされてゐるのである。

**カムボジア地方** カムボジア王國は、曾てタイ國方面までを領有し高度の文化を讃へられてゐたが、その後國勢振はず、一八六三年に至り遂にフランスの保護國となり、現國王シソワスマニヴォンは一九二八年に即位したのである。而して國王はフランスを代表する駐劄官の意向に基づいて政治を行ひ、國內を十二州に區劃し、ブノン・ベンを首都としてゐる。

**ラオス地方** 曾て獨立の國家を組織してゐたが、一八九三年フランスによつてタイ國から奪取され、その後ルアン・ブラバン王國と、一般のラオス區域とに二分されて今日に至つてゐる。即ち、ルアン・ブラバン王國はラオス保護領

## 行政區

の北部地方を占め、佛人駐劄官補佐の下に國王が政治を行ひ、ラオス區域は佛人駐劄官吏の統治する處となつて居り、全體の首都はルアン・ブラバン市である。

**司法** 直轄植民地の交趾支那に於ては、歐洲人及び植民地人に關する裁判は總て佛人判事によつて行はれ、各保護領に於ては士民に關する事件を土民裁判所により、歐洲人及び支那人に關する事件をフランス法廷で取扱つてゐる。

又、土民裁判所からはサイゴン及びハノイにある控訴院に上告出来ることとなつて居り、これら控訴院の佛人裁判官は安南人官吏の補佐を受けて裁判を行ふこととなつてゐる。

## 儒教と道教

**宗教** 安南人の官吏階級は古くから支那の影響を受け儒教の感化強く、道教の影響も見受けられる。而して一般の安南人は祖先崇拜の風が盛んで、且つ自然崇拜の念も強く、殊に虎の崇拜は最も廣く行はれてゐる。

カムボジア王朝は婆羅門教であるが、一般のカムボジア人はタイ人と同様に佛教を主としてゐる。

尙ほ佛印に對するキリスト教（主としてカトリック）の傳道は十七世紀以來行はれ、一九二九年の調査によれば、トンキン地方約九十五萬、交趾支那地方約二十四萬、全國總數百二十六萬の信徒を擁し、佛人牧師三二七名に對し土民牧師一、一三一名を數へてゐる。

キリスト布教の活動状態は、特に社會教育・衛生等の方面に於て佛政廳の施政より一步先んじて居り、過去に於ける彼等宣教師の活動が著しい文化的業績を擧げ、爲に絶大な勢力を形成し政廳當局さへも無視され難い状態にある。

**教育** 佛印の教育制度はフランス本國のそれと同様で、官立學校と私立學校とによつて行はれてゐる。

一九三八年に於ける官立教育機關の在學生徒數は四十六萬二千人、私立教育機關の在學生徒數は十萬を超え、教職

員數は一萬五百人であつた。

尙ほ醫藥學校（一九二三年創設）、法律學校（一九一七年創設）、美術學校の三大學以外に、官立佛人教育機關十一校、佛人土民教育機關十一校、職業教育機關四十一校、小學校一萬三千十四校に達し、この他に私立小學校二千四百餘校を數へてゐる。

而して佛印當局は、土民教育策として安南語に對しローマ字綴字法を創案して之を國語と稱し、以て佛語教育の反面に於て難解な安南文字をして佛國文字に接近せしめつゝあるのである。

華僑 現代の佛印を論ずるには、華僑の存在を無視する事は出来ない。

その數は凡そ三十萬乃至四十萬と推定され、半數までがサイゴン地方に密集して居り、佛印全人口の僅か二分にも達しないが、國內に於ける通商及び金融の殆んど總ては彼等によつて左右されてゐる爲め、極めて重視されてゐるのである。

即ち安南人を初め其の他住民の大多數を占める土著人が、小農又は半農半獵の生活をつゞけて居る結果、それ等土民達の生産物や生活必需品等の交易取引が悉く華僑によつて切り盛りされ、従つて農産物の集散や貿易等のあらゆる施設機關も華僑によつて成り立つてゐる有様である。

然かし今日でこそ佛印のあらゆる商權を掌握してゐる華僑とは云へ、彼等は各自殆んど總てが裸一貫で數百年の昔から繼續的に西南支那地方から移住し、先づ勞働に従ひ營々として撓まず、幾らかの貯蓄が出来るや之れを資本として行商となり、次で露店を營み、更に邊鄙な村落に小店を開いて日用品等を商ひ、土民相手に其の農産物と物々交換

## 華僑の重要性

を行つて手に入れた農産物等を海港市場に送り出し、更に日用雜貨を仕入れると云ふことを繰返へして次第に財を積み、やがて其の地方の産業を支配し、延いては佛印全體の經濟界を左右するやうになつてゐる點は、當然の事ながら再顧に値ひする。即ち、飽くまでも移住先に定著し土民化して行くところに、華僑の強味があるのである。

故に從來佛印當局も華僑を純粹な外國移住民として取扱はず、特に辦事所を設け土民の一部として待遇し、外國移民に對する法令の適用等は或る程度寛大に行つてゐたのであつた。然しながら、近來支那本土に於ける國民意識の勃興が宣傳等によつて華僑にまで及ぼされるやうになり、佛印當局も放任出來ず、遂に一九三四年に至り、佛印と支那との協定によつて、華僑に獨立國家の外國人として面目を立たせることとなり、ハノイ及サイゴンに支那領事館の開設を見るに至つた。

斯くて佛印在住の華僑は、今や質的に依然土著民としての根強さを持つと共に、名目上には中華民國人と云ふ立場を確保して居り、我國の對佛印經濟的發展に就ても彼等の存在を益々重視せねばならなくなつてゐるのである。

安南民族運動 一八八四年、遂に安南王國を保護領化するに成功したフランスは、刑罰を加重し課税を苛酷にし、或は國內の旅行にすら制限を設ける等、安南人に對して極度の壓制方針を採つた爲め、過去長期間を通じ越南國として獨立の誇りを抱いて來た安南人には耐へ難く、是等フランスの壓制政策に反抗して安南人の安南を獲得しようとするに至つたものが、即ち安南の民族運動であり、獨立運動である。

而して前世紀末から今世紀にかけ、支那・比律賓・印度・埃及等の革命運動或は獨立運動の勃發は安南の獨立運動に多大な刺戟を與へ、且つ又、日露戰爭に於ける日本の勝利は彼等安南獨立運動家を著しく刺戟し、殊に支那の學者

## 民族運動の沿革



革命派と理性派

達までも「西洋の科學文明を逸早く攝取し活用した事が勝利の要因である。」と説いて安南人を尠らず動かし、茲に安南獨立運動も西洋の科學文明を利用せねばならぬと覺るに至り、次第に本格的な國民運動の緒に就いたのである。當時、この運動の先頭に立つたのが潘佩珠と潘周楨で、兩者は安南民族の復興獨立を目標とする點は同一であつたが、その實行方法には可成りの相違を持つてゐた。先づ、潘佩珠は、一九〇三年に越南國民黨を起して日本及び支那にも渡つて奔走し、文書宣傳により大いに安南獨立運動を鼓吹して、一九〇七年頃までに既に多數の安南人が日本留學を行ひ、是等留學生も歸國後に越南國民黨に據つて種々な反佛獨立運動を惹起した程であり、俗に革命派と稱されてゐた。

一方、潘周楨は、初め潘佩珠と行動を共にし日本にも來たが、安南獨立の遂行の爲に、其の方便として一應フランス側と妥協することも必要であるとの見解を有するに至り、一九〇七年に印度支那總督へ政見書を提出し、佛國の暴政を非難して其の改善を促がし佛人及び安南人に多大の感銘を與へ、次で一九一一年には渡佛して安南獨立黨を結成したが、其の後一九二一年にも行政・司法・教育に關する改善案を安南王へ建白するなど、越南國民黨が革命派と云はれるのに對し、此の安南獨立黨は俗に理性派と稱されたのである。

而して是等黨派は結成以來フランス當局から屢々彈壓されたが屈することなく、一九一四年の世界大戰勃發を好機として反佛獨立を企てたが失敗に歸し去つた。然しながら、大戰後民族自決の世界的風潮の波に乗り、安南獨立運動は漸く土民の間に擴がつて行つた。

斯くして時運の進展と共に近來に至つて、革命派は次第に共和的となり、理性派は多くの場合フランス側に懐柔される傾向にあるが、この兩派によつて昂揚された思想は漸次土民の間に普遍化し、交趾支那の如きはその政治經濟方面に安南民族の自由と獨立の爲めに活動する別派さへも生じた。

尙ほ現今に於ける安南民族運動中で目ぼしいものとしては三つで、前述の越南國民黨及び安南獨立黨、越南共產黨が擧げられてゐる。

民族運動勃興の諸原因

安南民族運動は何故に勃興したか。先づ其の政治的原因として、フランスは初め此の地方に宣教師を送り、新舊兩阮朝の争ひに介入し、舊阮（現安南王朝）を助けて安南國土平定を成就させ、その報酬として布教の自由・土地の割讓・通商上の便宜等の權益を獲得し、遂に保護國の美名下に外交及び財政權を奪ひ實權を掌握するに至つたものであるが、外國の權力が此のやうに國內に根深く植えつけられ、主權まで左右されるに至り憂國の志士が驟起したのは當然で、爲に若しフランスが其のやうな侵略を敢て行はなかつたならば、安南の民族運動は勃興する機會も餘地も無かつたものと評されるのである。

次に經濟的原因として、フランスは從來安南國に對し種々の開發事業を行つたが、常に最小の努力により最大の收穫を求めるとの餘り、動もすれば土民を牛馬のやうに使役した爲め、土民側の甚大な反感を惹起したのである。即ちフランス人側が餘りに搾取的な態度を採ることなく、且つ今少し人道的に經濟開發を行つたならば、安南民族はそれ程フランス人を敵視することは無かつたものと評されて居る。蓋し、「他山の石」に値ひするものと思ふ。

然かし、安南民族運動勃興の原因を佛國側の苛酷な態度にのみ歸することには多大の無理があり、佛國が干渉を始めた當時の安南は政治的には未だ專制・封建の域を脱せず、極端な官尊民卑に加へ統治狀態も因循姑息、目先の安穩

を偷む有様で、一般社會は衣食住の非衛生的であるのみでなく、浮遊の墮民や小盜の類が尠くなかつた爲め、佛人側には安南人は無智・蒙昧の度し難い國民に見えた譯でもあり、若し安南人自身がしつかりしてゐたならば、佛人からそれ程に輕蔑され壓迫されることなく濟み得たものと考へられる。故に、安南人自身の文盲・野蠻の大勢こそ民族運動を勃興させた遠因と見做されるのである。

## 民族運動の現狀

民族運動に於ける團體結社の目ぼしいものは既に記述したが、安南民族運動の現狀は大體に急進派と漸進派との二つに分ける事が出来る。

而して急進諸派の運動は國の内外に於て行はれて居り、國內に於ては北部安南及びトンキン地方に同志を多く持ち、國外では殊に雲南・廣西・廣東の所謂西南支那地方に多くの同志が潛入し、廣東にあつた「越南東亞聯盟促進會」などは其の内の一つとされてゐるが、佛官憲の警戒嚴重を極め、さしあたり彼等急進派の運動は積極的な効果を擧げてゐないのである。

一方、漸進諸派は、近來安南人の智的水準も次第に高められてゐるとの見地から、急進的革命運動を非とし言論戰によつて漸進的に民族の復興獨立を圖らうとして居り、サイゴンの印度支那立憲黨（一九二七年創立）、ハノイの直接行政黨（一九一三年創立）並に范瓊立憲黨（一九三三年創立）等がそれで、何れも一週に一回又は二、三回の機關紙を發行してはゐるが、國內政治上に於ける實勢力は未だ餘り高くは評價出来ない状態にある。

## 民族運動の將來

然らば、安南人の獨立能力は果してどの程度のものであらうか。安南人が初めて獨立したのは西曆九六八年の丁朝時代で、その後易姓革命が繰り返へされ黎・李・陳・後黎・阮の諸朝と變轉したが、一四一四年から一四二七年まで

の七年間のみ支那の明朝に隸屬した以外は、常に獨立を維持して來たものである。

而かも彼等の祖先には武勇優れた人々も多く、例へば一二八七年には元軍を斥け、一四二八年には明軍に勝ち、一七八九年の清軍に對する大勝の如きは今日なほ戰勝記念日を設けて居り、又、泰國との抗爭に勝つて現在の佛印全體に相當する領域を統一したのは一八三三年當時で全く近代のことに屬してゐる。

従つて、彼等現今の安南人を無力無能の國民として一概に輕蔑し去ることは出來ず、佛人の支配下に甘んじなければならぬのは近代文明力を缺いてゐるために外ならないと言へ、彼等が祖先崇拜及び愛郷心を未だに失つて居ないことは民族運動上見落せない強味であり、彼等が近代文明を充分に咀嚼して行く程度に應じ、民族的復興及び發展を遂げ得る機會は決して尠くはないのである。

## 財政

財政 豫算は佛領印度支那聯邦全體のものと、植民地及び保護領それらのものとの二種が作成され、又、直轄植民地の交趾支那に於ては、各縣及び各市にも獨立した豫算が計上されてゐるのである。

因に佛印聯邦の豫算額は歳入歳出とも六億一千六百六十一萬フラン（一九三七年・邦貨換算約五千四百萬圓弱）で、歳入は關稅・政府專賣益金・間接徵發稅・郵便・電信・鐵道收入を主とし、歳出は軍事費・裁判費・公共事業費を主としてゐる。

地方別を記せば左の通りである。

(一) 安南 一九三七年度に於ける統計によれば歳入歳出ともに八、六九二、七八〇ピアストル（約七百五十萬圓）を算し、尚トーラン及タイ・ノン二開港場の關稅收入はフランスに讓渡されることゝなつてゐる。

(一) カムボジア 歳入歳出ともに七、一七六、一〇五ピアストル（一九三七年度・約六百二十萬圓）を算し、その内約一割が王室費である。

(二) ラオス 歳入歳出は、何れも三、一一三、三五〇ピアストル（一九三七年度・約二百七十萬圓）を計上してゐる。

貨幣及び金融 従来、銀本位制を採用し銀貨一ピアストルを本位貨としてゐたが、一九三〇年の法令によりピアストル貨は法律上金貨本位に基礎づけられることゝなつた。因に一ピアストルは十フランである。

兌換券の發行權は印度支那銀行（資本金一億二千萬フラン）が一手に收めて居り、同行の紙幣發行高（一九三七年九月末現在）は一億四千三百六十萬ピアストル（約一億二千五百萬圓）を算してゐる。尙ほ其の他の主要銀行としては佛支銀行が挙げられる。

#### 四、軍 備

陸軍 二箇師團と一獨立旅團とより成り、その兵數（一九三二年六月末現在）は將校八四四名、下士官兵二二、一六六名（内佛人一・八割強、土民八・二割弱）である。

尙ほ近時安南人による國民皆兵制の計畫があり、之によれば約十五萬の壯丁が前記兵力に増加することゝなつてゐる。

海軍 佛國海軍は左記極東艦隊二十餘隻を東洋に派遣し、佛領印度支那海軍部はカムラン灣を根據地として、支那

沿岸及び印度支那方面の各要地に配備してゐる。

輕巡洋艦 二隻 河用砲艦 五隻 スループ 八隻 測量艦 三隻

#### 五、産 業

産業上から見て、佛領印度支那はサイゴン地方・ハイフオン地方・中部安南地方の三つに區別される。

(一) サイゴン地方とは交趾支那・カムボジア・南部安南・ラオス南部を含み、世界的な米産地の一つに數へられてゐる程で農業を主とし、その海岸及びカムボジアの湖沼地方では漁業も行はれてゐる。

(二) ハイフオン地方はトンキン一帯から北部安南を含み、農業及び鑛業を主とし製造工業も行はれてゐる。

(三) 中部安南地方は農業區域とされてゐるが、米産よりも肉桂・砂糖・茶を主産物としてゐる。次に佛印全體としての鑛産状態（一九三六年度）を見れば、石炭が二百十九萬噸（價格九百三十七萬ピアストル）で主位を占め、出炭高の七割九分までが輸出されてゐる。次いで、亞鉛が一萬一千三百噸、燐礦石が一萬三百噸、鐵鑛一萬噸、錫二千四百噸（二百四十一萬ピアストル）、タングステン三百八十噸（四十萬ピアストル）、その他金、アチモニー、マンガシ等が挙げられる。

林産は造船や建築の用材となるチーク（一九三六年度輸出高一萬二千五百噸）を初め各種材を産出し、又、木炭も二千六百噸からの輸出を行ふ状態にある。

次に地方別に列挙する。

(一) 交趾支那 交趾支那は佛印の米産中心地と評されてゐる程で、農耕地域二百五十五萬四千ヘクター(一九三三年度・全面積の四割五分に該當)の八割以上が水田であり、米産年額百九十三萬噸に達してゐる。

その他、玉蜀黍・豆類・甘薯・落花生・棉花・ゴム・甘蔗・煙草・珈琲・椰子・檳榔子・胡椒・オレンジ、バナナ等を産してゐる。

## 牧畜漁業

家畜類は一九三三年當時の調査によれば、豚の六十三萬頭を第一とし、水牛が四十六萬頭、馬が一萬一千頭、羊及び山羊が六千頭である。

河川及び海岸の漁業も盛んに行はれ、年額六千三百萬フラン(約五百五十萬圓)と推算されてゐる。

工業としては精米が最も著しく、サイゴン及シロン地域のみでも精米工場が五十五を算し、精米量一ヶ年百三十五萬噸を超えてゐる。その他、製材、石鹼等の工場がある。

商業は殆んど歐洲人と支那人とに獨占され、約二萬足らずの安南人が小商人として活躍してゐる程度である。

(二) 安南地方 農業を主とし、その他林業及び鑛業がある。農業に於てはバンラン河を利用する一萬エーカー(約四千八十町歩)を初め、中部安南各地に灌漑工事が行はれ、米を第一に棉花・玉蜀黍・檳榔子・桑・肉桂・煙草・砂糖・良質木材・藥草等を産出し、生絲の生産も可成りの額に達して居る。

家畜類は總數九十萬頭と推算され、その内牛が多數を占めてゐる。

鑛業としては、南部地帯に金鑛・磷酸鹽鑛・無煙炭の産出があり、その他タングステン鑛・チタン鑛・鐵鑛等の試掘中のものもあり、北部地帯に於いてはその沿海地區一帯に鐵・タングステン・石炭・錫・亞鉛・鉛・クロームの埋

藏が傳へられ、それ／＼試掘中である。

(三) トンキン地方 ソンコイ(紅河)流域に農業が盛んに行はれ、米を主産物として其の年産額百六十三萬噸(一九三六年度)に達し、その他玉蜀黍・葛・甘蔗・珈琲・茶・煙草・果實類等を産出してゐる。又、生絲の産出も相當にあり、その多くは住民によつて織られ、殘餘が輸出されてゐる。

## 炭礦地

尙ほ、佛印中トンキン地方は最も鑛業が盛んで、炭礦多く毎年の出炭高は百萬噸を超えて居る。因にソンコイ下流の沿海地帯には有名なホンゲイ炭鑛を初め、ドン・トリニウ炭鑛、マオケ炭鑛、ケバオ炭鑛、その他亞鉛鑛、鉛鑛、アンチモニー鑛、磷酸鹽鑛等があり、ソンコイ上流地帯にはフノオカン、ニンビン、ドンチアオの諸炭鑛や亞鉛鑛、鉛鑛・タングステン鑛・磷酸鹽鑛等、又、北部の國境地帯にはピアカツク錫鑛・タイニ・エン亞鉛鑛・チニエン・クワン炭鑛・ショーディエン亞鉛鑛その他金鑛・タングステン鑛・磷酸鹽鑛・アンチモニー鑛・鉛鑛等がある。

(四) カムボジア地方 カムボジアの國土は概して肥沃と言はれてゐるが、勞働力不足と氣候不適のため未だ僅少の區域のみが開墾されてゐるに過ぎない。その主産物は米であり、メコン河口まで搬出され、そこで精米の上サイゴンから輸出されてゐる。その他の産物としては、煙草・絹綿・棉花・胡椒・玉蜀黍・棕櫚糖・ゴム等で、就中胡椒は南部のカムボット地方に多く一九三六年度の輸出高は殆んど四千噸に達し、又玉蜀黍も四十三萬噸と云ふ全産額を輸出した。

尙ほ、牛の飼育は古來行はれてゐる産業で、特に首都プノン・ベン地方が盛んである。

良材に富む森林地帯はカムボジア國內で二千萬エーカー(約八百二十萬町歩)と推算され、鑛物資源はタングステ

ン・石墨・寶石等があり、金礦がタイ灣沿岸地方に集中し豊富と見られてゐるが、採鑛は未だ積極化して居らない。漁業は土民の主産業の一つとなつて居り、トンレ・サブ湖で盛んに行はれ、魚類は極めて豊富で鹽漬及び燻製に適してゐる。

(五) ラオス地方 ラオス地方は高原地帯に覆はれて平野に乏しいが、約二十二萬噸(一九三六年)の米を主とし、棉花・藍・煙草・果物・チーク材等を産出し、是等は同地方の北部を貫流し蜿蜒南下するメコン河を通じてサイゴンに搬出される。

鑛業方面に於ては、目下採掘中の著名鑛山は無いが試掘中のものが多く、石炭・タングステン・鉛・銀含有鉛・金の埋藏が傳へられ、特に泰國境寄りには錫・鐵・タングステンの埋藏多く、是等は佛人系の數社が總て採掘權を掌握してゐるのである。

試掘鑛山

六、貿易

佛印は一八八七年に、安南、トンキン、交趾支那、カムボジア各邦によつて關稅同盟を組織し、それ以來關稅の統一が行はれて居り、關稅制度上、準本國としての待遇を受けてゐる。従つて、フランス本土及びアルゼリアとの貿易は相互的に無稅とされ、外國よりの輸入に對しては複關稅制度を採用してゐる關係上、勢ひフランス本土との交易關係が極めて緊密化し、佛印よりの輸出の六割九厘、佛印への輸入の五割六分三厘までが、佛本國及び佛領各地の間に行はれてゐる。

一九三六年度の統計によれば、輸出總額十六億八千二百萬フラン(約一億四千六百萬圓)、輸入總額は九億八千萬フラン(約八千五百萬圓)で、輸入一〇〇に對し輸出一七二の夥しい出超状態を示してゐる。

主要な輸出品は米が第一位を占め、一九二七年度佛印總輸出額の六割五分までが米であり、その後他の輸出種目の増加に比較して減退したが、それでも一九三六年度には四割五分四厘を占め依然として輸出の大宗とされてゐる。玉蜀黍・ゴム・石炭・魚類・錫が之れに次ぎ、以上六種目のみで一九三六年度輸出額の八割八分二厘に達してゐる。

又、主要な輸入品としては、綿織物が常に第一位を占め一九三六年度總輸入額の一割三分六厘に當り、麻織物・金屬製品・機械類・鐵鋼・礦油・棉花・紙・自動車類が之れに次ぎ、以上の十種目のみで輸入額の過半に達してゐる。

佛印に於ける綿業は未だ初期の域を出でないが、綿絲・綿織物の輸入量は次第に減少する一方に於て、棉花の輸入が増加しつつある事は、同國綿業が漸次發達する傾向を示すものに外ならない。

因に、佛印の國別貿易を見れば次の通りである。(一九三六年度)

國別貿易		(輸 出)		(輸 入)	
佛 本 國	佛 本 國	五四・三%	佛 本 國	五三・四%	
佛 領 各 地	佛 領 各 地	五・七%	佛 領 各 地	二・九%	
香 港	支 那	八・一%	支 那	九・三%	
新 嘉 坡	香 港	六・〇%	香 港	七・四%	
米 國	蘭 領 印 度	五・九%	蘭 領 印 度	五・九%	
第一節 印度支那					一〇〇三

日本	四・四%	新嘉坡	三・九%
支那	三・〇%	日本	三・四%
印度	一・七%	印度	三・〇%
ヒリッピン	一・七%	英國	二・六%
ドイッ	一・四%	米國	二・三%
レウニオン(レユニオン)	一・二%	アルゼリア	二・一%

對日貿易

因に、日本への輸出は七千八百三十萬フランで、日本よりの輸入は三千四百七十萬フランを算し、二二六對一〇〇の割合を以て佛印對日本の貿易は我國側の支拂超過を示してゐる。

次に地方別に列記する。

- (一) 交趾支那 外國貿易は一九三三年度統計によれば、輸出額八億三千六百五十三萬フラン(約七千三百萬圓)で米を始め乾魚鹽魚及びゴム等を主とし、輸入額は五億二千八百七十二萬フラン(約四千六百萬圓)で機械類・各種織物を主としてゐる。
- (二) 安南地方 輸出品は砂糖・米・綿花・生絲・肉桂・茶・紙等を主とし、輸入品は綿織物・綿・石油・紙製品・煙草等を主としてゐる。
- (三) トンキン地方 一九三六年度に於ける輸出總額は三億一千七百一萬フラン(約二千八百萬圓)で、米・玉蜀黍・石炭・礦物類を主とし、輸入額は三億六千一百六十五萬フラン(約三千一百萬圓)で、金屬器具・機械・各種織物を主とし、ハイフオンが主なる貿易港である。

物を主とし、ハイフオンが主なる貿易港である。

(四) カムボジア地方 一九三二年度の統計によれば、輸出額は二千三百五十萬ピアストル(約二千萬圓)で、米・鹽魚・胡椒・玉蜀黍・棉花・煙草・魚油・棕櫚糖・ステックラッタ・絹綿・木材・樹脂・皮革類によつて占められ、又輸入額は一千七百五十萬ピアストル(約一千五百萬圓)で、鹽・酒類・織物・化學品・煙草・鐵・阿片等を主としてゐる。

七、交通

陸運

道路 佛印の國道は八千九百八十七軒、地方州道は一萬八千五百四十七軒に上り、その各領別の内譯は次の通りとなつてゐる。(一九三五年末現在)

交趾支那	六五〇軒	地方州道	五、八六六軒
安南	三、一五四軒		三、一五〇軒
トンキン	一、七九二軒		六、三〇六軒
カンボジア	一、六五一軒		一、六三二軒
ラオス	一、七四〇軒		一、五九三軒

鐵道 鐵道線路全長(一九三六年末現在)は三千三百一軒で、その内の二、一〇三軒が官營線、一、一九八軒が私營

線とされ、且つ全線の内二、八三七杆が佛印領内敷設で、他の四六四杆が支那領土内敷設となつてゐる。

尙ほ其等を系統別に見れば、官營の北部鐵道（一、四〇五杆）・南部鐵道（六九八杆）と、私營の雲南鐵道（八五九杆）・カンボジア鐵道（三三九杆）となつてゐる。

北部鐵道には、ハノイ・ナシアン線（一七九杆）、ハノイ・トラン線（七九二杆）、トラン・ニア・トラン線（五三四杆）があり、南部鐵道はサイゴン・ニア・トラン線（四〇九杆）、サイゴン・ミ・トオ線（七〇杆）等より成り、このサイゴン・ニア・トラン、トラン・ニア・トラン線が所謂佛印縱貫鐵道で、一八九七年に著手され四十年の長月を費して去る一九三六年に全通したものである。

雲南鐵道はトンキン地方のハイファンより支那雲南省との國境老開まで三九五杆、老開より昆明までの支那領土内四六四杆である。

カンボジア鐵道は、同地方の首都プノム・ベンを起點としてタイ國境に近いモンコル・ボレーに至るもので、南部印度支那鐵道會社の經營にして、その全線三三九杆が開通したのは去る一九三四年の事である。

水運 前述の通り佛印に於ける鐵道は其の面積の廣大な割合に發達は不充分であり、従つて内地は主として自動車或は河川によつて交通してゐる。

殊に二大河と呼ばれるメコン河及ソンコイ河を始め、多くの河川が内地交通に多大の便を與へてゐる。又、トンキン地方には運河が相當發達し、舟運に資してゐる。而して是等の河川又は沿岸航路は全部フランス系の船舶が獨占して居る。

## 水運

因に、佛印總督府補助命令航路は次の通りである。

- (一) サイゴン、キノン、トラン、ハイファン線（月二回配船）
- (二) サイゴン、スラバヤ、パタビア線（四週一回）
- (三) サイゴン、トラン、ハイファン、香港、汕頭線（四週一回）
- (四) サイゴン、新嘉坡線（月二回）
- (五) サイゴン、バンコック線（月一回）
- (六) ハイファン、香港線（一年五十二回）（但し月二回北海・海口・廣州灣寄港）

尙ほ主要な遠洋航路線としては、フランスのM・M社がそれ〴〵四週一回づゝのマルセイユ・ハイファン線、ダンカーク・ハイファン線を初め、マルセイユ・日本線、ダンカーク・日本線の定期船をサイゴンに寄港させてゐる外、多くのフランス船舶の寄港がある。外國船としては我國の大坂商船會社南米線（月一回）及び横濱バンコック線（月一回）がサイゴンに寄港する他、英國のチャイナ・ネヴィゲーション社船、オランダのジャヴァ・チャイナ・ジャバ社船及びKPM社船の寄港がある。

## 航空

航空 一九三一年フランス東洋航空會社によつてマルセイユ、サイゴン間の連絡飛行が實現されて以來、現在では佛本國からビルマ及タイを経てサイゴンに達する印度支那線を初め、ハノイ・廣東線（奥地線と廣州灣經由海岸線との二あり）、又、地方線としてハノイ・バンコック線がある。その他英國空輸會社のビナン、香港線が安南のトランに寄航するが、同地に於ける旅客の乗降及び運送物の積降しは許可せぬと云ふ極端なフランス本位主義を固執してゐる。

通信 佛印に於ける通信事務は、直轄植民地の交趾支那では一八七八年以來實施されたが、佛印全體としては一九〇一年に漸く郵便・電信事務の形態を整へたものであり、一九三五年度に於ける主要郵便局は三百六十五局を數へ、その内譯は交趾支那九十一局、安南六十二局、トンキン百二十八局、カンボジア四十七局、ラオス三十七局となつてゐる。

電信線は一萬二千軒で、内國電報は八十一萬通を超えてゐる。

電話線は一九三六年度に於て五千四百四十一軒に及び、その電線の延長は三萬一千三百二十九軒、加入者數は六千七百七十二名で、呼出回數は約八百萬回となつてゐる。

無線電話

又、サイゴン及ブノム・ベンとフランス並に歐洲各地との間に無線電話が開通してゐる。

### 第二節 佛領太平洋諸島

#### 一、佛領ニュー・カレドニア

本島は我が委任統治クサイ島の南千五百海里、東經百六十五度、南緯二十二度邊に在り、東にローヤルティール群島、北にニュー・ヘブリデス群島がある。西北より東南に互り長さ二百哩、面積八千五百四十三方哩、一九三六年の總人口五萬三千三百四十五人、内譯左の通りである。

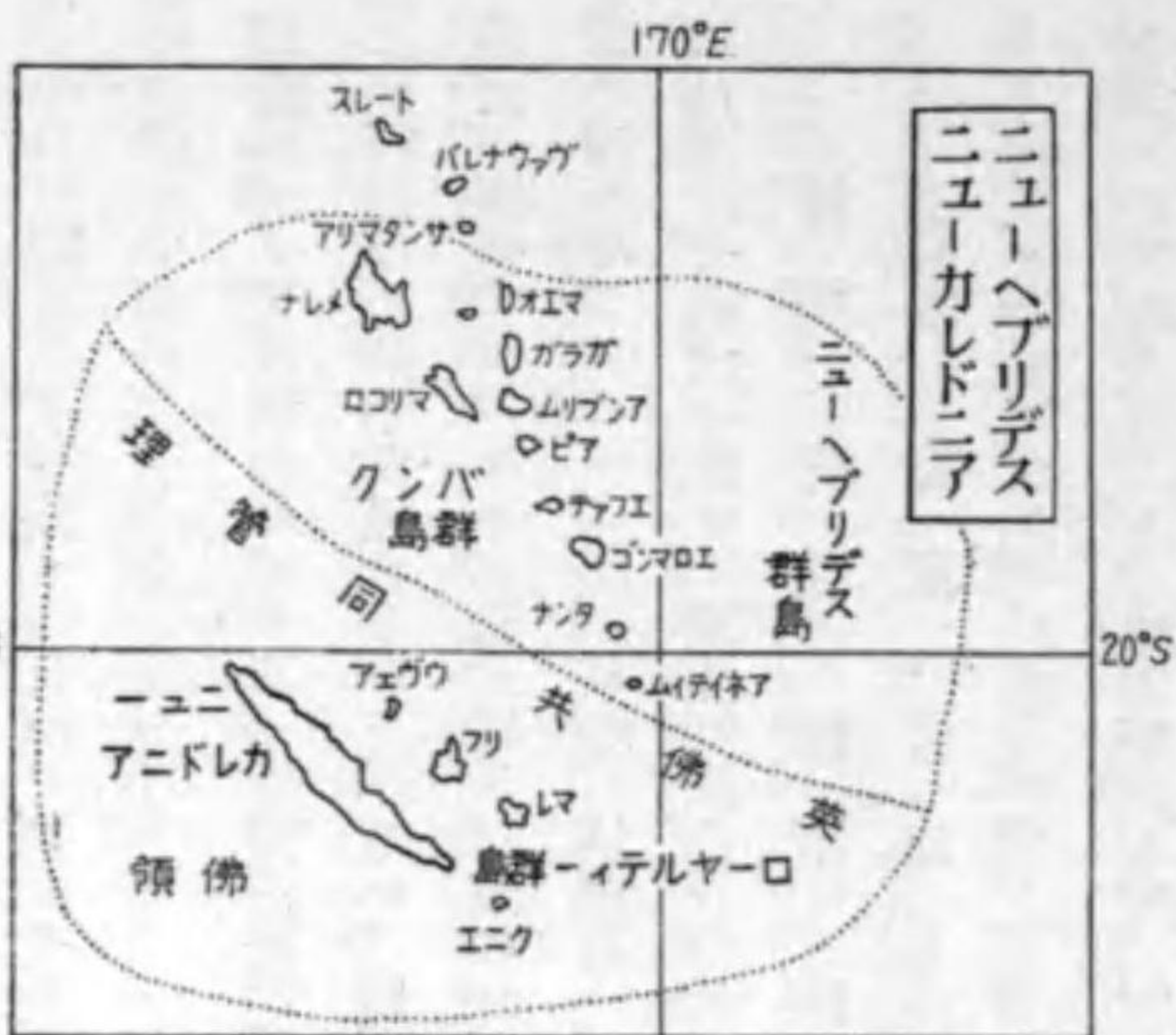
白人 一七、三二二 土人 二八、五九六

沿革

瓜哇人、安南人 七、一三三 其他 三〇四

本島は古き火山岩を以て成り、西北部海岸一帯には四百海里に及ぶ珊瑚礁が連続し、島内には樹木鬱茂せる山嶽があり、森林及び礦物資源多く、又牧畜が盛んである。

本島最初の發見者は英人キャピテン・クックであるといはれて居る。一七七四年クックは本島に上陸し、其の證として樹幹に名を刻んだ。故郷蘇格蘭の景色に似た所からニュー・カレドニアといふ名を冠したといふ。これより先き、一七六八年佛人ダントロカストーの麾下が此の邊で失踪したことがあつたので、一七九二年佛蘭西はラ・ペローズを遣はし捜査せしめたことがある。即ち帆船に乗つてバイン島附近を隈なく捜したが踪跡を發見することが出来なかつたといふ。一八四〇年始めて佛蘭西から宣教師が來た。一八五〇年測量船アルクマン號の士官が、バアバ島土人に殺されたのを口實に、一八五三年デスポアン提督は艦隊を率ゐて本島を占領した。一八六三年普佛戰爭後、國事犯及び重罪犯人二百



(源管同共佛英は島群スアリアヘーユニ)

五十人がヌメア對岸ノオ島に流され、その數は一九〇六年中、實に七千九百に達したといふ。本島は地味豊かに氣候良く、天然資源に富んでゐるが、長い間世の中から忘れられてゐた。今日現存せる道路・橋



安南労働者の移民

梁・鐵道その他建設物は殆んど流人の手になつたものであり、囚人は濠洲へも移されたことがある。現在島民中二千三百は流囚の子孫であり、佛人と土人との混血兒の數一萬七千に上る。

本島は曾て爪哇及び安南方面より多數の労働者を入れ、一八九六年頃は、その數一萬四千に達したことがあつたが、今日は新らしく外國人の入國を禁止せる爲め、人口減少、産業萎縮し、島民は労働組合を結束し、外人労働者の移住を拒んでゐる。

政廳はヌメアに置かれてある。佛蘭西海軍省直轄地として將官級軍人によつて統治されて居るが、島民と官吏との間には劇烈なる闘争が絶えることがない。歐洲大戰の際には、之に参加すべく本島から二千七百七十の兵が出征した。島内に滿俺、コバルト、鉛、辰砂、鐵の外、優良のニッケル礦や、燐礦石を産す。一九二五年中のニッケルの輸出量四千四百噸、クロム礦二萬噸、燐礦石一萬一千噸に上る。一九三八年中の輸出四千六百四十五萬法、輸入一億五千八百五十七萬法に達す。重要物産は左の通である。

椰子	棉花	煙草	珈琲	高瀬貝	白檀	鹿皮	牛脂	家畜
玉蜀黍	海鼠	香油	木材	果實	燐礦石	蝶貝	銅鉛	滿俺
ニッケル	クロム							

主都ヌメアの人口九千、無電塔があり、對岸ノオ島に北米合衆國と濠洲との聯絡のため空港建設が可決された。政廳はフォン、ローヤルティール、ワーリス、フトゥナ、アロフの諸島を管理してゐる。

ローヤルティール群島 ニューカレドニア島の東に在るリフ、ウヴェア、マレ、ハンターなどから成る女護の島である。

果實豊富の島

面積八百方哩、一九三六年人口一〇、一一三名、内男二、七〇六、女三、七二八、子供三、五四九等であつて、男子の數が甚だ少ない。男子は水兵として採用されて居るものが多く、島民は此の島に外人が來て企業することを好まない。

玉蜀黍は一年を通して實を結び、椰子、バナナ、柑橘の實は剩つて地に落ち、拾ふ者なしといふ恵まれた所である。

リフ島 人口五千四百餘人中、約五百の癩患者が居り、宣教師が來て治療と教化の任に當つてゐる。

ウヴェア島 人口一、七八二人、内地は濕地多く、マラリヤが流行して居るが、海岸到る所に清泉が湧出し、附近の礁には燐礦が豊富にある。然るに勞力が不足し、何人も之を採掘をしてゐない。

マレ島 約二千九百の土人が住んで居るが、長い間、新舊兩基督教信者の間に闘争が続けられ、加特力教徒は遂にバイン島に避難移住してしまつた。

バイン島 別名クニエ島といふ。キャピテン・クックが始めてニューカレドニアと命名したのは即ち此の島であるといふ。面積五十八方哩、人口僅に五百七十に過ぎない。

フォン島 別名サープライズ島で、クック島の西北にあり、毎年約六千噸の燐礦を産し魚族が豊富で良港がある。

ニューカレドニア政廳は現在外國人の入國を禁止して居る。然し島内には、礦物や森林資源が多いから、若し我が國が、ニッケルや木林を買はうと欲するならば、邦人何百人かを限り入國が許されないこともなからうと思はれる、群島内三箇所に無電塔が設けられてある。

## 二、其の他の佛領諸群島

トアモト、ロー・アーチペラゴ、佛領オセアニア、デンチャー・アーチペラゴ、<sup>カニヤ</sup>連鎖群島等の別稱がある。熱帯太平洋の東南部を占め、面積千五百二十方哩、一九三六年の人口四萬〇八百十五、左の諸群島から成る。

## 連鎖群島

ソサイティ群島	面積	六五〇方哩	人口	三〇、八二四
ガンビール群島		六方哩		一、五七九
マーケサス群島		四九〇方哩		九九二
アウストララル及バラ群島		一一五方哩		三、〇七四
パウモト群島		二二二方哩		四、三四六

この中、土人二萬九千、支那人四千、佛人五千三百、其他の外國人は二千四百となつて居る。

**ソサイティ群島** リーワード群島と、ウィンドワード兩群島から成り、面積六百五十七方哩、前者の人口約九千、後者の人口約二千五百、政廳はタヒチ島ボベエテに在つて人口約五千である。

**ガンビール群島** マンガレバ、其の他の珊瑚礁から成り、面積六方哩、人口千五百六十餘、一七九六年船長ウィルソンが発見、蝶貝、柑橘、椰子及び珈琲を産す。

**マーケサス群島** 十餘の小島から成り、面積四百九十方哩、人口九百、海拔九百米餘の高山突凡として聳ゆ。一五九五年西班牙人メンダニヤは東南の群島を発見し、時の西班牙宰相マーケサスの娘の名を取つて、マーケサス・メンドサ島と名付け、その後、レヴァリ・ヒューション群島と呼んだことがある。一七九二年米人イングラハム船長が来てワシントン群島と命名し、又其の後船長ポーターが来て此所に占據したことがある。一七七七年キャピテン・タックが

來航し、一八四二年に至り、加特力宣教師渡航して遂に佛蘭西領と決した。百年の昔は十萬の人口を有し、魁偉の體格を有し、天女の如き多くの美人がゐた此の島も、白人が遺した性病の遺傳と、鴉片と、アルコール中毒のため人口激減し、今日は其の數實に往時の何十分の一になつてしまつた。

**アウストララル群島** トウプアイ群島とも呼ばれ七つの小島から成り、面積百十五方哩、人口三千餘、十八世紀中ツァンクラーヴァー、ラッセル、クック等によつて発見せられた。四十方哩のトウプアイ島を最大とする。ラバ島には海拔六百米餘の高山があり、風景極めて美しい。往時祕露から移民が渡つて来て性病を遺し、今尙ほ土人は之れに惱まされて居る。

## 風景絶佳

**パウモト群島** 俗にディアスアップポイントメント島、或は連鎖群島と呼ばれ、約九十の珊瑚礁から成る。面積二百二十方哩、人口四千三百五十、トアモト群島といふのが正しい名で、一六〇六年、西班牙人デ・キロスの発見にかゝる。デ・キロスは曾てメンダニヤに従つて水先案内となり、ニュー・ヘブリデス島を発見し、またソロモン群島中のダフ島をも発見した人である。

本群島の土人は潜水夫として有名である。裸體になつて雙手に塊鉛を持ち、良く十九尋の海底に潛み、蝶貝を指間に挟んで浮揚つて來る。

**タヒチ島** チョルジャン島とも呼ばる。ソサイティ群島中の一島にして其の島形宛も數字の8に似て面積四百〇二方哩、人口約二萬、内土人の數八千、佛人五千、支那人二千九百。南北二島は狭き地峽を以て蟻の胸腹の如く接続し、北島には海拔二千三百米餘の高山がある。一六〇五年デ・キロス之を発見し、一時サギタイラ島と呼ばれた。又

一七六七年には英人ウォリスはドルフィン號に乗つて本島に渡來し、之にキング・ジョルヂ島の名を冠し、英國旗を掲げたことがある。一七六八年佛人ボーガインヴィーユ來つて佛領を宣し、名をヌーヴェーユ・シセイヤーと改めた。

太平洋上の  
豪華島

キャピテン・クックは其の航海史に、本島は太平洋諸群島中最も豪華の島であると推奨してゐる。山高く、水清く、地味肥沃、天然資源多く、椰子・バナナ・柑橘・砂糖・珈琲の外、毎年五百噸の蝶貝、八萬噸の燐礦石を産す。毎年の輸出約五千萬法、輸入四千四百萬法、島内に師範學校一、小學校八十七が存す。又島民には多くの癩病患者がある。ボベエテに政廳を設け、七百の自動車がある。バナマ運河を経て、ニュー・カレドニアと佛蘭西本國との定期船が寄港し、又無電塔の設備がある。市長の下に十五人の市會議員が居り、任期は各々六箇年となつて居る。支那人の商權強く、大商店は總て佛人の經營にかゝる。群島内には四箇所に無電塔が設けられてゐる。

### 三、ニュー・ヘブリデス

英佛共同管理（第四章第六節参照）

## 第七章 蘇聯邦極東三州

（沿海州・カムチャツカ州及び樺太州）

### 一、沿革

西比利亞侵  
略

舊露西亞帝國の對外政策は全く侵略に終始して居つた。西比利亞へ其の魔手を延ばしたのは、十三世紀からであるが、愈々確實に攻略したのはコザック兵の頭目エルマックが一五八一年ウラル山脈を越えて西比利亞に入り、蒙古人部落を占領した時からで、爾來コザックや慾に目のない輩が、毛皮や金なんかを土人より不法徴收の目的を以て、廣漠たる山野を一途に東へ東へと進み、已に早くも一六三二年には西比利亞東北隅に近いヤクトへ、一六三六年には日本海沿岸のオコツクへ、遂に一六四五年には黒龍江へ出で、エルマックの東征著手以來、僅々六十數年の間に、日本の面積の二十倍にも近い約一、三〇〇萬平方杆に互る西比利亞侵略の基礎を成し遂げ、表題に掲げた今の蘇聯邦領極東三州の大半を手に收めたのである。然かし遠征者自らは其の攻略した土地を治むる術を知らないし、又彼等は遠征の途中、土人や峻烈なる氣候風土と闘ひ段々死亡するので、其の占領地は露國政府が承け繼いで國土としたものである。其の後、露國は黒龍江方面で支那との間に幾多紛糾を重ねたが、ムラヴィヨフが東部西比利亞總督となつてから、どしどし黒龍江下流樺太沿海州岸を占領し、遂に一八六〇年支那が英・佛との戦争で國家の運命甚だ危かつた際、

自ら調停役を買つて出で其の報酬として、一兵も損しないで現在通り大陸に於ける極東蘇聯邦領を決定的に獲得したものである。

## 我國との交渉

次に本邦との交渉に就ては、我國は西比利亚大陸と一衣帯水の關係に在るから、古くより本邦船が暴風の際、其の沿岸へ漂著したのは當然の事である。露國は十七世紀末カムチャツカ半島の侵略を完了するや、漸く南轉して千島へ其の野心の鋒先を向け始めたが、始めのうちは露骨ではなかつた。即ち漂著邦人がある場合、之を殺さないで、彼等から我國の情勢を聞き、或は日本語を學ぶを例とした。斯くて遂に一七九二年來、再三漂著人送還を口實として、本邦へ使節を送り修交を求めたものである。

當時既に林子平は露國の我が北邊に對する領土的野心を觀破し、國民に警告を與へたが、實に彼は先見の明ある憂國の士と謂ふべきである。又樺太に就ては一六四〇年頃から、松前藩が其の地南部の實地踏査を行ひ、一七五一年から自ら漁業經營を爲し、多大の利益を擧げた。下つて一八〇八年には先覺者たる間宮林蔵が、露國人に先んずること約四〇年前、樺太が大陸とは隔絶せる一大孤島であることを發見した。然かし豫て千島や樺太を荒らし、我が方の隙を狙つて居た露國は、一八五三年以來我國に對し、北方に於ける國境劃定を申入れて來たが、當時露國の進出で怖氣ついでゐた幕府は、我國に樺太先占の權あることを主張し得ないで、繼に北緯五〇度以南の領有を固執してゐたが、明治八年の千島樺太交換條約で樺太全土を露國に取られた。併し其の後、日露戰役に於て戰勝の結果、漸くに北緯五〇度以南の地を恢復し得たのである。

斯くて露國は西曆一八五〇年代から、極東露領へ自由移民や囚人前科者を送り、或はコザツクの強制移住を行ひ、

## 極東三州の區域

又移民には旅費や定著資金を支給し、其他種々恩典を與へたが、何分氣候風土が住み慣れた歐露や西比利亚奥地と異なり、農業の成績不良で植民振はず、一時は窮餘の策として外國人の移住をさへ歓迎したことがあつた。併し、夫でも一九一七年の革命直前に於ける是等三州の人口は、多く見積るも六十萬を算したるに過ぎなかつた。

茲に讀者の注意を促したいことは、蘇聯邦領極東三州の區域に關してである。同聯邦は其の標榜する社會主義達成の爲め、經濟を最高度に發達させんことを企圖し、他面之に即應して經濟狀勢と民族關係とを基準として、行政區域を定むることにして居るので、各地方の經濟狀勢の變化に伴ひ、隨時右區域を改正して居る。極東蘇聯邦領にして、革命以來實施せられた政策の結果として、其の經濟的様相が變化するので、頻々と改正された。現に本三州の名稱は帝制時代以來、今も残つて居るけれども其の區域は著しく變化して居る。然かし其の改正は今後も行はれるであらうから、本書では便宜上、革命直前の區域に従ふことにした。

## 二、地誌

極東三州は亞細亞の東北端に在つて、略ぼ北緯四二度半から七〇度、東經一三〇度半から一七〇度に跨り、其の内沿海州は南方に位し、其の南西部は我が朝鮮及び滿洲國と境を接し、東部は海を隔てゝ我が國の北部と對峙し、樺太州は沿海州北部の東側の島で、其の北半分が蘇聯邦領、南半分は我が樺太である。カムチャツカ州は大陸の半島であつて、是等二州の東北に位し、西と北とはヤクト自治共和國に隣接し、東はベーリング海を挾んで北亞米利加と相對して居る。

## 山嶽・河川

面積は三州を合せて本邦の約三倍で、二百萬平方千米に近い。是等の州には山嶽が多く、山脈の主なるものは沿海州では、西北の州境に小興安嶺とドジグドル山脈があり、東には海岸寄りにシホタ・アリン山脈があり、カムチャツカ州西北の州境にはスタノヴァイ山脈が西南から東北に連なつて居るが、同州の中央より稍々東寄りて南方へ突出して居る同名の半島には、二條の山脈が南北に走り、到る所高峯聳え圓錐形の死火山一〇〇餘、活火山一九もあると言はれ、其のうちの若干は煙を吐くのが海上から眺められ壯觀である。

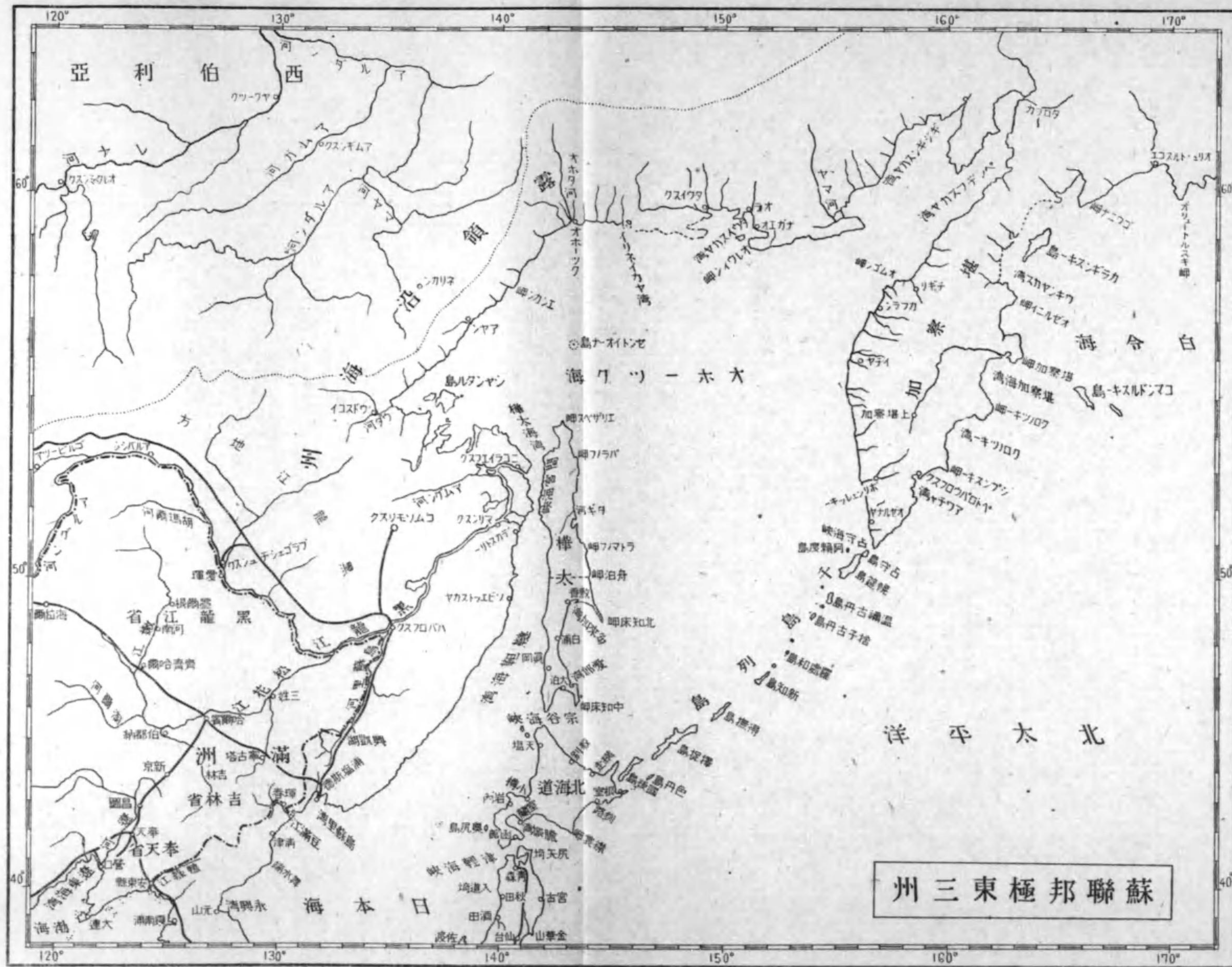
是等三州には遠く蒙古に源を發する黒龍江の外、以上諸山脈を分水嶺として流れ出る數多の河川があるが、黒龍江とカムチャツカ州北部のアナドル河以外は、浅いか又は急流で、殆んど舟楫の便がない。尙ほ沿海州には滿洲との國境に興凱湖があり、又北部にキジ湖及び小さな湖が二、三ある。

## 氣候

氣候はスタノヴァイ其の他の山脈が大陸の奥からの寒風を多少遮るのと、海上には黒潮が流れて居るので、奥地に比し寒氣が幾分緩和されて居るとはいへ、冬は西北の風が吹き荒み中々寒い。例へば南方の浦潮斯德でも、攝氏零下二〇度内外に下り、一年中四ヶ月は港が堅氷で閉ざされる。又北方アナドルでは零下四五度程度にさへ下る。夏季西南より吹いて來る暖い海風は、雨又は霧を齎らし時々農作物を害し、又船舶の航行を苦めることが少なくない。

## 人口

人口は各種民族を合せ、現時約二百萬人（軍隊を除く）であるが、本三州は西比利亞東北の行き詰りとも云ふべき所なので、古い亡びかけた民族が幾種となく押し詰められて残つて居る。其の主なるものは、ギリヤク、ゴリド、ツングース、コリヤク、ラムート、カムチャダール等で、其の總數は確かなことは判らないが、凡そ四五、〇〇〇内外である。



氣候はスタノウ、イ其の他の山脈が大陸の奥からの寒風を多少遮るのと、海上には黒潮が流れて居るので、奥地に比し寒気が幾分緩和されて居るとはいへ、冬は西北の風が吹き荒み中々寒い。例へば南方の浦潮斯徳でも、攝氏零下二〇度内外に下り、一年中四ヶ月は港が堅氷で閉ざされる。又北方アナドルでは零下四五度程度にさへ下る。夏季西南より吹いて来る暖い海風は、雨又は霧を齎らし時々農作物を害し、又船舶の航行を苦めることが少なくない。人口は各種民族を合せ、現時約二百萬人（軍隊を除く）であるが、本三州は西比利亞東北の行き詰りとも云ふべき所なので、古い亡びかけた民族が幾種となく押し詰められて残つて居る。其の主なるものは、ギリヤク、ゴリド、ツングース、コリヤク、ラムート、カムチャダール等で、其の總数は確かなことは判らないが、凡そ四五、〇〇〇内外である。

極寒地方特有の附屬物とも云ふべき凍土帯は、此の地方ではハバロフスク以北各地に散在して居る。凍土帯は冬が長く寒さ酷烈な所で、地表の傾斜が緩かだと排水が悪く、地表から一米内外から下は、周年凍結して樹木は長大とならず農業に適せず、精々家畜の飼育が出来る位である。

### 三、政治

現在本三州は西隣の二州と共に、ハバロフスクと沿海の二地方（露語にてクライと云ひ、行政區域である）に分轄されて居るが、各地方は更に州・市・區・村等に分れ、是等各行政區域には住民から選舉された代議員から出來たソヴィエト、即ち地方議會がある。此の議會は、中央政府が地方に派遣してある官吏を経て、直接執行する事務を除いた一切の事項を自治行政の形で處理して居る。他方住民は露西亞共和國政府へも、又同共和國の外、十個の共和國が聯合して造つた蘇聯邦政府へも代議員を送り、中央議會である最高會議と云ふものを組織し、國政に參與して居る。現行憲法には選舉の資格としては、男でも女でも十八歳に達しさえすればよいので、一見誠に徹底した普通選舉で、世界無比の民主主義が行はれて居るやうであるが、他方共産黨なるものが中央機關を有する外に、地方の各行政區域や、多人數勤めて居る官公衛工場商店船舶や軍隊等内に、大小の機關を持つて實際上政治行政の牛耳を執つて居るので、中央及び地方の議會なるものは全く傀儡に過ぎない。そのみならず最も強力なる警察權を有して居る所謂ゲ・ベ・ウ（今は内務省に相當する内務人民委員部の一部となつて居る）と云ふものがあつて、蘇聯邦人の居る所には限なく其の祕密網が張られ、斷へず監視の眼が光つて居るので、人心が萎縮して居るのは無理もない。且つ又、現政府

は國民の福祉増進を企圖し、一九二八年來三次に亙る五年計畫で、一億數千萬の人口と無盡藏の天然資源との總動員を行ひ、産業を相當發展せしめたことは事實なるも、何分にも重點を軍備に置いて居るので、革命以來二十有餘年の今日、民間には未だに物資不足し、國民の生活程度は諸外國に比し甚だ低い。

我國との關係

蘇聯邦と我國との關係を觀るに、國體や思想は全く氷炭相容れないのである。併し夫でも大正七年乃至一一年の西比利亞出兵當時は兎に角とし、滿洲事件前迄は兩國間には大した摩擦もなく濟むだが、右事件以後兩國關係は俄然惡化し、政治に經濟に幾多紛争が續發し、時には砲火を交へ互に多數の犠牲を出したとさへあるのは遺憾である。今後幸に兩國の國交が改善せられることがあつても、我等は東亞防共の盟主として、飽くまで日本精神の鍛鍊と實力の養成とに邁進するの覺悟が肝要なるは言ふ迄もない。

斯様な次第で蘇聯邦は第二次五年計畫以來、極東自國領の強化に全力を傾注し、軍備の充實、人口の増殖、産業の開發、交通の整備等を圖つて居るが、軍備・産業及び交通等に就ては、夫々別に述べることにする。人口に就ては逐年産業の振興のため勞力の不足甚しいから、移民に對しては大に保護獎勵を加へ、或は出稼人を半強制的に極東に定著せしむる等、凡ゆる策を執つた結果餘程増加し、遂に一九三九年一月現在に於て約二百萬を算するに至つた。

民族政策

尙ほ土著民に就ては前に述べた通り幾種類もあるが、帝制露國政府は古くは彼等に壓迫を加へ、近年と雖も彼等の爲め何等文化施設を爲さず、露國人の搾取するに委してあつたので、其の人口は減退する一方であつたが、現今の政府は革命當時より民族政策を取上げ、少數民族の福祉増進を高調して居るが、無教育者が多いので先づ無學を一掃する必要があるも、何分場所が邊鄙で之が實行は中々困難らしい。

#### 四、軍 備

蘇聯邦の軍隊は通稱赤軍と稱し、「プロレタリアの祖國蘇聯邦を防衛云々」と教令に示してある所より見るも、其の目的は世界革命に備へあるは明白である。赤軍首脳部は、祖國の危機を絶叫して、西は歐洲戦線に、東は蘇滿國境に、其の防備を嚴にし、裝備の機械化と共に近年頗る強化一途に進んで居り、特に戰車は最重要視して、最新式のもの、重量八十噸、七・六擲砲二門、機關銃四門、乗員十二名で、一九三七年現在に於て推定戰車數五千臺と稱せられて居る。此の他、將來の化學戰に對應すべく、化學聯隊及び獨立化學大隊を常設し、別に落下傘部隊(空中デサント)の新戰術創始に努力を拂つて居る。

赤軍陰謀事件

一九三七年赤軍陰謀事件發覺して、最高政治部長ガマルニツク大將の自殺、國防人民委員長トハチエフスキー元帥以下八將軍がキエフ條例により六月十二日死刑に處せられてから、赤軍の政治教育は特に重要視され、軍事技術教練と共に政治教育を加味し、各兵士にマルクス・レーニン主義世界觀を注入して居る。従つて赤軍最高指導部の大部分(大將級一〇〇%中將級九〇%大佐級七三%佐尉官級六八%)は共產黨で占められ、各科の兵士四九・三%も共產黨員である。且つ此の外に約十五萬の特別軍隊(ゲ・ベ・ウ)があり、憲兵以上の權限を附與され、反革命運動の取締、交通の保護、國境の守備、軍規の監視等に任じ、秘密裁判權及び刑務執行權の一部を有し、一般民衆軍兵等が恐怖的となつてゐる。又約八萬の護送軍隊があり、平時は囚人の集團移送監視に當り、戰時は捕虜護送に従事する。兵力の詳細は知り難いが、大體左の通である。



一九三七年赤軍平時兵力(十三軍管區に分る)

總計	百八十五萬
内 正 規 軍	百三十萬 (步兵八〇師團、騎兵一五師團、戰車四聯隊及び一〇大隊、機械化四兵團)
民 兵	約 三十萬
特 科 兵	廿五萬
外に ゲ・ベ・ウ	約 十五萬
護送軍隊	約 八萬
合計	約 二百八萬

日露戦争で我が海軍のため壊滅した露國海軍は、之を補足する爲めに、蘇聯空軍に異常の努力發達を遂げたが、最近海軍力充實の必要を痛感し、特に對日戦備に極東海軍力の強大を決意し、一九三八年一月ソ聯最高會議では、國防人民委員部から新に海軍人民委員部を獨立させ、國防次長スミルノフを海軍人民委員部長に昇格させた。蘇聯海軍の目的は、一朝有事の際に、多數の潜水艦を日本海に活動させ、日本の制海權を脅かそうとするに在るは明白で、之と並行に大型主力艦の建造にも著手し、三萬五千噸主力艦(四〇種砲九門)一隻を米國に注文し、更に三萬五千噸主力艦(四〇種砲十門)三隻も注文すると見られ、將來侮り難いものがある。

一九三八年蘇聯海軍力は概ね左の通りである。

戰 艦	四隻 (九三、四八〇噸)
甲級巡洋艦	三隻 (二四、八〇〇噸)

海軍

乙級巡洋艦	六隻 (三九、三〇五噸)
航空母艦	一隻 (八、六〇〇噸)
驅 逐 艦	約 二八隻 (約二九、〇〇〇噸) <small>レニングラード(二、六〇〇トン)を含む</small>
潛 水 艦	約 一七〇隻 (約九〇、〇〇〇噸) <small>航洋潜水艦ガリハリデッチ(一、三〇〇トン)を含む</small>
合 計	約 二一二隻 (約二八五、一八五噸)

蘇聯邦海軍は極東に於ける對日戦備上之を重視して、太平洋艦隊(根據地浦鹽斯德)黒龍江艦隊(根據地尼港、ハバロフスク)に区分し、浦鹽方面には最新大型潜水艦を激増し、其の他詳細は不明であるが、極東に配備してゐる艦艇は概ね左の如くである。

太平洋及び黒龍江艦隊			
巡洋艦	一隻	驅逐艦	二隻
潜水母艦	七五隻	潜水艦	一隻
水雷艇	六隻	警備艇	三隻
河用砲艇	一六隻	碎氷船	五隻
特務艇	一五隻	河用砲艇	三四隻
高速魚雷艇	約一〇〇隻	其の他	若干

一九三七年九千噸級大浮船渠を黒海から浦鹽に廻航し、黒龍江岸の軍都コムソモリスク市には、三四千噸級艦船の修理可能なる第一級造船所を建設中であるから、沿岸防備の強化と相俟ち、仲々に輕視し得ない海軍である。

空軍は海・陸軍と鼎立して獨立空軍となり、國防人民委員部に直屬し、國防次長が統率する。空軍には飛行隊・氣球隊・航空船隊の三種があり、飛行隊は大隊を單位として、參謀部・政治部・經濟部・聯絡部、

空軍

補給部等があり、大隊を集めて航空兵團を組織し、飛行機三機にて一小隊を、二小队で一中隊を、三中队で一大隊を編成する。別に十二機から成る獨立飛行中队があり、將來大隊に編成する豫定である。

蘇聯海軍の弱勢を補足せんが爲め、空軍充實に全力を傾注したのは前述の通で、實に世界的驚異の擴張充實が行はれた。即ち一九二二年（大正十一年）空軍創設當時は約二〇中队に過ぎなかつたが、一九三五年には二四二中队となり、一九三七年には約六千機（約一千中队で重爆撃機千四百、輕爆撃機千七百、偵察機千五百、第二線用機千四百）地上勤務員三萬五千を有し、飛行部隊二十（第一飛行隊レニングラードより）内水上飛行隊二隊（レニングラード、サラトフ）がある。

空軍の教育機關は各種學校（飛行・戦闘・爆撃・高等飛行・航空大學・航空氣象・航空器具技術・航空寫眞・航空無電）があり、將校下士を入學せしめ、精兵主義、戦闘能力の強大を計つてゐる。

#### 氣球と飛行

氣球隊は帝政時代から研究され、露土戦争にはセバストポリ要塞に初めて使用せられ、日露戦争には浦鹽軍港に氣球が設置された。ソ聯氣球隊は彈著觀測に使用され、一は砲兵との協同、他は裝甲列車砲の協同作戦に充てられる。

飛行船隊は現在二隊あり、一九三〇年八月獨逸エッケナー博士をモスクワに招致し、ツェペリン飛行船を國民醸金により建造し、一九三一年四月一十萬ルーブルの資金で飛行船隊の建設に著手したのである。

蘇聯空軍の世界的躍進は實にソ聯邦民間航空事業が異常な發展を見たに基因し、其の中樞たる一九二七年組織せる國防飛行化學協會（オソ・アビアヒム）が主役を演じたのは周知の事實である。會長エイデマン將軍は一九三七年トハチエフスキー事件に連坐して銃殺され、協會内部に動搖を來したが、それでも尙ほ一九三七年現在會員二百萬人と云はれる。

### 五、産 業

帝制露國は本三州を侵略したもの、其の初期には高價な毛皮や金等を探ることの外は、産業の振興に餘り熱心でなく、其の上本國から遠運にして交通運輸頗る不便であり、且つ人口少なく勞力も足りないもので、比較的距離の近い米國人が北部で捕鯨業及び輪出入を營む位に過ぎなかつた。十九世紀末頃から、漸く小規模な資本主義的産業が行はれ、獨逸人も南部に入り込み、商業を始める様になつたし、更に日露戦争後には、日本の資本が入り込んで漁業や林業も盛んとなつた。革命後暫くの間産業は萎靡して居つたが、政府は次第に本國同様農業や手工業等を除き、總て國家の經營に移した。滿洲事件勃發し、日本の勢力が滿洲に進出してから、蘇聯邦は極東方面の軍備及び經濟力の強化に専念することゝなつた。時恰かも蘇聯邦には、一九三三年から第二次五年計畫が實施され、本三州の産業や各般の施設のために、大資本を投じ一九三六年來、蘇聯邦中央政府は其の建設の爲めの支出額の約十分一を極東地方（一九三八年迄の行政区で本三州が其の大部分を占めて居る）に投下したと云ふから、最近數年間に本三州に投じた金額（軍事費を除く）は邦貨にして、少なくとも十億圓を以て算するであらう。そこで此の數年間に本三州の各種産業は俄に活氣付くことゝなつた。以下主なる産業に就き簡単に擧げて置く。

**鑛業** 石炭は沿海州の南部及び樺太州の西岸等に豊富で、割合に早くから採掘されたが、近年は其の生産高は増して約五百萬噸となり、大體地方の工場・鐵道・船舶・煖房・厨房等の需要を充たして居る。石油は樺太東海岸に有望なる油田があつて十數年來採取し、最近その採油年額は四十萬噸程になつて居り、且つ其の精製のため、數年前ハバ

#### 第二次五年計畫

ロフスク市に精油所が出来て、最近は年額六、七萬噸の生産を擧げて居る外に、カムチャツカ州その他にも油田があると言はれ調査中である。尙ほ樺太州には大正九年尼港事件の損害賠償として、邦人に許されて居る石油及び石炭利権事業がある。孰れも年額約二十萬噸近くの生産を擧げてゐたが、最近日蘇間の國交悪化に連れ、蘇聯邦政府と企業者との間が圓滑を缺き、經營が頗る困難となつて居る。

沿海州南部海岸では鉛と錫とが採れる、又同州各地に鐵礦が埋藏されて居り、之が採掘精煉事業は今準備進行中と言はれてゐる。

## 新都市の發生

金は各所で採れる。採金事業は以前沿海州西北部が最も盛んであつたが、此の數年來オコツクの東方ナガエヅの奥地、コルイマ河上流の採金高が夥しく、その爲めにソ聯邦は産金量に於て世界に覇を争ふ程である。尙ほナガエヅの隣には、採金事業の樞要地として、マガダンと云ふ人口數萬の新都市が忽然として生れた。

**農業と牧畜業** 沿海州南部では、麥類を始め野菜甜菜等が出来、水稻を産するが其の他の地方では氣候の關係で野菜以外餘り出来ない。政府は農民の殆んど全部をコルホーズと云ふ組合に加入せしめ、其の代り農業用機械で作業を授け、收穫物は政府へ賣らせる仕組になつて居るが、近年工業の進展のため、農民は都市へ吸收され勝て、農業の發達に就ては餘り見るべきものなく、爲に收穫物は三州住民の需要の半分を充たすにも足りない程である。牛・馬・豚・山羊等の飼育も飼料不足のため、發展遅々として居るので肉類は需要を充たすに足りない。尙ほ北部の土人の間には、馴鹿の飼育が行はれて居る。

**漁業** 本三州沿海は魚類豊富で、特にカムチャツカ近海は世界屈指の漁場である。魚類は鮭・鱒・鱈・鱒・蟹等

## 蘇聯邦の國營企業

で、海獣は貴重な臘虎を始め、臘腸臍・海豹・海象等が棲息して居る。邦人は凡そ二百年前、樺太で漁業に著手し其の後段々榮えてゐたが、同島が露領となつてから、露國の壓迫のため次第に經營困難となつた。然かし明治三十七八年戰役の結果、邦人は條約に基き公然三州沿岸で漁業を營み得ることになり、一時は全く同沿岸の漁業を獨占して居つたが、近年蘇聯邦國營企業が大に進出し、他面兩國關係が兎角圓滑を缺くが爲め、邦人漁業は押され氣味である。それでも邦人の漁獲高は毎年四千萬圓内外に上り、其の内二三千萬圓程の罐詰は外國へ送られ、外貨獲得に大に役立つて居る。尙ほ邦人は三州の沖合へも出かけて沖取漁業を行ひ、其の漁獲高は數千萬圓に達し、愈々以て海國男兒の意氣を示して居る。蘇聯邦側は國家自ら漁業を營み、其の漁獲高は邦人の約二倍に上つて居り、又數年前から捕鯨を營み毎年三、四百頭捕獲して居る。

**工業** 滿洲事件勃發前迄は、工業として見るべきものは沿海州に於ける小規模の造船・製材・造兵・製粉・罐詰・セメント・煉瓦・皮革製造・發電等、指を屈するに過ぎなかつた程であるが、滿洲事件勃發後、是等工業が擴充せられたのみならず、農具製造・自動車飛行機組立製造・麵麩製造・油脂加工・製糖等各種工業が新に興つた。就中ハバロフスクから三五〇軒下流のコムソモリスクは、一九三二年迄は一寒村に過ぎなかつたが、態と國境線を避け、斯かる邊鄙な所に都市を開き、各種軍事工業を興して居るのは、其の用心さが窺はれる。因にコムソモリスクは逐年人口増加し、一九三九年春には一〇萬人を超したと言はれる。

**林業** 本三州、特に沿海州には各種の用途に適する木材が豊富で盛に伐採されて居る。以前は本邦へも多量に輸出されたものである、又邦人は同州で日蘇間基本條約に基き、森林伐採の權利を得て居つたが、蘇聯邦の國情や態度が

邦人の經營を困難ならしめ、遂に廢業の已むなきに至つた。

## 六、貿易

蘇聯邦の外國貿易は革命後一時内亂と國運衰退との爲め甚しく減退し、五年計畫開始後は外國の機械材料等買入のため貿易が繁榮したが、該計畫進捗し同國産業振興し、外國への依存の必要が減ずるに従つて、近年はまた著しく減退した。就中極東の輸出入は、我が漁業者や石油石炭利權業者關係の輸出入の外は實に微々たるものである。且つ近年極東の輸出入數量を別個に發表しないから、其の數量を知ることが出来ない。尙ほ昭和十四年歐洲戰亂勃發後、蘇聯邦は浦潮斯德を経て種々の商品を米國や南洋等から輸入し始めたが、之は先年の歐洲大戰當時と同様、一時の變態に過ぎない。

## 七、交通

本三州は氣候や地勢の關係上、道路の開設困難なるに加へ、帝制露國は餘り交通路に關心を持たなかつたので、最近まで鐵道といへば、歐露及び滿洲と沿海州南端とを繋ぐ一條の西比利亞鐵道と、沿海州南部の二、三の地方的枝線のみであつた。それでも帝制時代の末期近くには、河海共定期航路漸く整備しかけて居つたが、革命後十數年間河海航路は船舶及び船員不足し、不振の極に陥つてゐた。五年計畫實施せられて各種産業振興し、特に沿岸各地に漁場が増設せられ、工業都市が出来始めてからも船舶も増加し、其の往來が次第に頻繁となつた。他方一朝有事の際、單線

### 五年計畫

### 航空路

では輸送力の足りないのを心配し、數年前西比利亞鐵道を複線とせしのみならず、輸送の安全と増大とを圖るが爲め、滿洲との國境より奥深く東西に走る第二の線路、所謂バム鐵道の敷設を計畫し、目下工事中である。同線は西方よりハバロフスクの下流コムソモリスクへ出で、それから我が樺太の對岸ソヴィエト灣に至る豫定であるが、其の枝線であるコムソモリスク、ハバロフスク間は既に開通して居る。本鐵道完成の曉は、經濟的にも軍事的にも大に重要な働を爲すものと觀られる。尙ほ近年は道路を開設する一方、水陸の交通輸送力の不足を補ふが爲め、本三州都市の間に航空網を蜘蛛の巣の如く張つて居る。交通路として特に注目すべきは、最近數年來蘇聯邦が極東と歐羅巴の間に、印度洋スエズ運河を経ないで北氷洋の自國近海を通つて、比較的短距離の航路を開拓することに必死の努力を續け、一九三九年中に定期航路の素地を作らうとして居ることである。現に之が爲めに多數の碎氷船、飛行機を使用し、各地に航路標識・氣象觀測所等を設置して居る。此の航路が愈々完成する曉は、其の軍事的價値の輕視を許すことが出来ないのは勿論である。

## 第八章 蘭領各地

## 一、沿革

古代(ヒンヅー王國時代) 今日の蘭領東印度と稱せられてゐるスマトラ、ボルネオ、ジャバ、セレベス及ニューギニア其他諸島の歴史は、凡そ西暦紀元前五世紀の頃、馬來ポリネシア族の爪哇島移住に初まつてゐる。

即ち、この時代に當時の東印度、即ち現在の交趾支那・東埔寨及び安南地方に住んでゐた馬來ポリネシア族が、支那の南部から馬來半島を経て、ジャバ、マヅラを初め其他の諸島に移住して來たもので、此の民族が現在のジャバ其他の諸島住民の祖先であると云はれてゐる。

此の馬來ポリネシア族は、北は我國の臺灣より南は英領ニュージラランド、東は南米沖のチリー領イースター島から、西はアフリカの佛領マダガスカル島に至る南太平洋の全島嶼に分布してゐる種族であるが、この種族は蘭印諸島に移住した當時に於て、既に鐵に加工し、水田の耕作、牧畜を行ひ、天文に通じ航海術に長じ、或る程度の社會的生活を営み、相當な文化を有してゐたものと推定されてゐる。

而して、この馬來ポリネシア族が蘭印諸島に移住して來た事情は明らかでないが、最も大規模な移住は、マレイ半島よりスマトラを経て、爪哇及びマヅラ島に至り漸次東方の諸島に及んだものと想像されるが、其中で爪哇及びマ

ポリネシア族の爪哇移住

ヅラ島に最も多く土著したのであつた。ジャバ及マヅラ島への移住は大體、三群に分れて行はれ、ジャバ島の西部・中央部及び東部並にマヅラ島に定住したものと想像される。

斯くてジャバ及マヅラ島に土著した馬來ポリネシア族は、爾來三、四世紀に互つて村落を作り田野を耕し、家畜を飼ひ、鳥魚を獵し、極めて平穩な繁榮を續けてゐたのであつたが、西暦紀元の少し前頃に、印度からヒンヅー人が大舉ジャバの西部に移住して來た。また續いて支那人も渡來するに至つた。

此のヒンヅー人の大移住は、其の後二百年位を経て再び行はれ、ジャバ中央部に定住したが、先住の馬來ポリネシア族に比べて優れた文化を有してゐたので、忽ちにして先住民族を征服して、ヒンヅー人の國家を建設した。尙ほ、このヒンヅー人の移住に依つて、佛敎を傳來したのである。

西暦紀元五世紀頃にはスマトラに、シリ・ヴィジャヤと呼ばれるヒンヅー王國があり、其の勢四隣に及んだとあるが爪哇島の中央部にも七世紀頃には、カリンガ(若しくはカリン)と呼ばれるヒンヅー人の國が興り、相當高い文化を有し、貿易も盛んで金・銀・象牙・犀角等を支那に輸出して頗る繁榮し、附近二十八箇の小國を従へてゐたと傳へられる。

其の後西暦七五〇—八〇〇年の時代に、シリ・ヴィジャヤ國のシャイリンドラ王朝はジャバ島の東部及び中央部を平定したが、八五〇年代にはジャバ島の東部にマタラム國が興り、シンド王の時代にはジャバ中央部を征服しジャバの黄金時代を現出したが、その子孫のダルマヴァンシャ王の時代九九二年には、マレイのバレムバン王國を征服し國威四隣に振ふたと傳へられる。

ダルマヴァンシャの死後、シリ・ヴィジャヤ國と戦ひマタラム國は一度滅亡し、その後シンド王の子孫エルランガ

ヒンヅー人の大移住

によつて再興されたが、エルランガはその領土を二分して、ジャンガラ及ケチリ（パンジャルとも稱す）の二國を建てた。それは西暦一〇四二年のことである。

次でケン・アロが出でてジャンガラ及ケチリ兩國を統一しシソゴサリ王國を建てたが、同國五代の王ケルタナガラ（一二六八—九二年）の時代には其の版圖は、ジャバ全島を初めスマトラ、マヅラ、スンダ及ボルネオ等の諸島に及んだ。また當時支那では忽必烈が帝位に即き、ケルタナガラ王に向つて支那に渡來し恭順を表すべきことを求めたが、王が之を拒絶したので、一二九二年、忽必烈はケルタナガラ王の驕慢の罪を問ふを名として爪哇に遠征軍を送り、却つて爪哇軍に撃退された。

マジャパイト王朝の祖

一二九三年ケルタナガラ王が陰謀によつて殺されたので、ケルトラジャサが代つて王位に即いた。これがマジャパイト王朝と呼ばれ、爾後一四七八年まで約二百年間続いた。

**回教王國時代** 西暦紀元八世紀以來、ペルシアを経て印度から更に東方アジア諸國に普及した回教は、千二百年時代に北スマトラのペルラといふ小國を教化し、更にバセイ國に傳へられ、千四百年時代にはマカラ國にも及び、漸次爪哇島へも侵入して來た。

一四七八年ジャバのマジャパイト王朝が同じヒンヅー王のギリンドラヴァルトハナに亡ぼされ國政が亂れるや、海岸各地方の回教徒は叛亂を起し、遂にバチ・ウヌスは一五二七年にデマ國を建て、王位に即いた。

恰も一五一一年ポルトガル人がマラッカを占領し、次で一五二二年にはバセイを領有したので、ジャバの北西海岸の各地方にマラッカから回教徒が移住して來た。この後回教の勢力は爪哇の全土に擴大した。

斯くて、デマ國の勢力は益々振ひマタラム國をも合併し、その版圖は殆んど全ジャバに及んだが、バチ・ウヌスの死後王族間に争闘が起つて國政は亂れ、スンダ諸國は獨立してバンタム國が興り、デマ國の覇權は一五四七年以後バジャン國に移つた。

爾來、バジャン國は一五四七年から一五八六年に互つて覇を唱へたが、その臣スタヴィジャ侯は叛旗を翻してマタラム國を再興し一五八六年から一六〇一年に及んだがまた、デマ國の末期、國勢の亂れたのに乘じて西ジャバは獨立しバンタム國を樹て一五五二年以來、十七世紀オランダ人によつてジャバが征服されるまでの間、マタラムと並んで何れも勢力を振つてゐたと傳へられて居る。

**オランダの征服時代** マルコポーロがスマトラを訪問したのは一二九二年であるが、一五二二年にはポルトガル船がモルッケン諸島に來航し、次で一五二二年にはポルトガル人がチモル島を占領して要塞を築造し、更に翌二二年にはジャバのバンタムに來航し、以來、バンタムを初めグレシク、ジャバラ、パナルカン等と通商を行つたのである。オランダ人が初めてバンタムに來航したのは一五九六年であつた。是より先、ポルトガル人が東洋航路を開始したのは一四九八年であつたが、ポルトガル人は東洋貿易の利益を獨占する爲めに、その東洋航路を他國人に秘密にしてゐたが、一五八〇年オランダの敵國であつたスペインがポルトガルを合併するや、オランダ船はポルトガルの港に寄航することを禁止されたので、從來オランダが行つてゐた東洋貿易の中繼は非常な打撃を受けるに至つた。是に於てオランダ人自らが東洋への航路を開拓しなければならなくなつたから、オランダ政府は一五九五年、コルネリウス・ホウトマンを首領とする四隻の遠征隊を組織して之を東洋に派遣したのであつたが、是れはオランダ船がジャバ西

和蘭遠征隊

部のバンタムに到着した初めてであつた。次で、一五九八年には、ファン・ネック提督が一艦隊を率ゐて第二回の遠征を試みたのである。

和蘭東印度  
會社

斯くて一五九七年、コルネリウス・ホウトマンがオランダに歸還するや、東印度に至る航路が開拓され、俄然オランダの東洋貿易は盛んになつて來た。是に於てオランダ政府は各個人の激烈な競争を抑へ、また當時オランダと戦争中であつたスペイン及ポルトガル人並に英國人に對する防禦の必要等から、各商社を聯合せしめて資本金六百五十萬ギルダーを有する有力な特許會社を設立して、一切の東洋貿易に當らしめることとした。之は一六〇二年のことである。此の特許會社は爾來約二百年に互つて東印度の統治に權力を振つた有名な東印度會社である。

斯くしてオランダ人は東印度諸島に於ける貿易を開拓したのであつたが、オランダ人がジャバに來航するのに對してジャバ其の他の島民の迫害もあり、更にオランダ人より先に渡來してゐたポルトガル人の妨害等もあつて、種々な事件が起つたのである。

一六〇一年にはポルトガル人がバンタムを封鎖してオランダ人を驅逐しようとして企てたが、ウォルフ・ハルメンスの率ゆる五隻のオランダ艦隊が、三十隻から成るポルトガルの大艦隊を撃破し、これを救つてオランダの武名を擧げた事件もあり、また、一六一九年には、東印度會社の船長ヤン・ピータースゾーン・クンが反對にジャガトラから英國人を驅逐してバタヴィアを占領したこともあり、一六二二年にはアムボイナに於て英國人の大虐殺が行はれ、英國人の勢力は甚だしく衰へたが、更に一六四一年には、オランダ軍はポルトガル人の根據地たるマラッカを占領して、ポルトガル人を全部驅逐し、なほ翌四二年、オランダ海軍が太平洋に於けるスペイン海軍の根據地たるサン・サルバ

アムボイナ  
の大虐殺

ドル及び臺灣の基隆を占領するに及んで、ポルトガル及スペイン人の勢力は全く一掃せられ、茲に東印度の通商は完全にオランダ人の手に歸するに至つた。

**東印度會社時代** 一六〇二年東印度會社が設立されるや、翌三年にはジャバ島のバンタムに東印度會社の居住地が設けられ、オランダ人はバンタムを中心として附近の各地及び他の各島嶼に對して航海を行ひ、貿易を擴める事に努力し、一六〇九年には東印度會社とバンタム王との間に條約を結んで、バンタム人がポルトガル人やスペイン人その他の敵から攻撃を受けた時には援助することとし、其の代償としてオランダ人はバンタムに於て居住の自由及び租税を免ぜられること、並にポルトガル、スペイン其の他外國人に對しては、バンタムの各都市に居住を禁止することを約束させ、専らオランダ人の勢力扶植を計つたのであつた。

更に一六一〇年にはジャガトラとも條約を結び、その領内に於ける貿易並に居住の自由を得たが、この條約が結ばれると同時に、オランダ政府は東印度會社初代の總督としてピエータ・ボートをバンタムに送つた。

一六一三年には東印度會社の書記長兼商館長としてヤン・ピータースゾーン・クンが任命されてバンタムに到着した。クンは後に總督に成つたが、バンタム及ジャガトラ兩國の抗争に乗じて巧みに兩國を操縦し、オランダ人の勢力を擴張した。また一六一八年より一九年に互る兩國の戦争が起るや、クンは十七隻のオランダ艦隊を率ゐてジャガトラを陥れ、次でバンタムを降服せしめ、遂にジャバに於けるオランダの覇權を築いたのであつた。此の戦争に於てジャガトラの要塞を死守したオランダ人の功績を傳へる爲めに、昔オランダに住んでゐた民族の名に因んでバタヴィヤと命名した。之が現在の蘭印の首都バタヴィア市である。

クン書記長  
の活躍

斯くて此のバタヴィアを根據として東印度會社の事業は著々と進められたが、豫てバタヴィア攻略を企て、ゝゐたジヤバ中央部の強國マタラムは、一六二八年及び二九年の二回に互つてバタヴィアを攻撃したが、何れも失敗に歸し、以來つひにオランダ人排撃を斷念し、一六四六年には相互援助を約して和睦し、平和關係を結んだのであつた。またバンタムも一六五九年には媾和條約を結び、茲にオランダ人發展の基礎が定まつたのである。

以來、東印度會社を中心として政治工作が進められ、一七四九年にはマタラム國は、ジョヤカルタ及スラカルタの二個の土侯國に分割され、一七五二年にはバンタムも亦バタヴィアの保護領となつてしまつた。

斯やうにオランダ人の勢力が擴大するに伴ひ、東印度會社も土民をも統治することが必要となつて來たが、會社は直接土民を統治する政策を採らず、土民諸侯を通じて之を行ふといふ巧妙な政策を採り、漸次ジャバに於ける統治の實權を握つたのである。

#### エバターフシ 共和國

東印度會社の統治は十七世紀から十八世紀に互つて約二百年の間續いた。然るに、一七九五年フランスに於ける大革命の餘波を受けてオランダにも革命が起り、バターフシ共和国が樹立され、フランス軍がアムステルダムに侵入し、オランダ國王のウィリヤム五世は英國に難を避けるに至つたので、英國はオランダを援けてバターフシ革命政府に對して戦端を開いた。此の時ウィリヤム五世は東印度に於ける最高行政權を英國の支配下に置く文書に署名したのであつたが（これはケウの文書と稱せられる）、東印度會社は此の署名を認めることを拒絶したので、バターフシ革命政府は東印度會社一切の權利を剝奪し、東印度會社に代へて東印度貿易及び領土事務委員會を設けた。斯くて一七九九年東印度會社の特許期限が満了となるや、革命政府は東印度會社の社員をバターフシ共和国の官吏に任じ、

#### ケウの文書

東印度の統治もアジア領土評議會直轄の下に置き、東印度の統治は名實共にバターフシ革命政府の手に歸し、東印度會社時代は茲に終末を告げたのである。

#### 約アミアン條

英國の占領と其の返還以後 英國はウィリヤム五世によつて東印度の最高行政權を委託されたが、一八〇二年バターフシ革命政府とアミアン條約を結んで、セイロン島を除く舊オランダ植民地一切をバターフシ共和国に返還したが、一八〇六年オランダ王國が樹立せられ、ナポレオンの弟ルキ・ボナバルトが國王に封ぜらるゝや、英國艦隊は翌七年バダヴィアを攻略したが、次で一八一〇年オランダがフランス帝國に合併されるに及んで、英國は翌一一年ジヤバ全土を占領し、ラッフルスを總督に任命し東印度の統治に當らしめた。

#### 約ロンドン條

斯くて爾來四年に互つて東印度諸島は英國の統治下にあつたが、一八一四年のウキン會議の結果、オランダはフランスの羈絆を脱し、ネーデルランド王國として復興するに至つたので、英國は東印度をオランダに返還すべきロンドン條約を結び、一六年に至り東印度諸島の殆んど全部が再びオランダの手に戻つたのである。尙ほ一八二四年には、英蘭間に東印度に於ける兩國貿易の自由を保障すると共に、兩國の屬領地を他國に讓渡しないこと、及び將來何れか一方の國が其の領土權を放棄する場合には、他の一國は之に干渉することを得るといふ約束をした。

東印度の統治は、バターフシ共和国の時代、一八〇八年に總督に任命されたデンデルスは、本國政府が干渉する餘裕の無かつたのを好機として、大いに統治の刷新を行ひ、ジャバ島を九行政區域に分ち、バタヴィアに中央政府を置き、奴隸及び土人の生活改善・保健施設の改良・通貨の統制・郵便道路の開設等を行ひ、大いに中央集權を計り官紀を振肅すると共に、諸施設を完備充實せしめ、更に防備軍を編成し、海軍根據地を建設する等、その施政上見るべ



きものがあつたが、次で、英國占領の四年間に於て、統治に當つたラッフルス英領印度副總督は、從來のオランダ時代の土民に對する強制制度を改革し、自由耕作及び商業を許可する等劃期的改革を行つた。

東印度諸島が英國より再びオランダに返還されるや、オランダ政府は三人の執行委員をバタヴィアに派遣して統治に當らしめたのであつた。此の委員はラッフルスの政策を踏襲して、自由主義的政策を採用しやうと試みたけれども、一八一九年カベレンが總督に任命されるや、再び反動政策を採るに至り、これより十九世紀の前期を通じて所謂オランダ政府の農業國營時代を現出し、強制栽培制度によつて土民を酷使し、東印度諸島から苛酷な搾取を行つたのである。

## 農業國營時代

然るに、一八四八年のフランス二月革命の結果、歐洲に於ける自由主義の勃興となり、オランダ國王ウィルヘルム二世は列國の情勢に鑑みて、自由主義に基く憲法の改正を行ふに至つたので、こゝにオランダの植民政策にも根本的な一大變革を見るに至り、一八五四年には東印度統治令が發布され、所謂、倫理主義に基く植民政策が採用されたのであつた。即ち、トウイスト（一八五一—一六）、バッド（一八五六—一六）、ペーレ（一八六一—一六）等、各總督によつて漸次強制栽培制度が廢止されて自由主義的改革が行はれ、農業並に貿易の自由解放が實施されて來たものではあつたが、然かし、その政策本質に於ては、依然として本國の利益を第一とし、植民地は母國の爲に存在するといふ方針には變りがなかつた。

一九〇〇年及び一九〇二年に全ジャバに互る大旱魃が起り、全島民が非常な飢餓と傳染病とに襲はれ、オランダの植民政策に對する深刻なる怨嗟が勃發するや、流石にオランダ政府も事態を憂慮し、一九〇三年には土民疲弊調査會

を設立して、土民の社會經濟状態、特にジャバの富力減退の原因を調査し、其の改善策の研究に著手した等の事實によつて、如何にオランダ本國の搾取が苛酷であつたかを想像することが出来る。

斯くて、一九〇三年自治法が制定され、一九一八年國民議會が開かれ、その統治上に大いに改善進歩を見るに至つたが、一方に於て土民の自覺と、歐洲大戰の結果たる民族自主思想の刺戟等によつて、國民運動の擡頭を見るに至り、最近に於てはオランダ統治の前途にも、大なる不安が齎されつゝあるものと見られてゐる。

## 日蘭會商

**日本と蘭印** 最近に於ける日本との關係は、日本品の目覺ましき進出に對して、蘭印政府は一九二八年頃から輸入關稅を昂めて之を抑へんとする政策を執り、一九三一年及び三二年に關稅を引き上げ、更に三三年には割宛制度を實施せんとする強硬な態度に出たので、翌三四年に日蘭會商が開かれた。此會議は半年に及ぶも遂に妥協を見るに至らず、會商は一度決裂したのであつたが、その後も交渉が繼續せられ、迂餘曲折を経て三六年に至り、漸く海運問題に關する兩國當業者の協定が成立し、それを契機として漸次交渉が進行し、三七年辛うじて暫定取極めが成立した。

蘭印に於ける在留日本人の大部分はジャバに於て商業及び農業に従事してゐるのであるが、滿洲事變以來、支那商人の日本品排斥や、日本に對するオランダ人の恐怖等からして、烈しい排斥や壓迫を受け、その事業も大きな打撃を受けたのである。

然かし、最近に於てはジャバ以外に、セレベス島のメナド、アルー島のドボを根據地として邦人の漁業が漸次活躍を見つゝあり、また、ボルネオやニュー・ギニアに於ても其の開拓に非常な努力を試みて居り、將來の發展が期待されてゐる。

## 蘭印の地位

而して支那事變が起るや、オランダ及び蘭印政府は、日本の政策を誤解し、理由なき恐怖を抱き、日本に對して門戸を閉封するのみならず、英米等の勢力を頼み日本を牽制しようとする傾向が窺はれるのである。

更に第二次歐洲大戰が勃發するや、オランダ本國は英獨兩強國の間に介在して、非常な不安の地位に直面するに至つたのであるが、ドイツがデンマーク及ノルウェーに進出して、更にオランダ本國を占領するに及び、俄然蘭印の地位が全世界の問題となるに至つたのである。

## 二、地誌

**各島誌** 現在の蘭領印度の中心はジャバ及マヅラに在り、この二島は既に充分開發せられて居り、人口も四千二百万に近く、極めて稠密で既に飽和點に達して居る狀況であるが、この二島を除けば、スマトラ、セレベス及ボルネオの一部が開發せられつゝあるに過ぎず、ニュー・ギニアに至つては島内の事情すらも未だ明確にされてゐないのである。従つて政治經濟等各般の事情も、大體ジャバ及マヅラを中心として發達して居り、外領各地はそれに從屬してゐるに過ぎない状態にある。

マレイ半島の西側に横はるスマトラ島は、我が本州よりは廣大であるが、人口の密度は一七・四七であり、またボルネオは一層人口の密度少く四・〇二であり、セレベス島は外領中、人口が最も稠密で二二・三九である。

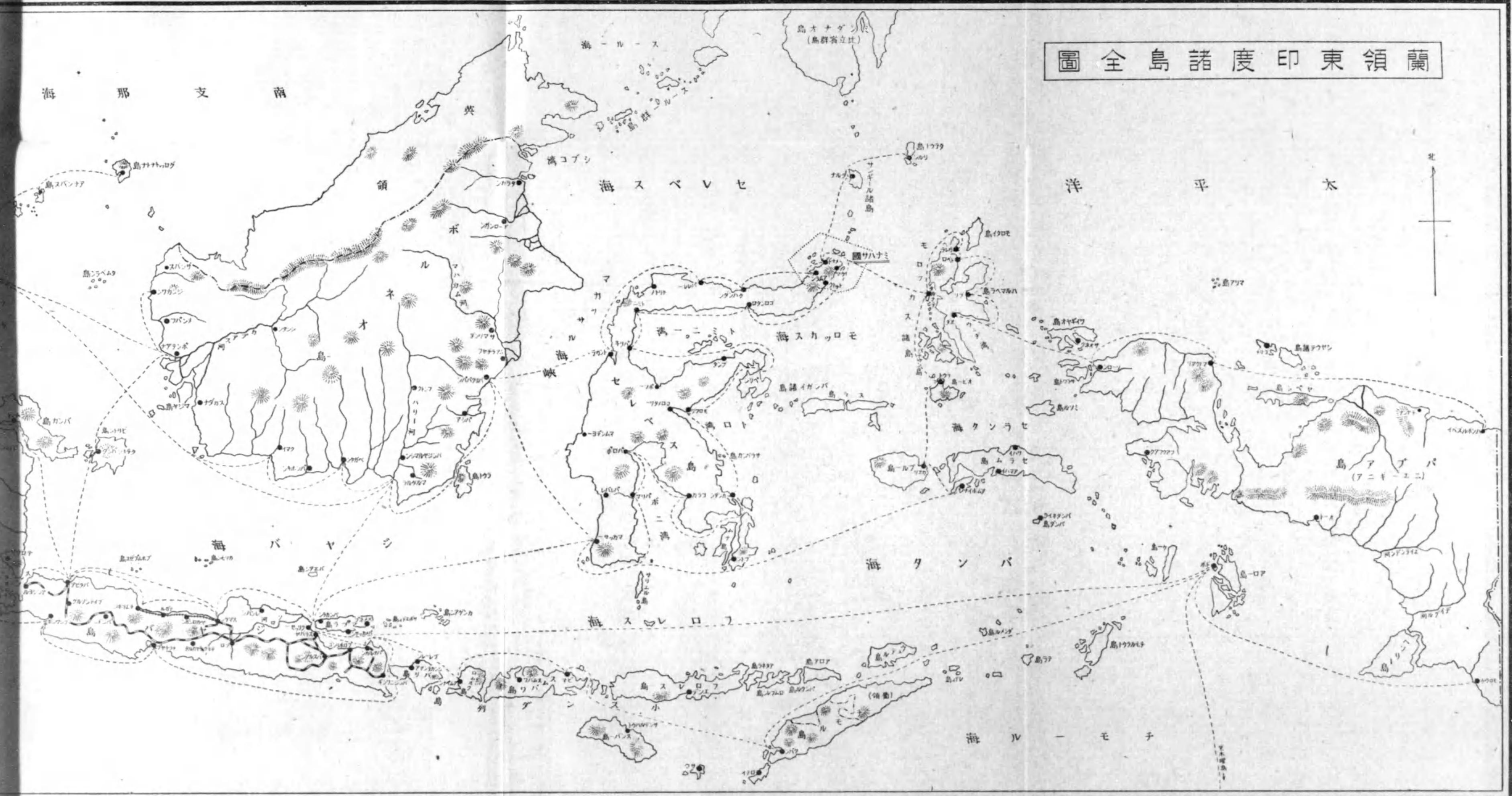
スマトラ及ボルネオは赤道直下に位する爲め、常雨帯に屬し、スマトラの東南部及ボルネオの南部には、豊饒にして廣大なる平野を有して居り、共にゴムの栽培に適し、またスマトラは煙草を多く産する。ボルネオ島に隣接してK

大小スンダ

モルツケン

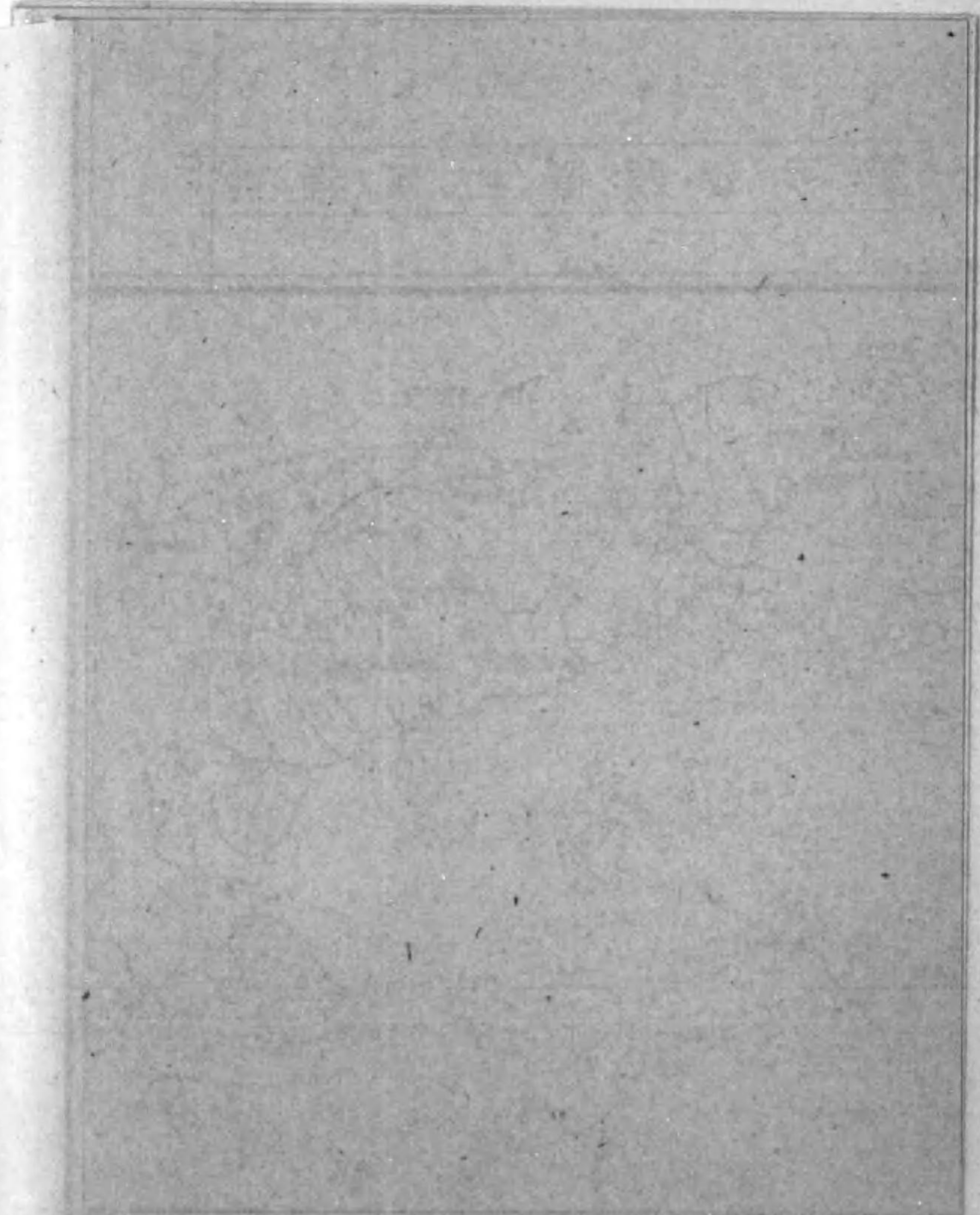
群島

蘭領東印度諸島全圖



スマトラ及ボルネオは赤道直下に位置する爲め、常雨帯に屬し、スマトラの東南部及ボルネオの南部には、豊饒にして廣大なる平野を有して居り、共にゴムの栽培に適し、またスマトラは煙草を多く産する。ボルネオ島に隣接してK





字形をなしたセレベスは特異な地形を有し、コブラ産出が多数に上つて居り、水産にも富んでゐる。ニュー・ギニアは島内の事情が調査されて居らず、或は食人種が棲んで居り、怪獣毒蛇が横行し悪疫の流行する蠻地であると傳へられてゐるが、最近の調査では案外に氣候も良く、怪獣毒蛇も少い適住の地であるとも謂はれて居り、その真相は未だ不明である。併しスマトラ、ボルネオ、セレベス等の諸島と同じく、鑛物等資源の豊富な寶庫であることは略々想像されてゐる。

大小スンダ群島

モルツケン群島

**面積と地形** 蘭印諸島は世界最大の群島と稱せられ、スマトラ、ジャバ、ボルネオ、セレベスを主とする大スンダ群島、バリ、ロムボク、スマバワ、フレエロス、スマバ、チモール、サプー、ロテイ等を含む小スンダ群島、ハルマヘーラ、バチヤン、オピラ、ブールー、セラム、アムボン、スーラ等から成るモルツケン群島及びニュー・ギニア並にその屬島たるアルー、ワイゲオ、サラッテイの四つの群島に屬する諸島嶼から成つてゐる。以上の中にはボルネオ島西北部及びニュー・ギニア東部の英領、並に英國の委任統治領とチモール島東北部のポルトガル領とが含まれてゐる。

是等の諸島嶼は或はインスリンデとも呼ばれ、アジア大陸の東南太平洋の西南部に北緯六度から南緯十一度、赤道の南北に互つて、東經九五度から一四一度にかけて、マレイ半島の西方から濠洲の北部にかけて長く東西に連つてゐる。

蘭領印度に屬する各島嶼の總面積は百九十萬四千三百四十六平方杆で、實にオランダ本國の五十八倍に當つてゐる。主要なる各島嶼並に其の屬島の面積を示せば左の如くである。

ジャバ及マヅラ	(オランダ本國の四倍)	一三三二、一七四平方杆
スマトラ	(同)	四七三、六〇六
ボルネオ	(同)	五三九、四六〇
セレベス	(同)	一八九、〇三五
ニュー・ギニア	(同)	三八二、一四〇

地形は、大略フィリピン群島から西南に進むスルー山系、印度支那から南下して東に走るヒマラヤ山系の支脈たるスンダ山系、及び我が南洋群島に連なるマリアナ山系との交錯によつて、スマトラ、ジャバ、ボルネオ、セレベス諸島の極めて複雑なる地形を形成して居るが、更にそれ等と獨立してバプア山系がニュー・ギニアを通じて東に走つて居り、又スルー及び印度支那山系と並行して、スンダ火山帯及び太平洋西部火山帯が走つて居り、ボルネオ及ニュー・ギニア兩島を除く他は總べて火山系で、スマトラ島に於ては十二、ジャバ島に於ては三十二の活火山が數へられてゐる。従つて山岳も高峰が相當多く、三千米以上のもの二十餘を數へ、特にニュー・ギニアには標高五、〇四〇米のカルステンズ・トップを初め四千米以上の高峰が六つにも及んでゐる。スマトラにもインドアポエラ(三、八〇五米)を初め三千米以上のもの五、ジャバに於てもセメロエ(三、六七六米)以下十一を數へ、其の他バリ、ロムボク等の諸島にも夫々アゴエン、リンジャニ等の高峰がある。

河川湖沼  
平野

河川としてはボルネオに於けるカプアス(延長一、一四三杆)、バリト(延長一、一九七杆)、テイク及スマトラのムジ(五五三杆)ハリ(八〇〇杆)等が大なるものである。また、湖沼も大なるもの少く、平野としてはボルネオ南部とス

山嶽

マトラ東南部以外には大なるものが無く、一般に各島嶼共に山地と高原地帯が多い。  
氣候及び自然 蘭印諸島は赤道の南北六度乃至十一度の熱帯圏内に散在して居る常夏の地であるから、日出及び日没は一年を通じて最大四十八分の差に止まり、年中殆んど變化がない。氣温も四季を通じて變化が少く、海岸地方は大體平均二四乃至二七度で、比較的涼しい。

氣温

氣候は西北にアジア大陸を控へ、南東部は濠洲大陸に連なつてゐるので、この兩大陸の影響を受け、大體に於て期雨と乾燥期との二季に分つことが出来る。地方によつて必ずしも一定してゐないが、十二、一、二月は大體に於て雨量が多く、六、七、八、九月頃は比較的雨量が少く乾燥期と見ることが出来る。

地震

尙ほ、ボルネオとニュー・ギニアを除く他は火山帯に屬して居るので、火山に基因する地震が多く、一八八三年西ジャバに起つた大地震は、世界記録に稀れな大津浪を起し、スンダ海峡に於ける波の高さは十五米にも達したと傳へられ、ジャバ、スマトラ等の海岸地方は此の大津浪の襲來を受けて數百の村落が流失し、甚大な被害であつた。

植物

蘭印の各島嶼は高度の氣温と湿度とに恵まれ、地味また肥沃である爲めに、世界中で植物の種類が最も多くて、且つ之が豊富に繁茂して居る。

動物

即ち、ジャバ西部、スマトラ、ボルネオ、セレベス中部、ハルマヘノラ及ニュー・ギニア等の如く雨量多い地方は、所謂熱帯原始林を以て覆はれて居り、ジャバ東部、マヅラ、ロムボク、バリ、スムバワ、セレベス南部等の地方は比較的乾燥期が長い爲めに常緑の森林が無い。  
植物の種類に於て豊富な蘭印は、また動物に於ても同様であり、しかもアジアと濠洲との兩大陸に介在する諸群島

に存する動物は、この兩大陸の主なる特徴を具へてゐると言はれ、哺乳動物六百五十種、鳥類二千種、爬虫類六百二十四種の多數を數へることが出来る。特に鳥類に於ては珍奇なるもの多く、ニュー・ギニアの極樂鳥・鸚鵡・翡翠等は特に有名である。

人口 蘭印諸島の總人口は一九三〇年の國勢調査によれば、六千七十二萬七千二百三十三人であつて、その中の六八・七%がジャバ及アツラ島に集合して居り、一平方秆當り三一五・六三人の稠密さを示してゐる。又人口の最も稀薄なモルツケンに於ては一平方秆當り一・八〇人を示してゐる。尙ほ、ニュー・ギニアに於ける人口調査は全然不可能で曾て行はれたことがないから、一切不明である。

各島嶼に於ける人口を示せば次の如くである。(單位千人)

ジャバ及マヅラ	四一、七一八	ボルネオ	二、一六八
スマトラ	八、二五四	セレベス	四、二五一

而して全人口の九八%以上(五九、一三八千人)は土民で、その種族は五十以上に及んで居り、その主要なるものはジャバ族(二七、八〇九千人)、マヅラ族(四、三〇六千人)、スンダ族(八、五九五千人)等である。外國人としては支那人が最も多く百二十三萬三千人に達し、オランダ人は二十萬八千人で、その他日本人七千百人、ドイツ人六千九百人、英國人二千四百人、其他各國人五萬九千八百人となつてゐる。支那人は所謂華僑であつて古くから土著して居り、商業上に大きな勢力を有してゐることは注目すべき事實である。更に、職業別に見た人口調査は左の如き數字を示してゐる。(單位千人)

職業別	土民	歐洲人	支那人	其他
農業	一四、一九三	一九	一四五	七
工業	二、一〇五	五	九四	五
商業	一、〇九一	一一	一七二	一九
運輸業	二九一	一一	一三	二
官吏	二七五	二一	三	一
自由職業	二五〇	一一	七	一
其他	一、九五八	六	三六	二

即ち以上の數字によれば、支配的地位に在る歐洲人には官吏が最も多く、次で甘蔗・ゴム・其の他の農業に従事するものであり、土民は其の總數の約七〇%が農業労働者で、工業に従事するものは主として砂糖・ゴム等の農業に附随する工業労働者である。また支那人の商業に従事する者の多いことは、蘭印の商業に於ける支那人の勢力を示してゐる。

都市の人口

尙ほ、各島嶼に於ける主要都市の人口を擧ぐれば次の如くである。(單位千人)

バタヴィア (蘭印の首都)	五三三	バレムバン (スマトラ島)	一〇八
スラバヤ (ジャバ島)	三四一	バンチャルマシム (ボルネオ島首都)	六五
メダン (スマトラ島首都)	七六	マカッサル (セレベス島首都)	八四





てゐる。

**國民運動の勃興** 蘭印は世界の寶庫と謂はれ、オランダ人は三百年來、東印度諸島の土民を巧妙周到なる統治によつて壓迫搾取して來たのであつた。今日のオランダ國民の全部が蘭印に寄食してゐるとさへ謂はれる程である。

然かし、十八世紀の後半時代から、蘭印に歐洲の機械産業の組織が輸入されるに伴つて、經濟上、社會上大なる變化が起り初めた。加ふるに教育の普及に伴れて、一部土民の中には漸く民族的覺醒氣運が擡頭して來たが、恰も、十九世紀末から二十世紀の初めに於ける英領印度に於ける自治運動や、日露戦争、トルコや支那の革命等によつて大いに刺戟され、オランダ人の統治や、土民の生活等に對して大きな反感と不滿とを持つに至り、こゝに蘭印の解放を目標とする國民運動が勃興し來つたのである。更に、歐洲大戰後に於ける民族自決主義の影響は、俄然この國民運動をして、民族運動たる色彩を濃厚ならしめたのであつた。

#### 土民の政治團體

土民の政治團體として組織されたものは、一九〇八年のブデイ・ウトモが最初である。此の團體は最初は土民の教育増進を目的としたものであつたが、忽ちにして非常な進展を遂げ、その運動を次第に政治的に發展して行つた。

次で一九一〇年にはサリカット・イスラムが現はれたが、この團體は土民の經濟的獨立、特に支那人の經濟的勢力に對抗することを目標とし、而かも同教的色彩を帯びてゐたので、一般土民大衆の支持を得て非常な大勢力となつた。尙ほ、一九一二年には東印度の獨立を目的とする急進革命派たるインディアン黨が組織され、國民運動は益々活氣を呈して來た。

斯うした國民運動勃興の情勢を見たオランダ政府は、その激化を緩和する爲に、一九〇五年には自治會を創設して

或る程度の地方自治を認め、且つ一九一八年には、蘭印全大衆の代表機關として、國民議會をバダヴィアに開設したのであつた。

然しながら、この國民議會は純然たる立法機關ではなく、謂はゞ總督の諮問機關に等しい極めて不徹底なものであるから、勿論これを以て土民の政治的要求は満足されなかつた。是に於て土民の政治運動は國民議會の改革といふ目標の下に一段と勢を強めるに至つた。而してそれを緩和する爲に行はれた一九二二年の憲法改正も、これまた極めて不徹底なものであつたから、國民運動は益々擴大され、而かもロシア革命の影響や、コミンテルンの指導や工作が加はつて、ブデイ・ウトモやサリカット・イスラムを初め、其の他の團體にも過激な共產主義的傾向が現はれるに至つた。

#### 革命運動

即ち、一九二二年コミンテルンの指導下にインドネシア協會が設立され、非協力運動を戦術としてインドネシア人の政府を樹立する革命運動が現はれたが、その影響を受けて、一九二三年には知識階級同盟、二四年にはインドネシア研究俱樂部、二七年にはインドネシア國民黨が組織せられる等、蘭印の獨立を目指して活潑な革命運動が展開されるに至つた。勿論、それ等の運動に對してオランダ政廳は強烈な彈壓を試みたから、運動は益々過激となり、遂に一九二六―七年に互つて、ジャバ及スマトラの各地に暴動の勃發を見たのであつた。

斯くて共產主義系に屬する革命運動はオランダ政廳の彈壓によつて壊滅したが、一方、國民主義的運動は益々活潑となり、一九二七年の暴動事件の後、國民主義同盟聯合が成立し、從來のインドネシア國民黨を初め、サリカット・イスラム黨、ブデイ・ウトモ黨、バスタンダン黨、インドネシア研究俱樂部、スマトラ協會等、左右兩派に屬する各地の團體を糾合した強力な統一戦線が出現した。

然かし、この統一戦線は、聯合の内部にサリカット・イスラム黨と他の宗教的中立團體との間に激烈な確執が起り、一九三〇年つひにサリカット・イスラム黨が脱退するに及んで聯合は崩壊するに至つた。

聯合の崩壊後は再び各派の分立となり、ブデイ・ウトモ黨を初め多數の團體が組織されたが、引續いて共產主義運動及び國民運動に對するオランダ政廳の彈壓が強烈を極めつゝある結果として、殆んど其の勢力を失ひ、代つて最近に於ては獨伊の發展に刺戟せられ、ファッシ・的國民運動がオランダ人を中心として勃興しつゝある。而かも、右翼運動勃興の影響として、オランダ政廳をして蘭印に於ける政策に變化を與へ、蘭印とオランダ本國との關係の強化、本國工業品の保護、蘭印領内産業の助長等の保護經濟政策及び蘭印國防の強化等が主張せらるゝに至つたことは注目すべき事實である。

#### 蘭人の政黨

尙ほ、國民議會に於ける活動を目標とするオランダ人の政黨として、經濟黨及び祖國俱樂部がある。土民側の政黨としてはブデイ・ウトモ黨やサリカット・イスラム黨その他が活動してゐるが、國民參議員の多數が當選制度であるために、國民議會に於てはオランダ人の勢力に對抗し得ない情勢にある。

**財政** 蘭印がオランダに取つて如何に貴重な寶庫であつたかは、一八三三年から一八七七年に至る四十五年間に、東印度諸島から本國に送られた金額は、實に八億三千二百萬ギルダーと計算されてゐる事實によつて想像される。

斯やうな状態であるから蘭領印度の財政は至極豊かであつた。然かし、蘭印の經濟は其の原始産物の輸出に依存するものなるが故に、世界の情勢の變化に影響されるところが大である。即ち一九一四年、歐洲大戰の勃發を見るや、俄然物價の昂騰により經費の大膨脹を來たし、歳入不足は年々増加し、大戰後の世界が一應の安定を見た一九二一年

までの間に、累計十億六千四百萬ギルダーの歳入不足を生ずるに至つた。之に對して蘭印政府は毎年公債を以て歳入の不足を補填すると共に、財政の整理節約によつて財政の破綻を防止して來たのであつたが、一九二四年頃からは世界經濟の復興に伴つて、相當なる歳入剩餘を生ずるに至つた。

然るに、再び一九二九年より始まつた世界經濟不況による農産物の輸出不振、價格下落等の爲めに大打撃を受け、爾來、今日まで引續いて歳入不足を來たして居り、非常なる財政困難に直面しつゝある。

蘭印政府の豫算は一九二九年度に於ては、歳出九億四百五十九萬ギルダー、歳入八億四千八百五十三萬ギルダーで、差引不足五千六百六萬ギルダーであり、以來一九三五年まで依然歳入不足を告げて居る。一九三八年度に於ては、歳出五億四千二百六十萬ギルダー、歳入五億二千五百七十萬ギルダーとなつてゐるが、不足は公債によつて補填してゐない。尙ほ、一九三六年度に於ける國債現在高は、十四億六千七百餘萬ギルダーに達してゐる。

#### 豫算

#### 四、軍 備

國防上から見た蘭領印度は極めて微弱である。現在の蘭印の國防は、對内的には治安維持を目的とし、對外的には中立維持を目標とするものであると謂はれてゐるが、これは現在オランダ本國が専ら中立維持を其の對外政策の基調としてゐることに依るものであつて、事實に於て自から蘭印の中立を維持し、領土を防衛すべき實力を備へてゐるものではない。是に於て、世界最大の海軍力を有し、而かも歴史的に關係が深く、且つ現在に於て經濟的に最も緊密な關係にある英國に頼らんとする思想がオランダ人の間には一般化されてゐる。

**陸軍** 總督を長官とし、その下に歩兵・騎兵・砲兵・工兵及び航空兵等を以て組織される士官七千人、兵員二萬九千の極めて微力な陸軍である。而かも、その陸軍兵力の三分の二はジャバ及マヅラ島に集中されて居り、スマトラ、ボルネオ、セレベス其の他の廣大なる外領には約一萬餘の兵力が各地に分駐して居り、全體の防禦用として陸上飛行機約百機を有してゐる。

兵役は義務兵制でオランダ人民のみが其の義務を有してゐる。總督は陸海軍の司令長官を兼任してゐるが、陸軍に關しては領内に於ける一切の軍事的最高指揮權を有してゐるに止まる。

**海軍** 蘭印海軍は本國海軍の一部を成し、直接本國の命を承けてゐる。

和蘭政府は近年世界情勢の緊迫に鑑み、切りに蘭印防備の強化に狂奔して居り、殊に航空機・輕快艦艇並に局地防備の整備に努め、更に二六、五〇〇噸型の巡洋戰艦二隻・巡洋艦三隻・嚮導驅逐艦二隻・驅逐艦十二隻・潜水艦十八隻・大型水上機七十餘機を含む建艦案の實現を期して居るが、昭和十五年一月に於ける蘭印配備の海軍兵力は概ね左の通りである。

巡洋艦	三隻	驅逐艦	九隻	潜水艦	十五隻	海防艦	二隻
敷設艦	五隻	掃海艇	八隻	水雷艇	三隻	測量艦	二隻
練習艦	一隻	計	四十八隻				

(註) 右の外戦時海軍用として使用すべき政府所屬船十數隻がある。  
海軍航空機は左の通りである。

水上機 (雷撃兼爆撃)

四〇

飛行艇

四二

同 (偵察兼爆撃)

三〇

又各都市には鋭意防空施設を實施中である。

### 五、産業及び貿易

蘭領印度は其の地理的事情に恵まれて居り、熱帯農業に於ては世界第一と稱せられ、耕作面積はジャバのみにて千三百萬ヘクタールに達してゐる。特にジャバ島は其の高原地に於ては規那・茶・珈琲等を初め野菜・花卉類の栽培に適し、丘陵地帯から低地にかけては米・玉蜀黍・タバコ・落花生・煙草・ゴム・甘蔗・胡椒・大豆・甘薯・椰子・カボック・果實など頗る多種のものが栽培されてゐるが、更に、スマトラ、ボルネオ等の外領島嶼に於てはゴム・ココ椰子・油椰子等が栽培されてゐる。

従つて、蘭印の農産物としては、砂糖・ゴム・茶・珈琲・煙草・ココ椰子・規那等が有名であり、その輸出は世界貿易の上に、極めて重大な地位を占めてゐる。即ち、世界への物資供給に於て蘭印は、規那九九%、煙草五〇%、コブラ二〇%に達して居り、ゴムに至つては全世界の需要に對して充分供給出來ると計算されてゐる。

次に礦産物に於ても其の種類は極めて豊富であり、且つ其の埋藏量も非常に多量であるが、主としてボルネオ、スマトラ、セレベス、ニュー・ギニア等の外領諸島に埋藏されてゐる爲めに、交通の不便、勞働力の不足等の理由から何れも未だ開發されるに至らないものが多い。

礦産物

礦物資源として今日までに発見されてゐるものは、錫・石油・石炭・ダイヤモンド・金・銀・マンガン・硫黄・燐・沃素・ウォルファラム・アスファルト・ボーキサイト・鐵・鉛・亞鉛等頗る多種であり、而かも錫は世界第三位の産額を有し、全世界需要の二〇%を供給して居り、石油の産出では世界の第六位を占め、一一%を供給してゐる。鑛業は今日に於て農業に次ぐ重要な産業であるが、其の開拓の將來性を考慮するならば、正に蘭印に於ける最も重要な産業であると謂ひ得るのである。而かも、石油を初め重要な資源の開発が、英米等の投資によるものであることは注目すべき事實である。

錫はスマトラ島の東岸に沿うて點在するバンカ、ピリトン、シンケブの三島から産出し石油はスマトラ島のバレンバン、アーチャー、ジャンビ、ジャバ島のスマラン附近、ボルネオ島の東海岸サンクリラン地方及びタラカン島を主とし、其の他各地に於て産出する。また石炭はスマトラ及ボルネオを主とし、金及び銀はスマトラ、ダイヤモンドはボルネオ、マンガン及び硫黄はジャバ、アスファルト及び燐礦はセレベス、ウォルファラムはピリトン及バンカ、ボーキサイトはピンタン島を主産地とする。尙ほスマトラに於ける豊富なる鐵・鉛・亞鉛及びボルネオ、セレベスの鐵等は未だ開發せらるゝに至つてゐない。

熱帯原始林に覆はれてゐる蘭印各島嶼は、林産に富んで居り、チーク其の他の木材及び竹・籐・ダマル、コバル等も多量に産出する。ジャバ島に於けるチーク林は全部官有林となつて居り、その面積は八十萬ヘクタール以上に及びその他の保護林は總計三百萬ヘクタールに達すると發表されてゐる。なほ外領各島嶼の森林は僅に海岸地方の一小部分が開發されてゐるに過ぎないのであるから、蘭印の林業も非常に將來性を有してゐる。

林産物

主要生産額

工業は最近發達を見つゝあるが、未だ極めて微々たるものである。然かし農業に附屬せる砂糖・茶・ゴム・珈琲・タバコ・纖維等の工業は相當盛んであり、また石油精製工業も勃興を見つゝある。其の他セメント・麥酒・製紙・製氷・酒精・塗料・石鹼・ココナツ油・ビスケット等の工業もあるが、これ等は何れも歐洲人の經營に屬するものである。一九三六年の調査によれば工場數總計五千七百餘、その中三千八百がジャバ及マツラに在る。

蘭印の物産は主として輸出されるものであるが、主要物産の生産額は次の如くである。(單位千疋)

ゴム	二四四	砂	糖	一、四一四	茶	七四
コーヒー	六二	規	那	一〇	椰子油	一九〇
米	七七	玉蜀黍	二〇	タビオカ	八〇	
錫	三九、七三九	石炭	一、三七二	石油	七、二六二	
金	一、七五三	銀	一五、五五五	アスファルト	二、一九九	
ボーキサイト	一九八、九七〇	マンガン鐵	八、四九三	硫黄	一一、四〇〇	
木材	二八五 (千立方米、内チーク材 一五四千立方米)					

貿易

蘭印の貿易は勿論年々輸出超過を續けてゐるも、一九三八年度は輸出六億六千五百萬ギルダ、輸入四億八千五百萬ギルダ、差引輸出超過一億七千九百萬ギルダに達してゐる。

輸出の國別に於てはオランダ本國向けが第一位を占め一億三千萬ギルダに達して居り、次はシンガポールの一億八百萬、米國の八千九百萬、濠洲及びニュー・ジラランドの三千五百萬、英國の三千四百萬、ドイツ二千三百萬、日本二千百萬等で、總計に於ては英國及びその屬領向けが最高を占めてゐる。

また輸入に於ては日本よりの一億五千三百萬ギルダが第一位を占め、オランダの二億六百萬を凌駕してゐる。其の他ドイツの四千八百萬、英國の三千八百萬、シンガポールよりの三千六百萬、英領印度及ビルマの七千百萬、漢洲及びニュー・ジールランドの千三百萬等で、輸入に於ても英國及び其の屬領の總計が最高を占めてゐる。

貿易の品種別に就て輸出品に於ては、ゴムの二億九千八百萬ギルダを最高とし、石油の一億六千六百萬、椰子油等の一億四百萬、錫等の八千五百萬、砂糖五千百萬、茶四千九百萬、煙草三千四百萬、胡椒其の他三千七百萬、珈琲二千六百萬等で、金銀も一千萬以上に達してゐる。また、輸入品の主なるものは、棉糸布の一億五千七百萬ギルダを最高とし、食料品の七千七百萬、金屬製品六千三百萬、機械類五千七百萬、化學品・藥品・染料等の四千四百萬、自動車及び部分品二千七百萬、紙及び製品一千八百萬等である。

### 六、交通及び通信

#### 陸運

蘭印に初めて鐵道が敷設されたのは一八七三年である。これはジャバのバタヴィアからスマランに至る鐵道で、一八六二年に特許權を得て設立した蘭印鐵道會社によつて敷設された。續いて同七三年にバタヴィアとポイテンゾル間の鐵道を開通した。

現在の蘭印に於ける鐵道の總延長は七千四百九十九杆で、ジャバ及マヅラに五千四百九十九杆、スマトラに千九百六十三杆、セレベスに四十七杆となつて居り、官營線四線、民營會社線十三線を數へてゐる。

斯くの如く鐵道の發達は主としてジャバに集中されて居り、また道路もジャバに於ては、國道の延長八千二百杆に

#### 海運

達し、その中約四千杆が舗装され、殆んど完成してゐるが、外領に於てはスマトラ及セレベスの一部を除けば極めて貧弱であり、ボルネオ及ニューギニアに於ては全く河川を以て奥地との唯一の交通路としてゐる状態である。然し一九二五年の好景氣時代以來、自動車の發達が著しく、ジャバは勿論、外領の山間僻地に於ても相當普及してゐる。

蘭印が多數の島嶼から成つてゐる關係上、海運は極めて重要な地位を占めて居り、昔から發達して居る。今日ではオランダ政府は統治政策の上から、重要航路を命令航路とし、カー・ペー・エム汽船會社(K・P・M)をして領内航路を獨占せしめ莫大な補助を與へてゐる。この航路はスラバヤ、マカッサル及シンガポールを起點として領内各島到る所に連絡し總數六十四線に達して居り、その中で三十二線が命令航路である。K・P・Mは九十四隻の汽船と三十五隻のモーター船(合計七十八萬三千餘噸)を有してゐる。

尚ほ河川その他の内、水路はK・P・Mの他に支那人や土民によつて經營されてゐる小型汽船、或はモーターボートによつて水運が行はれてゐる。また、蘭印領外との外國航路はK・P・Mの他に、ジャバ支那日本汽船會社(J・C・J・L)によつて行はれて居り、特にオランダ本國との航路はロッテルダム・ロイド及ネーデルランドの二汽船會社船によつて行はれてゐる。

#### 航空

航空路は、一九二八年にオランダ王國航空會社の姉妹會社たる蘭領印度航空會社がアムステルダムに設立され、蘭印政府援助の下に、蘭印領域内の航空事業を獨占して今日に至つて居り、蘭印領内の航空路はバタヴィア・リバンドン間の他三線が毎日一回乃至一週一回の定期飛行を行つてゐる。また、蘭印と本國とを連絡する航空路も、一九三〇年以來、オランダ王國航空會社によつて開設されてゐる。

郵便

郵便制度は一八〇八年以來實施され、電信電話共に總て官營である。最近では無線電信の發達により、各島嶼との通信連絡が頗る良好となり、無電局もニュー・ギニアに至るまで各島嶼到るところに設けられ、今日では數十局を數へてゐる。また、ラヂオも、蘭領印度ラヂオ放送會社によつて殆んど獨占經營されて居り放送局も三十に近い。

## 第九章 葡萄牙領各地

### 第一節 チモール

#### 一、沿革

蘭人の進出

地理的技術的條件と統一的主權とが逸早く結合した葡西兩國は陸地發見時代の先驅者となつた。西曆一四九八年ヴァスコ・ダガマの印度航路發見に亞いで、アルフォンソ・デ・アルブケルクは一五一〇年ゴアを收め、翌年マラッカに據つて馬來群島を略した。十字軍の宗教的理想を擔ふ是等遠征隊に隨伴したフランシスカン派僧侶中、アルフォンソ・タベイラは一五一五年葡人として最初の足跡をチモールに印した。其の後小スندگان葡國植民地はチモール島大部、ソロール島、アドナラ・フロレス兩島の一部に互り、フロレス島ランツカを中心としたが一五八〇年葡西合併するや、後者と交戦中の和蘭はマラッカを奪ひ、後八年無敵艦隊の覆滅せる結果、一六四〇年再び獨立した葡萄牙は最早昔日の植民帝國たるを得なかつた。一六六一年葡政府・和蘭東印度會社間の協定はソロール群島竝に一六一九年以來葡人の居住するクーバンを除いたチモール島に對しチモール政府の管轄權を認め、一六六七年同政府の中心はチモール島リファウに移轉、更に一七六九年デリーに移つた。此の間葡國僧侶はチモール土人の部族鬭争に乗じ、能く全島の統治と確保に成功したが、一七〇一年葡領印度太守派遣の初代總督アントニオ・ゲレイロ・コエーリヨは

監督教父から行政権を接收し正式に葡國版圖に加へた。一七四九年クーバンは蘭領となり、又一八一八年蘭人はアタプを占據し、葡國は一八二〇年正式に之を承認した。後ち葡蘭兩國は馬來群島に於ける國境確定の要を認め、八年の曲折を経て一八五九年リスボン條約を締結し略々現在の境界を決定したが、後ち紛議を生じ一九〇四年の葡蘭條約、一九一四年の仲裁々判を経て漸く確定した。

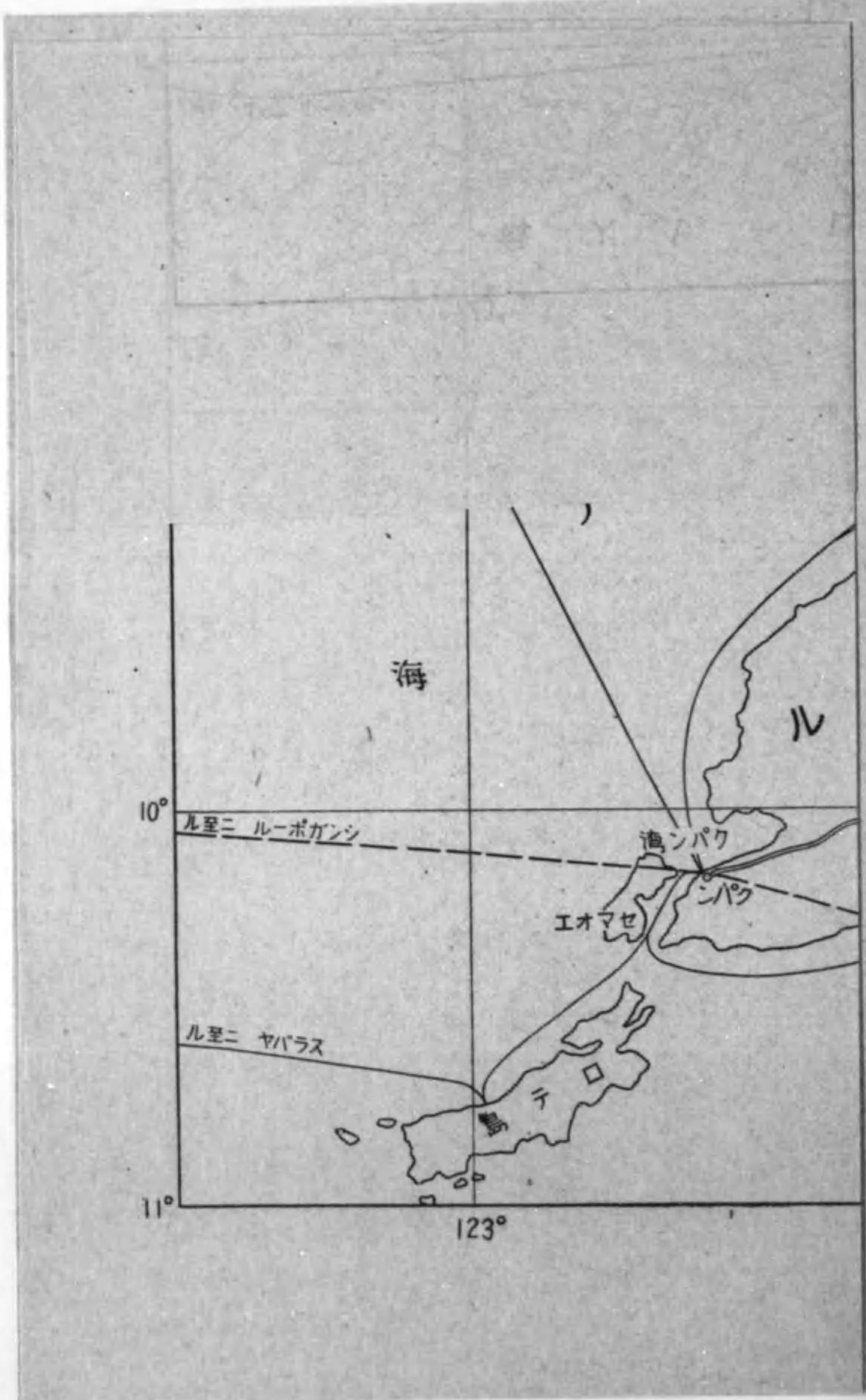
十九世紀中葉迄は政府對僧侶・土民の確執あり、又後半以後は不平軍人の指導で一九一二年迄屢々大反亂を見たが、其の間一八六四年葡領印度から分離、澳門總督の隸下に入り一八九四年から一九〇六年迄在任したジ・ゼ・セレスティノ・ダ・シルヴァ總督は順撫・施政改善・殖産獎勵に努力して今日の基礎を固め、次代の總督フィロメーノ・ダ・カマールは在任六年中に同植民地の生産を倍加した。一八九六年澳門から分離して自治植民地となり、一九二六年之を承認された。一九三四年には軍政を廢止した。

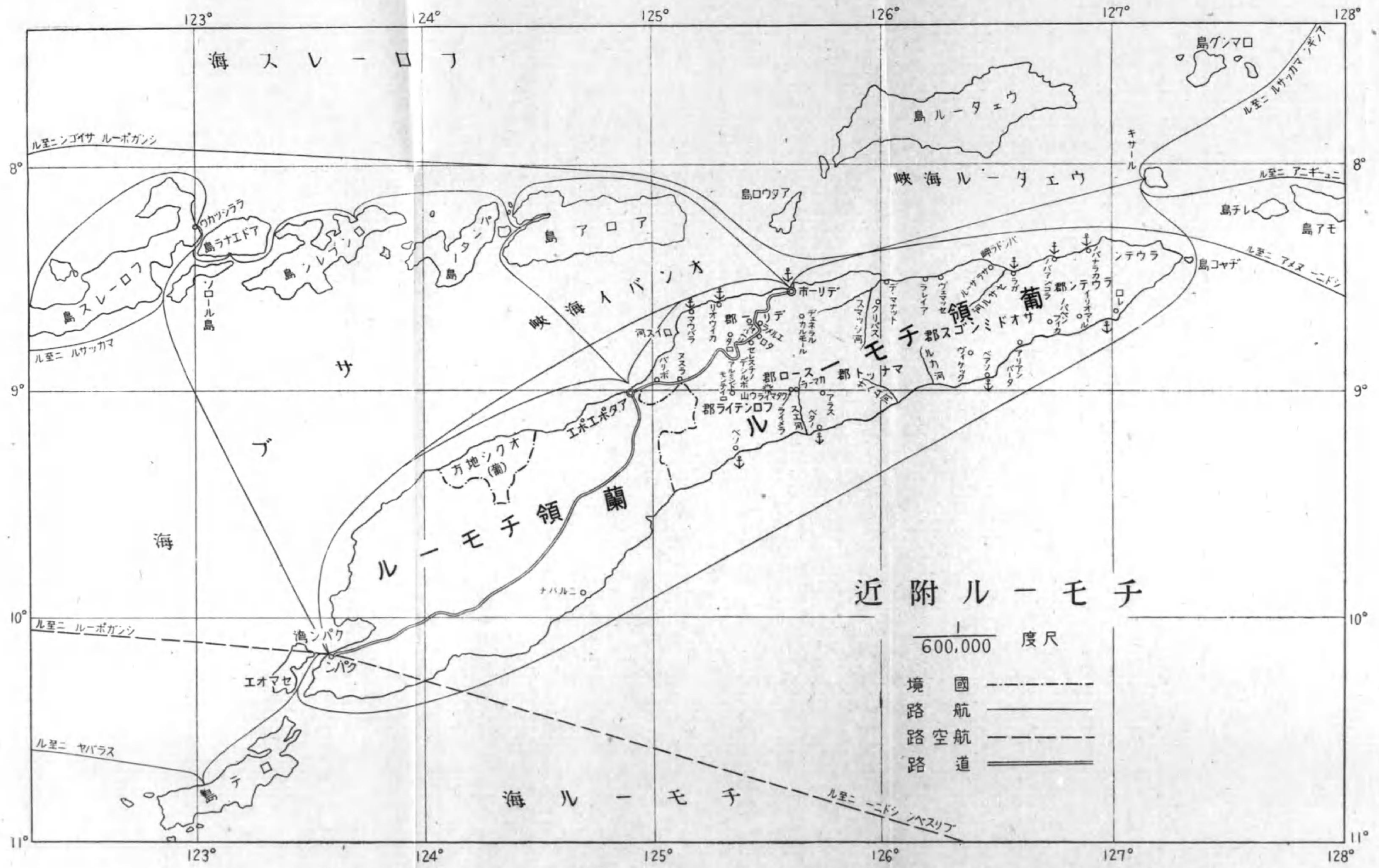
### 二、地誌

チモール島は小スンダ列島中最大にして其の東端を占め東印度諸島中最南に位する。北はサバ海・オンバイ海峡・ウェタール海峡に臨み、南はチモール海に面する。長さ四七〇杆、最大幅一〇〇杆、總面積三〇、二九五方杆で、略ぼ我が九州に等しく、葡蘭兩國に分屬し、葡領チモール植民地は面積一八、九八九方杆、大約四國と同面積で次の諸地方から成る。

- 一、チモール本島東半部及び東端チャコ島

地方區分

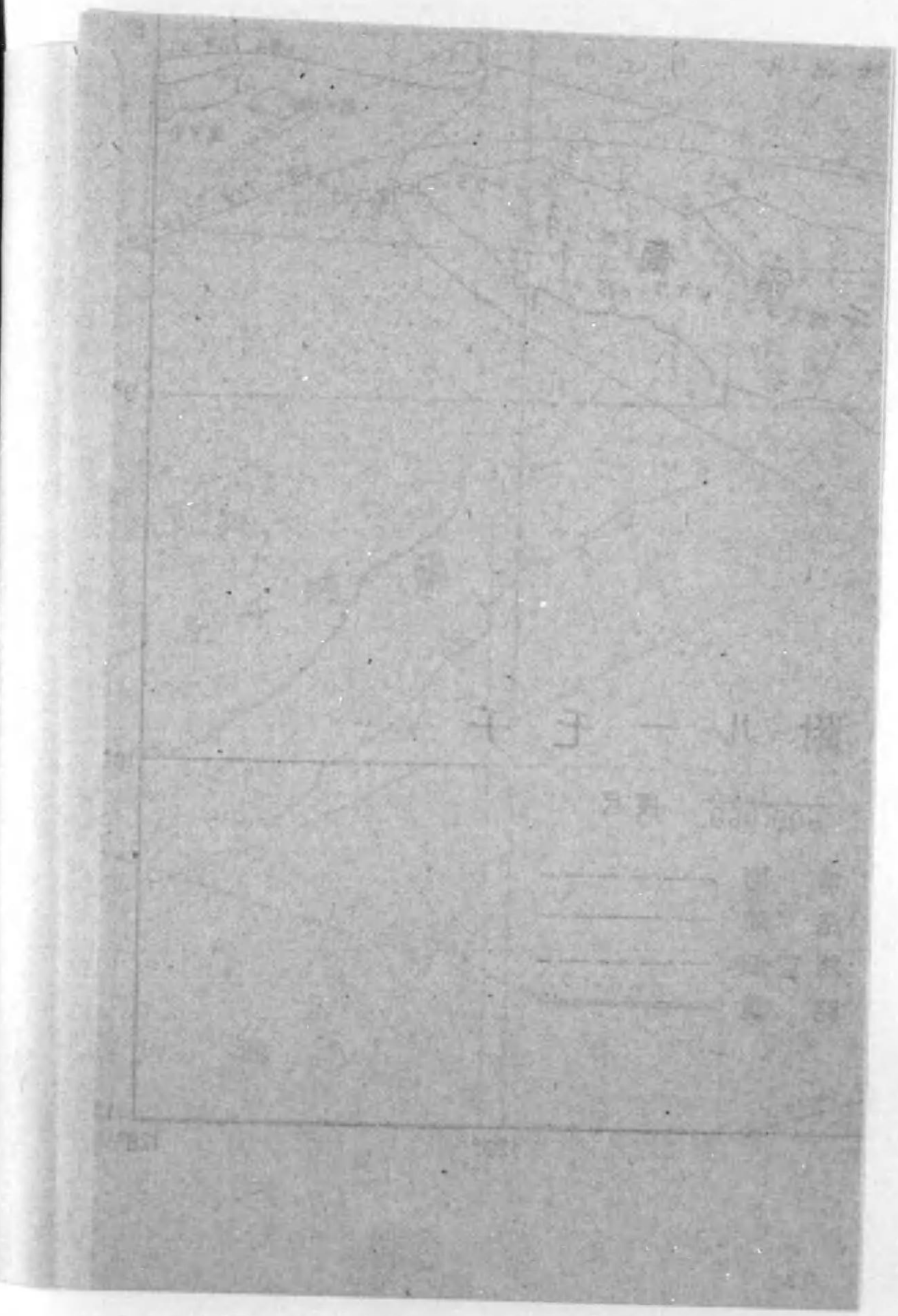




地方区分 一、チモール本島東半部及び東端チヤコ島

大抵四國と同面積で次の諸





東經一二四度五七分乃至一二七度二分、南緯八度一九分乃至九度二七分、長さ二七〇杆、最大幅七五杆、面積一七、九九五方杆。

二、蘭領に嵌入せるオクシ地方

東經一二四度二分乃至二九分、南緯九度一〇分乃至三〇分、長さ五〇杆、最大幅三〇杆、面積八五〇方杆。

三、アタウロ島(別名プロ・カンビン)

東經一二五度三〇分乃至三八分、南緯八度八分乃至一一分、長さ二十杆、最大幅十杆、面積約一四四方杆。

地質

チモール島は地質學上チモール・セラム弧又は東部セレベス・チモール地帯と稱する特殊地帯に屬し、二疊紀以前は大陸塊の一部をなしたものと推測されるが、石炭紀末紀から第三紀にかけて激烈な火山活動を伴ふ地殻變動を被り、複雑な地質構造を有するに至つた。葡領チモールに發達する地層を大別すれば左の通り。

年代不明の地層	結晶片岩類(イ)、千枚岩、硬質頁岩及砂岩の互層(ロ)	北西部、(イ)デリー附近、(ロ)フアツペン附近
二疊紀乃至中生層	石灰岩及び砂岩を挾有する頁岩	右以外の各地に廣く露出す
第三紀層	石灰岩(イ)、砂質頁岩及び砂の互層(ロ)	(イ)バウカウ地方、(ロ)ツィケケ地方、東端地方
第四紀層	珊瑚礁(イ)、砂岩礫岩(ロ)	(イ)海岸地方、(ロ)河成段丘
火成岩類	閃綠岩類、斑綫岩類	

チモールは古生物學上特殊の地域で二疊紀化石の多くは他に産せざる種類であり、他の地層も豊富な化石を含む。

地形上の四地帯

チモール島はバング海諸島を含む地震帯に屬し、人體に感ずるものも年數回起り、各種温泉に富む。葡領チモールは地形上次の四地帯に分たれる。

**北西部地方** 結晶片岩類、變成火成岩類より成り、北海岸に竝行する數條の山脈は平均高度八百米、急峻な青年期地形を示し率然として海に入る。雨期以外流水なきV字形河谷、標式的扇狀地、狭小な海岸平野、急峻な斜面、殊に北面せる斜面に於て屢々見る沙漠的地貌及び露出岩層等の特徴とする。

**中央分水界地方** 中生代の地層より成り、極めて明確な分水山脈を特徴とする。其の複雑な支脈の或るものは分水山脈よりも大なる高度を有する。最高點はラメラウ山稜のタタ・マイ・ラウ山(二九二〇米)である。北西部に比し一層水蝕が進んでゐる。恐らく岩層の性質と雨量の大なるに基くものと思はれる。例外的地形はヌヌラ平原によつて他と隔てられてゐる平均高度六〇〇米のバリボー高原である。

**東部地方** 南海岸地方を除きレイア(北岸)サヘム(南岸)兩河以東の地域で、(イ)細長、山頂平坦、斜面急峻なる硬質石灰岩塊が、風化せる周圍の柔軟な頁岩層から殘存して突兀と聳えるファツ地形、(ロ)高度五〇〇米前後で屢々カルスト地形を示す高原、(ハ)青年期に屬する火成岩地形を特徴とする。

**南海岸地方** 高度小なる丘陵が海に向つて傾斜し、其の間に盆地と典型的氾濫原を擁する。河川は廣く擴流し海岸の沼澤又は砂礫地に至つて消滅する。

葡領チモール島の氣候は概して卓越風に支配され、五月以後は濠洲・チモール海方面から南東風が吹くが、七月から十月迄は乾燥風であり、他の期間には其の水分を中央山脈南東面に注いで南海岸を濕潤ならしめる。十一月卓越風

氣候

は西又は南西に變じ、南印度洋から大雨を運び來つて中央山脈の兩側に大體等分に注ぐ。斯くして同島は氣候上四地帯に分つ事が出来る。

氣候地帯	年降水量(時)	雨期	年平均氣温(華氏)	地 域	景觀的特徵
暑熱乾燥地帯	二〇—四〇	十二月—四月	八〇度以上	北海岸地方	疏林多く雨期の他沙漠的、製鹽行はる
暑熱濕潤地帯	六五—一一〇	十一月—七月	七五度	南海岸地方	多濕高温「馬來式」景觀を有す
溫和地帯	五五—一一〇	十月—七月	七〇度以下	石灰岩高原 海拔一、三〇〇米迄の山地	温和多濕、北面は南面に比し植物發育不良
寒冷地帯	一三〇前後	雨量各月平均		海拔一、三〇〇米以上の山地	三、〇〇〇米に達するラメラウ山稜最高點迄

備考 十五ヶ所に於て七年乃至十六年の氣象統計が作られてゐるが必ずしも信を措き難く、且附近小地域にのみ妥當する數字なるが故、農業上の一般的結論を導き出す事は不可能である。尙ほ日蔭に於ける最高氣温の記録は北海岸リキサー一〇六度F(一九二三年十一月五日)、南海岸ウイケケ一〇五度F(一九三〇年一月二六日)、又南北兩海岸の氣候的差違を示すものとして北海岸マナット及び南海岸ウイケケの年平均氣温較差夫々一〇度五F及び二〇度七F、降水量四三吋及び八六吋を擧げる事が出来る、(一九三一年)

住民

住民は土人と外來人に分かれ、其の現状次の通りである。

**土人** 總數約百萬中、葡領に於て四五六、七二三、一方杆當二四・二で、外來人を合し總人口四六〇、五八八(一九三六年調査、チモール政府の發表)あり、バプア、濠洲土人に近く、又ドラヴィダ族の血を混ずる。瘦身、偏平胸、便腹膚色暗赤褐色乃至煤黑色、長頭、波狀毛乃至縮毛を普遍的な形態的特徴とする。酷暑酷寒には驚くべき抵抗力を示

すが、肉體的精力と衛生知識に缺如せる爲め、傳染病・皮膚病等蔓延してゐる。別表は嬰兒死亡率の大なる事と早老とを想像せしめる。デリー附近及び東部には馬來人との混血が見られる。

土人の年齢別人口表 (1927)

土人の年齢別人口	男						女						各分區百分比
	6萬	5萬	4萬	3萬	2萬	1萬	1萬	2萬	3萬	4萬	5萬	6萬	
1—10	57820						47197						23.3%
11—20	48575						38812						18.8
21—30	54062						44285						21.8
31—40	39568						38289						17.2
41—50	24097						23967						10.7
51—60	12041						11963						5.5
61—70	5408						5188						2.8
71以上	1511						1504						0.8
													57.8% (労働人口)

インドネシア系統の多數の方言を有し、最も有力なテツン(テト)を葡語と共に公用語としてゐるが、文字を有せず教育普及せず、旅行の自由なき爲め充分其の用をなさぬ。一般に部落を形成せず樹上生活を営むものもある。玉蜀

黍水稻其の他自家食料の原始的耕作に従ひ、普通裸足でタイ(サロン)を纏ふ。嘗て超絶的權力を有した世襲土王、世襲酋長も今日は警察権を委任された政府機關となり、之と庶民との間には政府の創設した非世襲頭目がある。海岸地方及び山間の屯所附近には舊教行はれ、回教も相當の勢力を有するが、奥地には猶ほ原始宗教が行はれてゐる。

葡政府の土人行政は抑壓的ならずとするも助長的とは言ひ難い。彼等の教育は教會經營の十數校に委せられ、殆んど全部が文盲である。繼續的殖産政策等は問題外で、直接土人行政に携はる下士官級屯所長の主要任務は秩序維持、人頭税徴収及び強制労働の監督である。屯所の多くは反亂に備へて堡壘の中に置いてある。

人頭税は成年男子の賃銀所得者に對し、總督府税一弗(一弗一圓五錢)那税五弗を徴し、其の他の成年男子は前者六弗、後五弗である。一九三五年に終る十ヶ年間の政府歳入中、人頭税は四六%強、大部分土人に轉稼される關稅が二六%強を占めた。併し所謂賃銀所得者は恐らく土人人口の二%を超えず、他は「補助努力」と呼ばれ人頭税未納の場合、一年に一ヶ月の強制労働に服する。其の組織は非人道的非經濟的で、土人の収益力と潜在的な能力とを奪奪し、一切の開發事業に致命的影響を與へるものであるが、葡國政府は自己が植民地開發により、最大の恩恵を被る事を諒解三省すべきであらう。

斯かる實狀にある爲め、必要勞力の獲得は屯所長に依頼すれば足りる。法定賃銀は一ヶ月男子三弗、婦女子は其れ以下で別に支給する食料を加へ、男子四弗半、女子三弗、少年二弗見當である。土民は一般に従順なるも鈍重羸弱で智能も極めて低く、簡単な農具の使用にも監督を要する爲め、責任ある作業は混血人の手に委ねられてゐる。大規模開發には熟練労働者の輸入を考慮すべきである。雇傭主は土人勞力に對し施療義務を有し、將來政府が集團的勞力の

人頭税

衛生監督を行ふ場合、其の費用を負担する事とならう。

外來人（一九三六年調査）人數等左の如し。

外來人

歐洲人 五一〇、内葡國人約四九〇、官吏・農園主・商人・僧侶・流刑者等で他は英・蘭人等。

支那人 印度人、亞刺比亞人二、五八七、支那人は廣西華僑を主とし何れも商人。

黑人 一五八、モサンビック出身兵卒。

混血人 六一〇、下級官吏・農園・商店・従業員。

邦人 昭和十五年三月現在、男七、女三、孰れも南洋興發株式會社關係者である。

（附記）デリー市は人口二千、唯一の開港場で、こゝに總督府・官立小病院・無線電信所がある。

### 三、政治及び財政

組織

組織 チモール植民地統治法は葡萄牙共和國憲法（一九三三年二月發布）、同植民帝國憲章（同年一月發布）、海外植民地改革法（同上）、チモール植民地令（一九三三年九月發布）を根本とする。少佐又は大尉の總督の下に、内務・財務・司法・國防・海務の諸部を有し、諮問機關には植民地政府評議會及び之と技術評議會との聯合會議がある。チモール植民地を總督府所在地たるデリー市<sup>コンキスタ</sup>と五郡<sup>サント・ドミンゴス、マナツト、フロンテイラ、スーロ、サン・ペドロ</sup>に分ち、前者は市參事會、後者は郡長<sup>アルファレンス</sup>の管理とする。

デリー市	首邑 デリー	一、二四四 <sup>カサ</sup>	アタウロ島を含む
フロンテイラ郡	首邑 ヴイラ・アルミンド・モンテイロ (舊名 ボボナロ)	四、〇五〇	オクシ地方を含む
スーロ郡	首邑 ヴイラ・ヂェネラル・カルモーナ (舊名 アイレウ)	三、七〇〇	
マナツト郡	首邑 ヴイラ・ヂ・マナツト	三、八四五	
サン・ドミンゴス郡	首邑 ヴイラ・サラザール (舊名 バウカウ)	三、五五〇	
ラウテン郡	首邑 ヴイラ・ノヴァ・マラカ (舊名 ラウテン)	二、六〇〇	ジャコ島を含む

政策

チモール植民地維持政策 サラザール獨裁首相の演説に明かな通り、組合國家組織による自給自足的植民帝國の再

興を目指す葡萄牙は、同時に現状維持的國際政策を主張する。チモール植民地に於ても此の意味で注目すべきは次の三法令で孰れも一九三七年後半以後の發布に係り、同一の政治的動機に出づるものと推察される。

(イ) 外國人の葡國植民地所在不動産に對する物權・債權の取得又は不動産所有會社への参加に關する大統領令（一九三七年一〇月發布一二月改訂）及び之に基く總督令（同年一二月施行）

右の場合植民大臣の許可を要する事とし、チモール植民地のみ施行した。

(ロ) 沿岸貿易に關する總督令（一九三八年一月發布）葡國植民地沿岸航海條例は葡國資本が總資本の三分の一に過ぎざる葡法人にも沿岸貿易を許容してゐるが、チモールでは之を官營とした、但しK・P・Mの例外がある。  
(後述参照)

(ハ) 外國人入國取締令(總督令、一九三七年一月發布)從來は入國税其他三百弗で足りたところ、新に許可制とし且つ入國税百弗、保證金二十磅、歸國旅費の積立及び獨立企業者には、最低五千弗の銀行預金を必要とするに至つた。

以上に關聯して注意すべきは葡萄牙が二重の意味で、英帝國に從屬してゐる事である。即ち海軍力なくして本國に十二倍する植民地を維持する上に於て、竝に本國の地理的位置が英本國の安全に重大な關係を有し、其の植民地殊にチモールが英帝國連絡交通路の重要部分を形成する意味に於て、一八九九年のソリスベリー、デ・ソペラール祕密協定は一六四二年以來の同盟關係を確認し、英國に對し「葡萄牙に屬する一切の征服地・植民地の保護防衛」を義務づけてゐる。

後述の通り、礦物資源は潜在的價値を有するに過ぎず、又農業資源に見るべきものなき眇たるチモール植民地が、殊更に注目される所以も、此の地理的位置と其れが來る可き西太平洋及び南洋の國際政治上の大變動に於て演ず可き役割とに關心を寄せられてゐるからに外ならない。

財政

歳入・歳出・植民地債等次の通りである。  
歳入 租税としては收入課税に一般産業税・土人頭税・所有課税に地租・流通課税に登録税、又以上に關する二次的課税があり(以上直接税)、支出課税に關税がある(以上間接税)此の外、特許料・手数料・罰金・官業・官有財産收入が主たる財源である。一九二四乃至一九三三年度の統計によれば、擔稅者を土人とする人頭税が四六・三%を占め、大部分が土人に轉嫁される關税は二六・三%に上る。結局土人の負擔する國費は全體の七〇%に達すべく、葡

チモール政府歳入

年 度	金 額(單位:バタカ)
一九三〇	一、二一六、七七一
三一	一、六六三、三五六
三二	一、四〇一、三五七
三三	一、三三六、六〇〇
三四	一、三四六、六〇三
三五	二、〇一四、二〇九
三六	一、三五八、九八〇
三七	一、七六四、〇九七
三八	二、〇七一、九七二

國の對植民地政策思ふべきである。最近は九年間の歳入額は上表の通り。  
歳出 會計年度が重複し一九三四年度の如きは、決算年度を一八ヶ月と定めて一九三五年十二月末日を以て締切つてゐる爲め明確には知り難いが一九三四年度以後は大體に於て均衡を保つてゐるやうである。主なる費目を挙げれば、内務部經費約三割、國防部經費一割五分乃至二割、農務部經費及び恩給費各一割五分等である。

植民地債 一九三五年に於ける本國に對する債務は三九、四〇二、〇〇〇エスタドに達する。(本國貨一バタカ七エスタドと定む)

通貨 初め盾貨を通貨としたが、後ち澳門植民地に屬した爲め、一八八〇年以來同地と共通の弗貨を採用し、現在之が唯一の法貨で「海外植民地銀行」チモール支店が紙幣發行權を有して居る。弗貨は金屬本位制を採らず、發券銀行の保有する外國爲替・内國債及び外債・銀貨・預金並に擔保附割引手形によつて保證される地方的貨幣であつて、植民地内の必要に應じてのみ發行され、それ自體外國爲替とは關係がない。

然かし國際商取引及び植民地政府財政上の必要に基く國際決済の爲め、便宜上弗貨を香港弗と同價値に裁定し、其の建値を後者の變動に從つて上下し、且對外決済の手段として一九三三年、後述する爲替基金を設定した。時價約一圓〇五錢である(一圓二一志二片として)。

通貨

鑄貨としては主として廣東省から輸入された二十仙銀貨、一仙銅貨が廣く流通してゐる。其の輸入額は九十萬バタカ以上と推定されるが、現在の流通額は六十萬バタカを超えぬ。メキシコ弗（銀バタカ）も輸入されたが購買力に比し、品位高き爲め實際には流通してゐない。

紙幣には一弗・五弗・十弗・二十弗・百弗等の種類があり、一九三六年に於ける流通高約七十萬弗である。  
度量衡 メートル法による農産物の重量單位として、一般に用ひられるピクルは六二匁と公定されてゐる。

#### 四、軍 備

一九三六年に於ける駐屯軍は歩兵二中隊・騎兵一中隊・機關銃隊一隊（以上黑人）・砲兵一隊（葡人）・將校七・兵三六八（内黑人二九八）であり、海上武力は備へて居ない。

#### 五、産 業

##### 鑛業

鑛物資源 頁岩、砂岩、石灰岩など建築用石材に富む外、石灰も亦埋藏されてゐるが炭脈の繼續を期待する能はず、炭質も劣つて居る。方鉛鑛・銅鑛・滿俺鑛・湖鹽も存在するがマナツ、西方蛇紋岩中のクローム鑛は相當の商業的價値を有する。就中注目すべきは

金 中央分水界の南斜面マヌフアイ地方に豊富な埋藏量が豫想される。砂金はスエ河、南ラクロ河、クレール河床の表層から土人が原始的方法で採集してゐる、而も金粒粗大である。

石油 油兆地は南海岸各地、マタピア地方、サヘム河上流等にあるが、南海岸アリアンバータ附近、サヘム河上流等が有望で、クリバス地方は興味ある地質構造を有する。孰れも三疊紀石灰岩・砂岩及び頁岩層より成り、滲出油のポメ度も四二度前後である。

鑛業に関する法制 葡領チモール鑛業法は一九〇六年、同九年、同十三年の諸法令より成り、石油採掘に関する特別法は一九二七年六月に制定された。（同三五年、同三六年改正）

開發の現状 現在稼行してゐる唯一の鑛山は南海岸ノヴァ・ペンフィカの滿俺鑛で、純分九〇％を超える良鑛であるが埋藏量少なく採掘技術も幼稚である。石油に就ては今世紀初め以來、幾度か企業化が試みられたが資金の不足、土民の叛亂等の爲め成功せず、最近葡濠合辦のコンパニー・ウルトラマリナー・デ・ペトロロスが東經一二五度五〇分以東の石油採掘權を得たと傳へられるが、競願者たる白耳義資本其の他との關係で紛争を生じてゐるとも言はれ、歐洲戰亂の關係もあつて早急の稼行は期待されない。

##### 牧畜、動物

牧畜業 代表的動物は土人の畏怖する野牛の他、野豚・鹿・大蝙蝠・鷹・鸚鵡・鸚哥・鳩・藪雞等である。小形蛇類は比較的稀なるも、高地の岩場には錦蛇多く其の或るものは二五呎に達する。海龜・鱒は主に南海岸に棲息する。家畜中矮馬は葡人來島當時既に利用されてゐたが非在來種と推測される。身長一二ハンド（一ハンド約四吋）を超ゆるもの稀なるも、急坂・隘路に於ける運輸機關として貴重される。推定頭數七萬五千。土人の重要財産なる豚は十二萬三千頭、水牛は十二萬七千頭、他に土人の放牧する山羊十四萬七千、羊四萬八千と推定され、畜牛は約千五百頭である。

## 林業

**林業** 葡領チモールに於ける在來種、殊に廣く分布する二種の材木は北濠洲型である。即ち河床の礫地及び九百米以下の山腹に見る「トキハギキヤウ」屬及び北海岸丘陵地では矮小だが南海岸では相當生長する「ユーカリ」屬これであり、孰れも架橋材料に用ひられる。山岳地方の一部及び南海岸には「薔薇樹」その他の有用硬材を含む相當面積の混合林があるが利用價值は少ない。市場價值を有する木材は南海岸ロレ近傍の官有林にのみ産し、現地で製材の上K・P・M社船でデリー又はヴィラ・サラザールに積送する。南海岸の土壤と氣候とはチーク樹の栽培に適し既に試植の成功を見てゐる。南海岸開發計畫の一部として考慮する價值がある。他に白檀木及び二種の竹があるが、前者は濫伐の結果一九二八年伐採を禁止された。

## 農業

**農産物分布** 葡領チモールは農業上三地帯に分たれる。

(イ) 東部及び北部の乾燥不毛地帯 典型的な有棘植物類、矮小な叢林に蔽はれ農耕に適しない。殊に北海岸中部以東は石灰質底土の極端な透水性に基き灌溉も不能である。西寄りのロイス河下流平野は灌溉により米・棉花の栽培可能なるも洪水の危険がある。

(ロ) 中央山岳地帯 七千七百方杆を下らず、チモール珈琲の大部分を産する。沃土に富む相當面積の平野はエルメラ近傍グラノ河谷、チェネラルカルモーナ平野のみ。南東及び南西の卓越風を遮る北面の河谷は珈琲栽培に利用される。北西部山脈がロイス盆地に向つて低くなるファツベシ、タロ兩斜面と其の中間丘陵地は高度九百乃至千五百米で、北又は北西に面しチモール最良の褐色丘陵土壌に蓋はれ、湧水も豊富で自然的植物分布も他地方に勝る。理想的なアラビカ珈琲栽培地で若干下つた地域はカ、オ、護謨、ロブスター珈琲、武夷茶等の栽培に適してゐる。

〔備考〕 此の沃土帯は後述する二個の農事會社が獨占する(次の二項「農業資源」参照)

右の他この廣大な地帯は土人の粗放な自家食料栽培に委せられてゐるが、此の火田式耕作は森林伐採を伴はぬ爲め弊害は少ない。

(ハ) 南海岸中央部高原 多雨で植物の種類多く馬來式景觀を有し、中央山脈南側山麓丘陵の森林地帯と海とに挟まれた隆起平原は大規模農業開發に適する可耕地を擁する。殊にイラベレ河西方平野は長さ一一二杆、幅平均一一杆、廣袤千三百方杆、高度二百五十米程度の波狀丘陵が區劃する海拔六十乃至百五十米の草原より成り、九箇の河流と無数の細流が之を横切る。

背後の山脈に發し平原に出て俄かに緩流する是等の河流は淺く廣い礫質の河床を形成して、草叢又はトキハギキヤウ屬の純粹群落を擁するに對し、平原に發する細流は相交錯して深く狭く河底に礫を有せず、常綠樹や竹を兩岸に密生せしめて自然の灌溉組織を成す。平原を畫する丘陵は石灰質で點綴する小面積のローム質土壌のみが土人の輪作に利用される。海岸から一、二杆迄の新隆起地は礫質で平原に散在する鐵礫土小丘と共に利用出来ない。

併し南海岸平原を通じ適度の組成を有する粘土質又はローム質土壌と厚い腐植土とを有し、未耕作の儘放置された黒色又は暗褐色の表土が相當の深度に達しアラス附近では二米に及ぶ。土壤の厚さが丘陵地及び河流から最も遠い所に於て最大であるのは、洪水により漂移された沖積土中最良の部分が淺濁又は海岸濕地に其の有機物碎片と共に堆積せるものと考へられる。但し是等平原は比較的最近に隆起した爲め、未だ森林に蔽はれた事なく一年生草木が繁茂してゐる。

## 肥沃の地

織手のルザイサ



子女ルーモチる織をルザイサ

農業資源  
(イ) 土人生産物(玉蜀黍、米) 土人の主食物たる玉蜀黍の生産は島内需要を充たす程度で一人當消費量から年産約二百萬擔と推算される。米は至る所で栽培されてゐるが常食物ではない。併し初めは輸入労働者の主食物として、後には之を模倣する土著人も含めた食糧として將來重視すべきである。米・玉蜀黍の適地は南海岸に多い。

珈琲・煙草に就ては後述する。

サイザル麻はマウバラ、デリー附近にも産するが、南海岸丘陵地の排水良き斜面が之に適してゐる。其他、大豆・蔬菜・果實等をも産する。

(ロ) 農園栽培物及び將來性あるもの 珈琲は十八世紀に輸入され、最近五十年間に廣く栽培されるに至つたチモール島の代表的物産であり、其の香氣を以て名高い。産額は一九三一年の輸出量二、四三八噸を峠として漸減し、現在は年産千五百噸前後である。其の九割を占めるアラビカ珈琲は七百

將來性ある農産物

S、A、P、Tの試作

別選の珈琲るけ於にルーモテ



第一節 チモール

五十米以上、ロブスター及びリベリア種は六百米以下の地に生育する。上述最適地を占めるS・A・P・T(愛國勤勞)は、ファツベシ、タロ農園から全産量の一五%、コンバーニヤ・デ・チモール其の他の農園から五%を産し、他は土人の栽培に係はる。生産技術に改良の餘地が多い。一部日本、歐洲向の他、大部分マカッサル市場に積み出される。護謨、カカオ 共にS・A・P・Tの試作によれば非常に良質のものを産し、少量乍ら輸出される。護謨は南海岸平原東部、カ、オは西部にその適地がある。

コブラは年産一萬二千擔の大部分はサンオ・ドミンゴス、ラウテン兩郡の北海岸、竝に南海岸のロレ、ヴィケケ、ヴィラ・デ・カマラ地方から産する。凡てサン・ドレイで栽培法は改良を要する。將來南海岸平原が有望である。

煙草はアラス、バリポーを主産地とし土人の需要を充たしてゐるが、品種劣悪、技術も幼稚である。アラス、ルカ



地方で優良種を適良な方法で耕作すれば有望である。

棉花はヴィケケ政府農場のジョランゴ種試作の結果はストリクト・ミドリング級の良質棉を得た。自然的條件、勞力の低廉等を考慮するにアラス、アリアンバータ間の草原に於ける棉作はチモール農業開發上最も期待すべき企業である。

カミン（主産地ヴィラ・サラザール背後の丘陵）、カポック（各地殊に南海岸丘陵地に産す）、マニラ麻（ライメラ産）、油椰子（ベアソ産）等に關しても發展の餘地がある。

農業に關する法制

チモール土地租借法（一九二四年）によれば、葡本國政府は二萬五千ヘクター、總督は二千五百ヘクター迄の土地租借權を許與する權限を有し、又甘蔗、煙草、棉花の新規栽培には七年間農業税を免除する（一九二七年九月の總督令）。一九三四年三月總督令による永租借料左の通りである。

五〇〇ヘクター以上	高級栽培物農園	下級栽培物農園	牧草地
以下	每ヘクター 二・〇〇弗 〇・五〇	每ヘクター 一・〇〇弗 〇・五〇	每ヘクター 〇・五〇弗 〇・二〇

- 一、二分の一を耕作したる時は租借料五分の一を減じ、二十年を経たる時は完全なる管理權を獲得する。又舊租借地の二分の一を耕作せる時は新永租借をなし得。
- 二、永租借出願に必要な費用は出願者の負擔とし、又耕作義務履行の保證としてヘクター當り一〇弗を政府に供託し、耕作の進行に従ひ返還を受ける。

租借料

農業關係關稅

一、農業地租借者に對する輸入免稅品 肥料・化學製品・農業用機械器具・麻袋・籠・種苗・建築材料・石炭・コックス等。

二、輸出税（一九三七年二月施行）

- 從價 一%（コブラ、カミン實、カボック等）
- 同 二%（棉花、其他ノ纖維植物等）
- 同 八%（護謨、カ、オ）
- 同 一五%（白檀、蜜蠟）
- 從量（每疋）（アラビカ珈琲〇・二三弗、ロブスター珈琲〇・二二弗）

但し特殊の算定法による爲め關稅額は事實上甚だ多くなる。尙ほ護謨、カカオ、茶、米の新規栽培には十年間、他の一定の栽培物には五年間免稅する。

開發の現狀

開發の現狀 一般的農業恐慌のほか高關稅と爲替管理とが、該地方の農業開發を阻害してゐる事は否めない。嘗て南海岸で農園經營を目論んだ者もあつたが資金難から失敗し、今日では日葡合辦のS・A・P・T以外見る可きものがない。

即ち昭和十一年夏、南洋興發株式會社（社長松江春次氏）は、同島代表的商社ソシエタデ・アグリコラ・パトリア・エ・トラバリーヨ・リミターダ（略稱S・A・P・T）と貿易業に關し提携したが、翌十二年九月同社に對する南

洋興發會社の加入及び増資の形式で、葡領チモールの一般的開發を目的とする合辦會社に改めた。

〔備考〕 S・A・P・Tは本國資本の誘引に失敗したシルヴァ總督が同族を糾合して一八九九年に設立したもので、葡萄牙の利益の爲にチモールの經濟的開發を試みた總督の意圖は、此の「愛國勤勞農事會社」といふ社名にも現はれてゐる。

然るに此の合辦は葡國植民地確保政策と之に利害關係を有する第三國の安全感に衝擊を與へたものゝ如く、上述した一聯の法令が發布され、之に基いて一應其の成立を否認されたが、曲折の末、始めより成立せる事を承認せしめた上、葡政府の希望により南洋興發會社の持株を四割とし、且つ葡政府代表として「海外植民地銀行」を加へ、昭和十四年十月改組登記を完了した。現在はチモール最良の沃地に一萬六千町歩の珈琲・護謨・カカオ農園及び獨占的勢力を占める貿易業の經營に従事してゐる。資本金總額百八十九萬弗である。我が國のチモールに對する基礎的利權で、今後日葡共存共榮の趣旨に基き各方面に對する發展が期待されてゐる。

〔備考〕 本章中の「地誌」「政治」「貿易」「交通」の項參照。

## 六、貿易

### 島内配給組織

島内に於ける配給組織は次の通りであり、殆んど華僑の勢力下に在ると言つてよい。

#### 輸入品

卸賣商業、砂糖・酒精・葡萄酒・ガソリン等はS・A・P・Tの獨占到屬し、高級雜貨も葡蘭兩國商人の壓倒的支配下にあるが、綿絲・綿織物・絹織物・低級雜貨に於ては華僑の勢力も相當大きい。

小賣商業、葡商の獨占品と高級雜貨とは直接小賣されるが、其の他に於ては華僑の勢力が壓倒的で、葡蘭商の各地に於ける代理店も全部華僑經營である。

#### 輸出品（農園生産物を除く）

輸出業者たる葡蘭商人は其の取扱商品を直接買付ける外、華僑が仲介商人として大きな役割を演じてゐる。

蔬菜、果實等、島内向の物産並に低級雜貨の一部は重要地に於て日曜毎に開かれるバザールに於て取引される。要之、葡領チモールに於ける華僑は小賣商人仲買商人として、或る程度の勢力を有するに過ぎない。

現在輸出される國際商品は珈琲・コブラ等、單一化された熱帶農産物の少量で、其の八割はマカッサル市場に依存してゐる。他には僅少の白檀・蜜蠟・護謨等である。輸入品は全部消費財で土人用綿布・石油類・酒精・葡萄酒・小麦粉・雜貨類を主とし、六割は日本製雜貨・綿布であるが、積出地は七割迄蘭印であり、一割五分を占める砂糖・葡萄酒は特惠關稅の關係で、本國及びモザンビークから輸入される。

一九三八年の輸出中、九十七萬三千弗はS・A・P・Tが取扱ひ、内二十四萬五千弗は日本向であつた。又同年同社の輸入額は石油・砂糖・葡萄酒等の獨占品十四萬五千弗、對日取引額八萬六千弗を含み四十八萬五千弗であつた。

但し貿易統計に於ける輸入額はデリー沖著値段、輸出額は課稅標準として定められた市場價格を遙かに下廻る名目價格を以て示されてゐる爲め、實際は統計の示す以上に順調であると見ねばならぬが、我國の如き至近の位置にある工業國にして熱帶資源の需要大なる國との通商關係を密にする事は、チモール植民地の繁榮上、一層望ましい事である。併し此の點に於て、上述農業關係輸出税が實際上高率なると共に遺憾なのは、同じく特殊の算定方法に基く輸入

高率税

税の異常に大なる事である。最近に至りダンピング税を設けた。尙ほ過去數ヶ年の輸出入貿易額は左の通りである。

年次	輸出	輸入	差引
一九三二—一九三五年平均	九七三、九二六、〇〇〇	七四七、九三七、〇〇〇	出超 二二五、五八九、〇〇〇
一九三六年	一、〇六三、五八二、〇〇〇	四八〇、七四九、〇〇〇	出超 五八二、八三三、〇〇〇
一九三七年	七二九、〇四二、〇〇〇	九二三、〇四二、〇〇〇	入超 一九四、〇〇〇、〇〇〇
一九三八年	推定 一、一七二、七八八、〇〇〇	七八四、七八二、〇〇〇	出超 三〇八、〇〇六、〇〇〇

〔備考〕 爲替管理施行一九三三年十一月。

**爲替管理** 以上の如き統計上の事由を考慮するとしても、一九三二—三三年に激化した工業生産品と農業生産品との鉄状態格差は、純熱帯農業植民地として深刻な影響を被るべき条件を具備した葡領チモールに對し、幾多の經濟的・財政的變動を與へた事はいなめない。是に於て一九三三年十一月總督令を以て爲替管理を行ひ、輸入並に貿易外支拂の制限を通じて植民地經濟の保護を計り、併せて國際決済の手段たる外貨の確保とバタカ貨の島内流通力補強とを企てた。其の内容を要約せば左の通りである。

(イ) 貿易に於ては各取引國を個別的に決済尻の均衡を計り、輸出は無爲替取引を豫想せず、凡て仕向國貨幣建荷爲替付又は現金取引とし、輸入の限度は積出國貨幣保有額の全額とするも、先づ其の三割に自由處分を許るし、殘餘は許可を要する事とし、此の目的の爲め右積出國仕向輸出の際、受取りたる外貨の七割を爲替基金に納入せしめ、其の代償として相當額の非貨を交附する。現實には右納入金を件ふ限り無爲替輸出も認めてゐる。

(ロ) 貿易外支拂に就ても嚴重な許可制とした。本制度の目的は各取引國との決済尻をば結局受取超過とならずとするも、支拂超過となるを免れんとするにあるが、其の反面現在の農業生産品の輸出を増進せざる限り、生産擴充の爲にする資材の輸入も不可能となるの循環論的矛盾に陥り、右資材の無爲替輸入を敢行する實力を有する在外商社が開發に著手せざる限り、積極的なチモール植民地の經濟的開發を期待する事は不可能である。殊にパーター制による取引に就ても、右爲替供託金の納入を要求するが如き、決して同島の繁榮に寄與する所以ではない。

七、交通及び通信

交通、通信

島外との交通及び通信

(一) 海上交通 唯一の開港場デリーは季節風と外洋の波浪とに對して安全な小灣で、港内の平均水深二〇米、五千噸級船舶の碇泊も可能であり、五百噸級船舶は長さ三十米の棧橋に横付けし得るが、錨地は狭小である。此の他左記碇泊地もあるが、孰れも船舶は外海に開放された海面に沖掛りせねばならぬ。

(イ) 北海岸 マウバラ、リキサ、マナツト、ヴェマッシ、ヴィラ・サラザール、ラガ、ノヴァ・アンコラ、ヴィラ・ノヴァ・マラカ、オクシ地方のヴィラ・タヴェイロ。

(ロ) 南海岸 ペソ、ベタノ、ベアソ、アリアンパータ、イリオマイル、ロレ。

和蘭王立汽船會社は一、五〇〇噸級貨客船二隻をスラバヤ(四週一回)、デリー間所要日數一〇日)マカッサル(二週

一回、デリー間所要日數五日)の定期航路に配船してゐるが、事實上の獨占なるが爲め運賃甚しく高率である。同社爪哇・濠洲線並に西貢・爪哇・ヌメア線も特別申込によりてはデリーにも寄港する。一九三六年以來、我が南洋興發株式會社の補助帆船(二四〇噸)は南洋群島パラオとの間、直行距離一、一七〇哩を五晝夜半で連絡してゐる。澳門連絡航路は政治的に重視されて居り、澳門政府から補助金を交付する筈であるが未だ實現を見てゐない。

(二) 陸上交通 七月乃至十一月の乾季にはクーバン、デリー間、四八〇杆の道路が交通可能となつてゐるが、定期的自動車連絡は行はれてゐない。

(三) 航空路 蘭領のクーバンは英濠航空路の要地であるが、デリー陸上飛行場は時に外國機の來訪があるだけである。一九三九年夏、濠洲航空相は連絡航空路開設の爲め、デリーを訪問してゐる。

(四) 通信 デリー無電局はクーバン、マカオ兩局經由世界各地と通信を交換してゐる。

#### 島内の交通及び通信

(一) 海上交通 上述の通り一九三八年一月以來、沿岸航海を官營として政府所有船オクシ號(八六噸、舊邦船)が運航してゐるが、沿岸航海條例並に右の方針にも拘らず、K・P・Mスラバヤ、チモール航路船はベソ、コレ、ヴィラ・サラザール等に寄港してゐる。

(二) 陸上交通 毎年賦役により修築される道路は雨季に多數の決潰箇所を生じ、且つ河川によりては橋梁なき爲め渡河不能となる場合が尠くない。乾期に於て輕貨物自動車を使用し得る道路は其の延長約九〇〇杆である。輸送機關としては矮馬が廣く用ひられ、又屯所長を通じて擔夫を雇傭することも出来る。鐵道の設けは全然ない。

通信

(三) 通信 有線電話が重要地を連絡し、其の延長一、六五六杆(一九三六年)である。

## 第二節 澳門

### 一、沿革

葡人の進出

十六世紀初頭馬來に進出した葡萄牙は、中葉極東に驛足を伸ばし、西曆一五四三年(天文十二年)には種子ヶ島に來著、又四九年(天文十八年)來朝したフランシスコ・シャヴィエルは、一五五二年(明の世宗嘉靖三十一年)支那に客死してゐる。此の嘉靖卅年代前半は倭寇の最も猖獗を極めた時で、餘勢は澳門・廣東にも及んだが、葡の援助はその頭目として有名なシャン・シー・ラウの討伐に寄與せる爲め、一五五七年(嘉靖卅六年)同地に居住を許された。其の後は權利確保の爲め多額の獻金を續けて來たが、一八四九年(清宣宗道光廿九年)之を廢止し、一八八七年(清德宗光緒十三年、明治廿年)葡清修好條約締結と同時に割讓を受けた。併し廣東との通商を禁ぜられた一六三一年を境とし、我國の鎖國令(一六三九年、寛永十六年)和蘭の支那貿易加入、西班牙より獨立せる結果たる比律賓貿易の禁止等により、更に一八四二年以來英領となつた香港の勃興と葡本國の衰微とにより、嘗ては西歐文化の直接影響の下に外國貿易の中心たりし澳門も、現在では政治的文化的に殆んど其の意義を失ひ、敗殘軍閥・退隱華僑の安住地・避暑地となり、公許賭博に「東洋のモナコ」の名を留めるに過ぎぬ。尤も支那事變後、對香港政策の反面として、新的意義を持つて來た。因に澳門の正式の名稱は、「神聖なる名稱の都市マカオ」である。